

授業科目名： 法学入門（国際法を含む。）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青野篤、秋山智恵子、小山敬晴、金康浩 担当形態：複数			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
個別法を学ぶにあたって必要な法学の基礎的知識を習得する。						
<b>授業の概要</b>						
法学関係の科目を学ぶための導入として、法学への興味と関心を引き出すとともに、公法・私法それぞれの分野の基礎的な事項について学ぶことをねらいとします。また国際法分野についても触れる予定です。						
<b>授業計画</b>						
第1回：法の基礎1（社会生活における法の役割・法と道徳・法の種類等）						
第2回：法の基礎2（法と裁判・法の解釈等）						
第3回：憲法の基礎（人権）						
第4回：憲法の基礎（統治機構）						
第5回：労働法の基礎						
第6回：国際法の基礎						
第7回：刑事法の基礎						
第8回：裁判制度						
第9回：私法の基礎						
第10回：民法の基礎1（所有権）						
第11回：民法の基礎2（契約）						
第12回：民法の基礎3（不法行為）						
第13回：民法の基礎4（家族）						
第14回：商法の基礎						
第15回：民事訴訟法の基礎						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
『法学六法'25』（信山社）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
小川富之ほか編著『法学一人の一生と法律とのかかわりー』（八千代出版、2018年）						
<b>学生に対する評価</b>						

定期試験 100%

授業科目名： 憲法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青野 篤			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
日本国憲法の人権保障システムを理解することがテーマです。到達目標は、日本国憲法がどのような人権をなぜ保障しているか、日本国憲法が保障する各種の人権の内容と限界、学説の対立点、重要判例の概要を説明できるようになることです。						
<b>授業の概要</b>						
日本国憲法が保障する各種の人権の意義・内容・限界について、学説・判例を踏まえて、講義します。この講義を通して、日本社会で生起しているさまざまな人権問題を日本国憲法の視点から理論的・客観的に分析できるように、その土台と概なる基礎的な知識と考え方を体系的に身につけることをねらいとします。						
<b>授業計画</b>						
第1回：職業選択の自由						
第2回：財産権						
第3回：思想・良心の自由						
第4回：表現の自由 1（意味・歴史・機能、知る自由と権利）						
第5回：表現の自由 2（報道機関の自由、表現内容規制・表現内容中立規制）						
第6回：信教の自由						
第7回：学問の自由						
第8回：生存権						
第9回：教育権						
第10回：労働権						
第11回：受益権						
第12回：幸福追求権						
第13回：法の下の平等						
第14回：人権の享有主体						
第15回：人権の到達範囲						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1人権〔第8版〕』（有斐閣、2022年）						

参考書・参考資料等

毎回の講義でレジュメを配布します。

学生に対する評価

小テスト40%・期末試験60%

授業科目名： 憲法II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青野 篤			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
日本国憲法の統治機構を理解することがテーマです。到達目標は、国会・内閣・裁判所の基本的な仕組みとその権限、法の支配・立憲主義・権力分立などの統治機構の基本原理、統治機構の重要な論点に関する学説の対立・重要判例の概要を説明できるようになることです。						
<b>授業の概要</b>						
国会・内閣・裁判所等の日本国憲法の統治機構とその基本原理に関する重要な論点について、学説・判例を踏まえて、講義します。この講義を通して、現在の日本の憲法政治のあり方を日本国憲法の視点から理論的・客観的に分析できるように、その土台となる基礎的な知識と考え方を体系的に身につけることをねらいとします。						
<b>授業計画</b>						
第1回：司法権の意義と限界 1（司法権の意義・法律上の争訟）						
第2回：司法権の意義と限界 2（司法権の限界）						
第3回：司法権の独立・組織・権能						
第4回：違憲審査制						
第5回：国会と内閣						
第6回：国会の権限						
第7回：内閣の権限						
第8回：国会と内閣の内部組織						
第9回：法の支配・権力分立						
第10回：国民主権						
第11回：有権者と国会						
第12回：選挙制度と選挙権						
第13回：天皇						
第14回：戦争の放棄						
第15回：地方公共団体の原理・組織・権能						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法2統治〔第8版〕』（有斐閣、2022年）						

参考書・参考資料等

毎回の講義でレジュメを配布します。

学生に対する評価

小テスト40%・期末試験60%

授業科目名：民法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 亀岡 鉄平			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」					
<p><b>授業のテーマ及び到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民法を素材として、論理的な思考力を養うことができる。</li> <li>・疑問を発見して、自分で解決する習慣と能力を身につけることができる。</li> <li>・法律に関する情報の調べ方を身につけることができる。</li> <li>・民法総則に関する基本的な法的知識を身につけることができる。</li> </ul>						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>私たちは日常生活の中で法律について意識することはほとんどありませんが、例えば日々の買い物や約束などの関係は、法律、特に民法に基づく関係として説明することもできます。その意味で、民法は最も私たちに身近な法律と言えます。この講義では、民法全体にわたる共通原則である民法総則について内容の解説を行います。講義に当たっては、民法の全体像（体系性）を意識するとともに、問題となる法的課題がなぜ発生することになったのかその社会背景にも目を向けていきたいと思います。民法総則の各テーマの基本的な知識の習得を目指すとともに、法的な思考力を身につけることを目標とします。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：はじめに（民法の基礎）</p> <p>第2回：私権の主体①（自然人について①：自然人とは何か、権利能力と行為能力の関係）</p> <p>第3回：私権の主体②（自然人について②：制限行為能力について）</p> <p>第4回：私権の主体③（法人について：法人の意義・種類、法人の設立・解散・運営など）</p> <p>第5回：私権の客体（民法における物の概念、物の種類（動産と不動産、主物と従物など））</p> <p>第6回：法律行為①（法律行為とは何か）</p> <p>第7回：法律行為②（意思表示を巡る諸問題①（心裡留保、虚偽表示など））</p> <p>第8回：法律行為③（意思表示を巡る諸問題②（錯誤、詐欺、強迫など））</p> <p>第9回：法律行為④（代理）</p> <p>第10回：法律行為⑤（無効と取消し）</p> <p>第11回：法律行為⑥（条件と期限、期間の計算方法）</p> <p>第12回：時効①（取得時効など）</p> <p>第13回：時効②（消滅時効など）</p> <p>第14回：法の解釈の方法論について①（解釈の方法）</p>						

第15回：法の解釈の方法論について②（解釈の方法を巡る議論）

定期試験

テキスト

山本敬三監修・香川崇・竹中悟人・山城一真『民法I—総則—（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣、2021年）、六法は要持参

参考書・参考資料等

上記の教科書で不足する部分については、理解を補う参考書を適宜紹介します。

学生に対する評価

期末試験（85%）、毎回の授業に対するコメントペーパーの提出（15%）

授業科目名： 民 法 II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 秋 山 智 恵 子			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」					
授業のテーマ及び到達目標  「物権法」（民法第175条～第398条の22）に関する基礎的な知識および重要論点に関する判例 ・学説の把握を目的とする。						
授業の概要  「物権法」の各条文の趣旨・要件・効果、関連する諸制度について解説する。						
授業計画  第1回：導入 第2回：物権変動概論 第3回：不動産物権変動 第4回：動産物権変動 第5回：所有権（1）取得・内容・限界 第6回：所有権（2）物権的請求権 第7回：占有権 第8回：用益物権—地上権・永小作権・地役権・入会権 第9回：担保物権概論 第10回：抵当権（1）抵当権の設定 第11回：抵当権（2）優先弁済権の実現 第12回：抵当権（3）根抵当権 第13回：質権 第14回：非典型担保 第15回：法定担保物権—留置権・先取特権 定期試験  テキスト 淡路剛久著『民法II—物権〔第5版〕』（有斐閣、2022年） 参考書・参考資料等 必ず小型の六法を持参して下さい（詳細は、開講時に指示します）。 学生に対する評価 期末試験（持ち込み不可）のみによって評価します（100%）。						

授業科目名： 民 法 III	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 秋 山 智 恵 子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標	「債権総論」（民法第399条～第520条の20）に関する基礎的な知識および重要論点に関する判例・学説の把握を目的とする。		
授業の概要	「債権総論」の各条文の趣旨・要件・効果、関連する諸制度について解説する。		
授業計画	第1回：導入 第2回：債権の種類 第3回：債権の効力 第4回：強制履行 第5回：債務不履行 第6回：責任財産の保全（1）債権者代位権 第7回：責任財産の保全（2）詐害行為取消権 第8回：多数当事者の債権関係（1）分割債権・不可分債権 第9回：多数当事者の債権関係（2）連帶債務 第10回：多数当事者の債権関係（3）保証 第11回：債権の移転（1）債権譲渡 第12回：債権の移転（2）債務引受 第13回：債権の消滅（1）弁済 第14回：債権の消滅（2）弁済による代位 第15回：債権の消滅（3）相殺		
定期試験			
テキスト	野村豊弘著『民法III—債権総論〔第4版〕』（有斐閣、2018年）		
参考書・参考資料等	必ず小型の六法を持参して下さい（詳細は、開講時に指示します）。		
学生に対する評価	期末試験（持ち込み不可）のみによって評価します（100%）。		

授業科目名：民法IV	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 亀岡 鉄平			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」					
<p><b>授業のテーマ及び到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民法を素材として、論理的な思考力を養うことができる。</li> <li>・疑問を発見して、自分で解決する習慣と能力を身につけることができる。</li> <li>・法律に関する情報の調べ方を身につけることができる。</li> <li>・債権各論に関する基本的な法的知識を身につけることができる。</li> </ul>						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>私たちは日常生活の中で法律について意識することはほとんどありませんが、例えば日々の買い物や約束などの関係は、法律、特に民法に基づく関係として説明することもできます。その意味で、民法は最も私たちに身近な法律と言えます。この講義では、債権の後半に当たる債権各論について内容の解説を行います。債権各論の大きなテーマは契約と不法行為です。講義に当たっては、民法の全体像（体系性）を意識するとともに、問題となる法的課題がなぜ発生することになったのかその社会背景にも目を向けていきたいと思います。債権各論の各テーマの基本的な知識の習得を目指すとともに、法的な思考力を身につけることを目標とします。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：はじめに、契約の成立</p> <p>第2回：契約の効力</p> <p>第3回：契約の解除</p> <p>第4回：贈与、売買（1、売買の成立）</p> <p>第5回：売買（2、売買の効力）、消費貸借</p> <p>第6回：使用貸借、賃貸借</p> <p>第7回：労務提供型の契約</p> <p>第8回：その他の契約</p> <p>第9回：事務管理・不当利得（1、侵害利得）</p> <p>第10回：不当利得（2、給付利得など）</p> <p>第11回：不法行為の意義、不法行為の要件（1、違法性など）</p> <p>第12回：不法行為の要件（2、因果関係など）</p> <p>第13回：不法行為の効果（1、損害賠償の方法など）</p> <p>第14回：不法行為の効果（2、損害賠償請求権など）、特殊な不法行為（1、使用者責任など）</p>						

第15回：特殊な不法行為（2、工作物責任など）

定期試験

テキスト

青野博之・谷本圭子・久保宏之・下村正明『新プリメール民法4—債権各論〔第2版〕一』（法律文化社、2020年）、六法は要持参

参考書・参考資料等

上記の教科書で不足する部分については、理解を補う参考書を適宜紹介します。

学生に対する評価

期末試験（85%）、毎回の授業に対するコメントペーパーの提出（15%）

授業科目名： 労働法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山敬晴 担当形態：単独					
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」							
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>労働法という法分野の存在意義を理解すること。</p> <p>労働法の条文および判例法理の内容を理解すること。</p> <p>法的思考方法を実践できるようになること。</p> <p>法学的文章を記述できるようになること。</p>								
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、「労働法Ⅱ」「労働法Ⅲ」と併せて日本の労働法の全体像を理解できるよう行います。「労働法Ⅰ」では、労働法の総則として、労働法の適用対象となる労働者・使用者の範囲、女性、非正規雇用に焦点をしぼって解説を行います。また、採用内定、労働時間など、就職活動やアルバイトを行う大学生にとって必要な労働法の知識についても解説します。</p>								
<p>授業計画</p> <p>第1回：労働法の歴史</p> <p>第2回：労働法の存在意義</p> <p>第3回：労働法の適用範囲：労働基準法・労働契約法上の労働者性</p> <p>第4回：労働法の適用範囲：労働組合法上の労働者性</p> <p>第5回：労働法の適用範囲：使用者性</p> <p>第6回：労働者と自営業者</p> <p>第7回：労災補償</p> <p>第8回：男女雇用機会均等法</p> <p>第9回：女性労働と母性保護</p> <p>第10回：非正規労働者の雇止め規制、無期転換権</p> <p>第11回：正規・非正規間待遇格差</p> <p>第12回：労働者派遣</p> <p>第13回：採用内定</p> <p>第14回：労働時間・休憩・休日の法規制</p> <p>第15回：労働者協同組合</p> <p>定期試験</p>								
<p>テキスト</p> <p>本久洋一ほか編著『労働法の基本〔第2版〕』（法律文化社、2021年）</p>								

参考書・参考資料等

ポケット六法またはデイリー六法

学生に対する評価

定期試験 100%

授業科目名： 労働法II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山敬晴 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
労働基準法、労働契約法の存在意義を理解すること。 労働基準法、労働契約法の条文および判例法理の内容を理解すること。 法的思考方法を実践できるようになること。 法学的文章を記述できるようになること。						
<b>授業の概要</b>						
本講義は、「労働法I」、「労働法III」と併せて日本の労働法の全体像を理解できるように行います。「労働法II」では、大卒者が民間企業に就職して雇用を終了するまでの雇用の各ステージで生じることのある法律問題をとりあげ、それに関する条文と判例の内容を解説します。						
<b>授業計画</b>						
第1回：雇用のステージ						
第2回：労働契約の成立						
第3回：労働条件決定のプロセス						
第4回：労働者の権利・義務						
第5回：労働契約の個別的変更						
第6回：労働契約の集団的変更：労働協約						
第7回：労働契約の集団的変更：就業規則						
第8回：労働契約の当事者の拡張・変動						
第9回：労働契約の終了：辞職・解雇・合意解約						
第10回：労働契約の終了：解雇権濫用法理						
第11回：賃金に関する法規制						
第12回：長時間労働の法規制						
第13回：弾力的労働時間制度：変形労働時間制、事業場外みなし労働時間制						
第14回：弾力的労働時間制度：フレックスタイム制、裁量労働制、高度プロフェッショナル制度						
第15回：働き方改革と世界の労働法改革						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
本久洋一ほか編著『労働法の基本〔第2版〕』（法律文化社、2021年）						
参考書・参考資料等						

令和7年版ポケット六法（有斐閣）または令和7年版デイリー六法（三省堂）

学生に対する評価

期末試験 100%

授業科目名： 労働法III	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小山敬晴 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>労働組合法の存在意義を理解すること。</p> <p>労働組合法の条文および判例法理の内容を理解すること。</p> <p>法的思考方法を実践できるようになること。</p> <p>法学的文章を記述できるようになること。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、「労働法Ⅰ」、「労働法Ⅱ」と併せて日本の労働法の全体像を理解できるよう行います。「労働法Ⅲ」では、労働組合法を扱い、憲法で労働者に保障されている団結権の具体的な内容を解説します。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：労働法の存在意義</p> <p>第2回：団結権の歴史</p> <p>第3回：労働基本権</p> <p>第4回：公務員の団結権</p> <p>第5回：労働組合の結成</p> <p>第6回：労働組合の内部関係</p> <p>第7回：不当労働行為制度</p> <p>第8回：不利益取扱い・支配介入</p> <p>第9回：組合活動</p> <p>第10回：団体交渉</p> <p>第11回：誠実交渉義務</p> <p>第12回：労働協約</p> <p>第13回：争議行為・争議権</p> <p>第14回：違法争議の責任</p> <p>第15回：労働紛争の調整</p>						
<p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>西谷敏『労働組合法〔第3版〕』（有斐閣、2012年）</p> <p>参考書・参考資料等</p>						

令和7年版ポケット六法（有斐閣）または令和7年版デイリー六法（三省堂）

学生に対する評価

期末試験 100%

授業科目名： マクロ経済学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高見博之			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
授業のテーマはマクロ経済学の基本的な概念を説明することである。到達目標は、第一に、財サービス市場や貨幣市場における需要と供給を説明できること、第二に、乗数効果を説明できること、第三に、経済モデルに基づき、財政金融政策の効果について説明できることである。						
<b>授業の概要</b>						
はじめて経済学を学ぶ学生が、経済学、特にマクロ経済学の基礎的な知識や考え方を理解し、専門分野を学習するときに経済学を適用できる基礎力を修得する。そして、現実の経済問題について論理的に考える力を持つこと。						
<b>授業計画</b>						
第1回：マクロ経済学とは						
第2回：マクロ経済学のとらえ方(1) 国際経済の視点（貿易・為替レートとマクロ経済の波及効果）						
第3回：マクロ経済学のとらえ方(2) GDPとは						
第4回：マクロ経済における需要と供給						
第5回：財・サービス市場：有効需要と乗数メカニズム						
第6回：資産（貨幣）市場 (1) 貨幣供給と信用乗数						
第7回：資産（貨幣）市場 (2) 貨幣需要と利子率						
第8回：有効需要と乗数メカニズム						
第9回：財政政策の基本構造(1) 乗数						
第10回：財政政策の基本構造(2) 公債の負担の問題						
第11回：財政・金融政策とマクロ経済：政策目標・政策手段と国際経済（貿易問題）						
第12回：財政・金融政策のメカニズム(1) 金融政策と有効需要						
第13回：財政・金融政策のメカニズム(2) 財政政策とクラウディング・アウト効果						
第14回：財政・金融政策のメカニズム(3) IS-LM分析と財政政策						
第15回：財政・金融政策のメカニズム(4) IS-LM分析と金融政策						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
『マクロ経済学 第2版』伊藤元重著（日本評論社）						
参考書・参考資料等						

『マクロ経済学・入門 第5版』福田慎一 照山博司著（有斐閣アルマ）

『マンキュー マクロ経済学 入門篇 第4版』N.G. マンキュー著（東洋経済新報社）

学生に対する評価

期末テスト：70% 小レポート：30%

授業科目名： ミクロ経済学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村山悠・小野宏			
担当形態： クラス分け・単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
この授業のテーマはミクロ経済学の基本的な概念を説明することである。到達目標は、第一に、市場という概念について具体的なイメージを形成できるようになること、第二に、需要と供給の理論を理解し、価格形成について説明できるようになること、第三に、市場の役割と市場の問題点を説明できるようになることである。						
<b>授業の概要</b>						
ミクロ経済学はマクロ経済学とともに理論経済学の基礎理論となるものであり、私たちの日常生活に深くかかわった経済問題を考える際の判断材料を提供してくれる。この授業では、消費者や企業がどのように行動し、また市場でどのように価格や取引量が決定されるかについて取り上げる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ミクロ経済学とは						
第2回：需要と供給(1) 需要・供給曲線						
第3回：需要と供給(2) 価格変動と需要・供給曲線のシフト						
第4回：需要と供給(3) 地価・消費税への応用						
第5回：需要曲線と消費者行動(1) 需要曲線の構造						
第6回：需要曲線と消費者行動(2) 市場需要と消費者余剰						
第7回：費用の構造と供給行動(1) 供給曲線と費用曲線						
第8回：費用の構造と供給行動(2) 利潤最大化行動						
第9回：市場取引と資源配分(1) 米価問題						
第10回：市場取引と資源配分(2) 間接税の影響						
第11回：市場取引と資源配分(3) 国際経済の視点(自由貿易の利益)						
第12回：企業の参入・退出行動(1) 完全競争市場の長期均衡						
第13回：企業の参入・退出行動(2) 参入・退出による調整						
第14回：無差別曲線と効用						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト						

『ミクロ経済学 第3版』 伊藤元重著 日本評論社

参考書・参考資料等

講義中に適時紹介する。

学生に対する評価

定期試験：70% 小テスト・レポート等：30%

授業科目名： 初級政治経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：海 大汎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：市場経済と資本主義</li> <li>・到達目標：本講義は、「政治経済学」の初級編として市場経済と資本主義の基本的な仕組みを理解することを目的とする。</li> </ul>						
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、資本主義の母体としての西洋文明の大まかな特徴を踏まえて、政治経済学（Political Economy）の成立背景を理解し、そのうえで政治経済学の基礎知識と現代資本主義の動態について学習する。本講義の前半では、市場経済の構成ファクターと資本主義の形成原理について学ぶ。また後半では、現代資本主義を特徴づける経済の金融化をテーマとして、資本主義経済の現状と将来について考えてみる。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業ガイダンス</p> <p>第2回：政治経済学とは</p> <p>第3回：市場経済の理念と現実</p> <p>第4回：モノと商品</p> <p>第5回：貨幣生成の論理</p> <p>第6回：貨幣の役割</p> <p>第7回：資本とは何か</p> <p>第8回：労働力商品と賃金形態</p> <p>第9回：資本の生産過程</p> <p>第10回：資本主義の物神性と特殊歴史性</p> <p>第11回：市場経済は善玉か悪玉か</p> <p>第12回：資本主義 対 社会主義</p> <p>第13回：現代資本主義の金融経済化とグローバリゼーション</p> <p>第14回：脱資本主義の二つの局面—福祉国家と新自由主義</p> <p>第15回：新しい社会への展望</p> <p>定期試験 [※代替：学期末レポート提出]</p>						
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・永谷清(著)『市場経済という妖怪—『資本論』の挑戦と現代』（2013）社会評論社。</li> <li>・伊藤誠(著)『入門 資本主義経済』（2018）平凡社。</li> </ul>						

参考書・参考資料等

資料を適宜配布する。

学生に対する評価

- ・ 40%＝テスト×2回
- ・ 40%＝学期末レポート
- ・ 20%＝授業への参加度

授業科目名： 政治経済学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：海 大汎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：資本主義的生産様式の成立と展開</li> <li>・到達目標：本講義では、「政治経済学」の中級編として商品・貨幣・資本の内的原理を理解するとともに、資本主義的生産様式の運動法則を把握することを目的とする。</li> </ul>						
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、『資本論』第1部の内容を踏まえて、マルクスの資本主義観及び資本主義経済の内的傾向について解説する。資本主義経済の理論を学ぶことによって、受講者には、経済現象の法則性を理解し、現代社会の諸問題を把握できる力量の涵養を期待する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業ガイダンス</p> <p>第2回：商品とは何か—商品の2つの要因</p> <p>第3回：商品の価値規定</p> <p>第4回：価値形態と交換過程—商品から貨幣へ</p> <p>第5回：貨幣の基本的機能—商品流通の契機</p> <p>第6回：貨幣の派生的機能—貨幣としての貨幣</p> <p>第7回：貨幣の資本への転化—価値増殖の謎</p> <p>第8回：剩余価値の発生メカニズム</p> <p>第9回：絶対的剩余価値の生産</p> <p>第10回：特別剩余価値の生産</p> <p>第11回：相対的剩余価値の生産</p> <p>第12回：生産様式と労働者統合</p> <p>第13回：賃金と雇用</p> <p>第14回：単純再生産と拡大再生産</p> <p>第15回：資本蓄積と相対的過剰人口</p> <p>定期試験〔※代替：学期末レポート提出〕</p>						
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森田成也著『[新編]マルクス経済学再入門—商品・貨幣から独占資本まで〈上巻〉』（2019年）社会評論社。</li> </ul>						
<p>参考書・参考資料等</p> <p>資料を適宜配布する。</p>						

学生に対する評価

- ・ 40% = テスト × 2回
- ・ 40% = 学期末レポート
- ・ 20% = 授業への参加度

授業科目名： 政治経済学II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：海 大汎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ：資本主義経済の構造と動態</li> <li>・到達目標：本講義は、「政治経済学」の上級編として資本の運動の全体像を理解するとともに、その総体として導き出される資本主義経済の諸法則を把握することを目的とする。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本講義では、『資本論』第2部・第3部の内容を踏まえて、マルクスの資本主義観及び資本主義経済の内的傾向について解説する。資本主義経済の理論を学ぶことによって、受講者には、経済現象の法則性を理解し、現代社会の諸問題を把握できる力量の涵養を期待する。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：授業ガイダンス						
第2回：個別資本の循環						
第3回：運輸と通信						
第4回：流通費と実現利潤						
第5回：個別資本の回転						
第6回：社会的総資本の再生産Ⅰ－単純再生産						
第7回：社会的総資本の再生産Ⅱ－蓄積と拡大再生産						
第8回：資本利潤と利潤率						
第9回：標準利潤率と生産価格						
第10回：利潤率の傾向的低下と長期波動						
第11回：商業資本と商業利潤						
第12回：利子生み資本と信用						
第13回：株式会社と法人資本						
第14回：土地所有と地代取得資本						
第15回：独占資本						
定期試験〔※代替：学期末レポート提出〕						
<b>テキスト</b>						
・森田成也著『[新編]マルクス経済学再入門—商品・貨幣から独占資本まで〈下巻〉』（2019年）社会評論社。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
資料を適宜配布する。						

学生に対する評価

- ・ 40% = テスト × 2回
- ・ 40% = 学期末レポート
- ・ 20% = 授業への参加度

授業科目名： 経済数学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中本裕哉			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
授業のテーマ及び到達目標						
経済理論の理解や経済分析に必要となる入門的な数学スキルを修得する。						
授業の概要						
経済理論の理解や経済分析には数学が必要不可欠である。本講義では経済学を学ぶ上で必要となる入門的な数学（主に微分積分、線形代数）について、多くの練習問題や小テストを解いて数学スキルの修得を目指す。また、数学スキルと経済分析のつながりを理解することで、経済学を学ぶための大きな一歩を踏み出すことを目的とする。						
授業計画						
第1回：ガイダンス						
第2回：関数						
第3回：均衡分析						
第4回：指数・対数						
第5回：数列						
第6回：導関数						
第7回：1変数の微分						
第8回：中間試験と解説						
第9回：多変数の微分						
第10回：偏微分						
第11回：全微分						
第12回：最適化						
第13回：等式制約のもとでの最適化						
第14回：ベクトルと行列						
第15回：行列演算						
定期試験						
テキスト						
教科書を指定しない						
参考書・参考資料等						
A. C. チャン・K. ウエインライト『現代経済学の数学基礎（上）第4版』彩流社, 2020年						

学生に対する評価

小テスト（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）

授業科目名： 統計学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中本裕哉			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
記述統計および確率論と確率分布の基礎を修得する。 推定や仮説検定の基礎を修得する。 統計的手法を用いて、現実社会における経済事象の分析とその結果の解釈ができる。						
<b>授業の概要</b>						
統計学は「科学の文法である」と表現されるように、今日の科学において重要な役割を果たしている。また、私たちの身の回りにも統計学が関わっている物事（例えば、生命保険料の計算、選挙結果の速報、ワクチンの効果の判定など）で溢れている。本講義では、統計学の基礎を学び、様々な統計が出るまでのプロセスを正しく理解し、現実社会における経済事象を公正かつ適切に分析・解釈することを目的とする。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：度数分布とヒストグラム						
第3回：データの整理I：平均、分散、標準偏差						
第4回：データの整理II：相関係数						
第5回：確率						
第6回：確率変数I：確率分布						
第7回：確率変数II：確率変数の期待値と分散						
第8回：様々な確率分布						
第9回：母集団と標本						
第10回：区間推定I：母分散既知						
第11回：区間推定II：母分散未知						
第12回：仮説検定I：両側検定						
第13回：仮説検定II：片側検定						
第14回：回帰分析						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						

教科書を指定しない

参考書・参考資料等

小島寛之『統計学入門』 ダイヤモンド社、2006年、森棟公夫ほか著『統計学（改訂版）』 有斐閣、2015年

学生に対する評価

小テスト（30%）、レポート課題（30%）、期末試験（40%）

授業科目名： 経済統計学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中本裕哉			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<p><b>授業のテーマ及び到達目標</b></p> <p>国民経済計算体系の基礎を修得する。</p> <p>マクロ経済モデルを修得する。</p> <p>マクロ経済モデルに基づく経済分析と経済事象の考察ができる。</p>						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>国民経済計算(SNA: System of National Accounts)は経済活動を測定する国際的な体系である。本講義では国民経済計算(SNA)を中心に、それらの数値がどのような社会経済現象の実態を捉えているのか理解する。さらに、産業連関表の仕組みや産業連関モデルについて学習し、産業連関分析手法を修得する。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：国民経済計算とは？</p> <p>第3回：国民経済計算体系</p> <p>第4回：物価指数・数量指数I：パーセンテージ指数</p> <p>第5回：物価指数・数量指数II：ラスパイレス指数</p> <p>第6回：産業連関表I：産業連関表のしくみ</p> <p>第7回：産業連関表II：投入係数と付加価値係数</p> <p>第8回：産業連関モデルI：レオンチエフ逆行列</p> <p>第9回：産業連関モデルII：影響力係数と感応度係数</p> <p>第10回：産業連関モデルIII：輸入係数と競争輸入型モデル</p> <p>第11回：産業連関モデルIV：生産誘発係数と粗付加価値誘発係数</p> <p>第12回：接続産業連関表</p> <p>第13回：環境勘定</p> <p>第14回：グローバルサプライチェーン</p> <p>第15回：グリーンサプライチェーンと環境負荷</p> <p>定期試験</p>						
<p><b>テキスト</b></p> <p>教科書を指定しない</p>						

参考書・参考資料等

土居英二ほか著『はじめよう地域産業連関分析』日本評論社、2019年

学生に対する評価

小テスト（30%）、期末試験（70%）

授業科目名： 社会調査法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中本裕哉			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>社会調査の基礎を修得する。</p> <p>調査データに統計分析を活用し、問題に対する解決策を議論する。</p>						
<p>授業の概要</p> <p>世論調査、市場調査、アンケート調査などの社会調査に触れる機会が多い。しかしながら、そのような社会調査の方法や調査結果の解釈は必ずしも正しいとは限らない。重要なことは調査結果を公正かつ適切に解釈することである。本講義では、調査票調査を対象に社会調査の基礎的な方法論を修得する。さらに、実際に調査を行い、得られた調査データに統計分析を活用することで、問題に対する解決策を議論する。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：社会調査の企画I：講義</p> <p>第3回：社会調査の企画II：グループ演習</p> <p>第4回：調査の設計I：講義</p> <p>第5回：調査の設計II：グループ演習</p> <p>第6回：ランダムサンプリング</p> <p>第7回：実査I：講義</p> <p>第8回：実査II：グループ演習</p> <p>第9回：統計分析I：講義</p> <p>第10回：統計分析II：グループ演習</p> <p>第11回：調査データの分析I：講義</p> <p>第12回：調査データの分析II：グループ演習</p> <p>第13回：報告書の作成I：講義</p> <p>第14回：報告書の作成II：グループ演習</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>						
<p>テキスト</p> <p>教科書を指定しない</p>						

参考書・参考資料等

盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣、2004年、大谷信介ほか著『（第2版）社会調査へのアプローチ—論理と方法』ミネルヴァ書房、2005年

学生に対する評価

小テスト（20%）、プレゼンテーション（10%）、レポート課題（70%）

授業科目名： 国際貿易論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：柴田 茂紀 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1) 国際貿易が過去から現在まで、どのように展開してきたのか理解する。 2) 国際貿易理論の意味と背景、その現実性を理解する。						
<b>授業の概要</b>						
国際貿易に関するニュースの意味や背景を理解し、自分で考えるための分析視角を学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：国際貿易論の範囲						
第2回：国際貿易論の基礎理論1（絶対優位と比較優位）						
第3回：国際貿易論の基礎理論2（ヘクシャー＝オリーン・モデルとその後の展開）						
第4回：国際貿易の歴史と理論						
第5回：国際貿易の歴史と制度						
第6回：現在の国際貿易システム						
第7回：進展する地域間貿易						
第8回：中間のまとめとテスト						
第9回：国際収支とは何か						
第10回：国際収支から見えるもの						
第11回：為替レートと国際貿易との関係						
第12回：直接投資の考え方						
第13回：直接投資と国際貿易との関係						
第14回：事例紹介						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
教員が作成する授業用配布資料に基づく						
参考書・参考資料等						
授業中に適宜資料を紹介する						
学生に対する評価 平常点（60%）、期末試験（40%）						

授業科目名： 世界経済論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：柴田 茂紀 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
1) 世界経済の展開を理解する。 2) 近年の世界経済の特徴を理解する。						
<b>授業の概要</b>						
世界経済に関するニュースの意味や背景がわかり、自分で考えるための分析視角を学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：世界経済論の分析対象						
第2回：グローバル化の特色と変化						
第3回：技術革新とグローバル化						
第4回：情報化とグローバル化						
第5回：経済格差とグローバル化						
第6回：「コーヒー」から考えるグローバル化						
第7回：フェアトレードの課題と可能性						
第8回：「カネ」の移動から考えるグローバル化						
第9回：為替レートの考え方（円高と円安、名目為替レートと実効為替レート）						
第10回：為替レートの基礎理論（購買力平価とアセットアプローチ）						
第11回：為替制度（変動相場制と固定相場制）						
第12回：国際経済統計の分析方法						
第13回：「Tシャツ」から考えるグローバル化						
第14回：グローバル経済の事例紹介						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
教員が作成する授業用配布資料に基づく						
参考書・参考資料等						
授業中に適宜資料を紹介する						
学生に対する評価 平常点（60%）、期末試験（40%）						

授業科目名： 開発経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村 雄一			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
貧富の地域差を説明する要因は何かを理解する。世界の繁栄地域と停滞地域について、過去50年ほどの長期にわたる政治体制と経済制度形成について理解する。国内の階級闘争を軸に、また大国による各地域への介入、それが各地域での制度形成にどう影響したか、という広い視野で考えることを目標とする。						
<b>授業の概要</b>						
経済学の歴史制度分析は、経済的繁栄と停滞の地域差を、市場経済の発達と民主的な政治体制の形成が相互に強化し合う「包括的」制度形成、その結果としてのイノベーションと産業革命、逆に市場の未発達と独裁的な政治体制が相互に強化し合う「収奪的」制度形成など、国家の制度進化の違いで説明しようとする。歴史学は、16世紀以降、西ヨーロッパが奴隸を含む世界貿易を支配し、18世紀以降は植民地の収奪から莫大な利益を上げたことに根拠を求める。制度分析と歴史学の主張は整合的に理解できるだろうか？そして貧富の地域差の理由をどう説明できるか？						
<b>授業計画</b>						
第1回：問題設定：世界の所得水準分布						
第2回：厚生評価の基準、社会厚生と所得分配						
第3回：制度分析：制度の経済学 戸堂9章						
第4回：制度分析：制度の経済学 戸堂10章						
第5回：経済制度形成と経済的繁栄・停滞の地域差 Acemoglu and Robinson 3章						
第6回：経済制度形成と経済的繁栄・停滞の地域差 Acemoglu and Robinson 4章						
第7回：市場アクセスと政治制度形成 Acemoglu et al. 2005						
第8回：国家秩序、法の支配とはどのように形成されるのか：North et al. 2009						
第9回：東アジアの奇跡（台湾、韓国、シンガポール、中国）20世紀						
第10回：日本帝国と東アジアの成長、開発独裁、民主化（台湾、韓国、中国）						
第11回：アフリカの停滞はなぜ起きたか？						
第12回：イギリス帝国の支配は南アジアの成長にどう影響したか？						
第13回：「運命の逆転」はなぜ起きたか？ オスマン帝国崩壊						

第14回：国家秩序の崩壊、経済的に停滞はなぜ起きるか？ 中東

第15回：論点整理：民主・独裁・国家秩序、繁栄と停滞の地域差はなぜ起きるか？

#### 定期試験

##### テキスト

D.アセモグル、J.ロビンソン『なぜ国家は衰退するのか：権力・繁栄・貧困の起源（上）』早川書房。3,4章。

戸堂康之。2021.『開発経済学入門 第2版』新世社 9,10章。

Acemoglu, Johnson, Robinson. 2005 “The Rise of Europe: Atlantic Trade, Institutional Change, and Economic Growth.” American Economic Review 95(3).

Douglas C. North. et al. 2009.『暴力と社会秩序：制度の歴史学のために』みすず書房, 2,6章。

##### 参考書・参考資料等

秋田茂。2020.『イギリス帝国の歴史』中公新書。

福田邦夫。2020.『貿易の世界史』ちくま新書。

伊藤潔。1993.『台湾一四百年の歴史と展望』中公新書。

木宮正史。2003.『韓国一民主化と経済発展のダイナミズム』ちくま新書。

井上勝生。2006.『幕末・維新』岩波新書。

吉澤誠一郎。2010.『清朝と近代世界—19世紀』岩波新書。

Economic History of Africa, Wikipedia

吉田 敦。2020.『アフリカ経済の真実—資源開発と紛争の論理』ちくま新書。

宮本正興、松田素二。2018.『新書 アフリカ史』講談社現代新書。

辛島昇。2021.『インド史 南アジアの歴史と文化』角川ソフィア文庫。

牟田口義郎。2013.『物語 中東の歴史』中公新書。

小笠原弘幸。2018.『オスマン帝国 繁栄と衰亡の600年史』中公新書。

林佳代子。2008.『興亡の世界史 オスマン帝国 500年の平和』講談社学術文庫。

末近浩太。2020.『中東政治入門』ちくま新書。

##### 学生に対する評価

期末試験。

Moodleを使った毎回のコメント・質問に1点加点。

授業科目名： 開発ミクロ経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 木村 雄一			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
貧困の原因と貧困削減について、1) 各トピックの議論の内容を把握する。2) 研究方法 - 問題設定、実証分析、結果と解釈方法について理解を得ること。						
目標 1 貧困の原因と貧困削減について、1) 各トピックについて重要な問題設定を把握する。						
目標 2 2) 実証ミクロ経済学の実証研究の方法に触れる。						
<b>授業の概要</b>						
開発ミクロ経済学のスター研究者 2 人による研究サーベイ『貧乏人の経済学』から、貧困の原因と低所得層の厚生改善について、最近 20 年ほどに蓄積された新しい知見を学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
第1回：B-D 1章 貧困の罠と永続的貧困、マイクロデータ と実験経済学						
第2回：B-D2章 栄養の貧困の罠？（1）： 栄養摂取の不足による貧困の罠は永続的貧困の原因になっているか						
第3回：B-D2章 栄養の貧困の罠？（2）： 栄養摂取の不足による貧困の罠は永続的貧困の原因になっているか						
第4回：教育投資（1）子どもへの教育投資はどのように決まるか：教育のミクロ経済学						
第5回：教育投資（2）キュメンタリー『バーミヤンの少年』教育投資と資金 制約						
第6回：教育投資（3）教育のエリートバイアス；教育投資の男女差はなぜ生まれるか？Duflo スライド1						
第7回：教育投資（4）： 教育のエリートバイアス；教育投資の男女差はなぜ生まれるか？Duflo スライド2						
第8回：ディスカッション						
第9回：女性の労働供給と社会的地位（1）： Robert Jensen QJE 2012						
第10回：女性の労働供給と社会的地位（2）： Robert Jensen QJE 2012						
第11回：女性の労働供給と社会的地位（3）： The Economist (July 7th 2018) How India Fails Its Women.						
第12回：B-D 5章 出産選択と所得（1）：子沢山が低所得の原因になっているか？						
第13回：B-D 5章 出産選択と所得（2）：子沢山が低所得の原因になっているか？						

第14回：B-D 5章 出産選択と所得（3）：子沢山が低所得の原因になっているか？

第15回：ディスカッション

定期試験

テキスト

アビジット・バナジー、エスター・デュフロ 2011『貧乏人の経済学：もう一度貧困を根っこから考える』みすず書房. (Abijit Banerjee and Esther Duflo 2009. Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty. PublicAffairs.)

参考書・参考資料等

The Economist “Indian schools: Now make sure they can study” (June 10th 2017).

“How India fails its women?” (July 7th 2018)

Robert Jensen 2012, “Do Labor Market Opportunities Affect Young Women’s Work and Family Decisions?” Quarterly Journal of Economics.

社会規範の持続・変化 (Moral persistence) について諸論文

学生に対する評価

期末試験。

Moodle を使った毎回のコメント・質問に 1 点加点。

授業科目名： EUの政治経済	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： ディ スティーブン
担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

#### 授業のテーマ及び到達目標

このコースの目的は、自分を取り巻く世界を認識・理解し、大学卒業後の生活に必要な一連の分析能力を身につけた、国際感覚を持った市民を育成することです。このコースでは、調査（証拠集め）を行い、情報に基づいた意見や判断を展開し表現する能力を身につけます。また、メディアリテラシーのスキルも向上させます。これは、信頼できる情報源とフェイクニュースを区別する際に役立ちます。また、文書による報告や口頭での報告を行う能力も、この授業で身につけることができます。

#### 授業の概要

上記のスキルを養い、学生の興味を引くために、このコースではインタラクティブな学習アプローチを採用します。ワークシートやクイズを通して、ディスカッションや様々なメディアを活用し、問題解決を促します。グループワークによるプレゼンテーションでは、チームワーク、オーラシー、リサーチスキルを促進します。これにより、知識の応用が容易になります。また、各授業の感想を日記に書くことで、振り返りの機会を増やします。教材は英語と日本語で提供されます。

#### 授業計画

第1回：入門の概要 - EUとは何か？

第2回：批判的に考える

第3回：1945年以前のヨーロッパにおける平和の哲学的・歴史的探求

第4回：戦争の灰の中から・欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC)

第5回：欧州経済共同体(EEC)の設立

第6回：1992年以降の欧州連合(EU)

第7回：自由貿易協定(FTA)から欧州合衆国へ

第8回：欧州統合に関する理論

第9回：EUの主要機関

第10回：EUの主要政策・单一市場、単一通貨

第11回：EUの主要政策 - EUの市民権

第12回：ケーススタディ - 欧州議会選挙

第13回：ケーススタディ - なぜ英国はEUから離脱 (Brexit) したのか？

第14回：ケーススタディ - ブレグジット後のEU-英国関係

第15回：EUの未来は？

**定期試験****テキスト**

John Pinder and Simon Usherwood (2018), *The European Union: a very short introduction*, (4th edition) Oxford: OUP

**参考書・参考資料等**

Michelle Cini and Nieves Pérez-Solórzano Borragán (eds.) (2022) European Union Politics, Oxford University Press (Seventh Edition)

『EU――欧州統合の現在（第4版）』創元社。2020

**学生に対する評価**

Group presentation 30%. Final Assessment 20%. Class based work 50%

授業科目名： グローバル・スタディ入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： デイ スティーブン			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<p><b>授業のテーマ及び到達目標</b></p> <p>このコースの目的は、自分を取り巻く世界を認識・理解し、大学卒業後の生活に必要な一連の分析能力を身につけた、国際感覚を持った市民を育成することです。このコースでは、調査（証拠集め）を行い、情報に基づいた意見や判断を展開し表現する能力を身につけます。また、メディアリテラシーのスキルも向上させます。これは、信頼できる情報源とフェイクニュースを区別する際に役立ちます。また、文書による報告や口頭での報告を行う能力も、この授業で身につけることができます。</p>						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>上記のスキルを養い、学生の興味を引くために、このコースではインタラクティブな学習アプローチを採用します。ワークシートやクイズを通して、ディスカッションや様々なメディアを活用し、問題解決を促します。グループワークによるプレゼンテーションでは、チームワーク、オーラシー、リサーチスキルを促進します。これにより、知識の応用が容易になります。また、各授業の感想を日記に書くことで、振り返りの機会を増やします。教材は英語と日本語で提供されます。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：入門の概要</p> <p>第2回：クリティカル・シンキング入門</p> <p>第3回：政治・経済の変化を説明する</p> <p>第4回：ケインズ主義、新自由主義</p> <p>第5回：冷戦と1989年の再検討</p> <p>第6回：世界金融危機（2007-2009年）の再検証</p> <p>第7回：政治的グローバル化</p> <p>第8回：経済のグローバル化</p> <p>第9回：文化のグローバル化</p> <p>第10回：グローバリゼーションの解釈 - 3つの異なる学派</p> <p>第11回：国境と国家のアイデンティティをめぐる議論</p> <p>第12回：グローバルなリスクに立ち向かう - 気候変動</p> <p>第13回：グローバルなリスクに立ち向かう - 富の不平等</p> <p>第14回：グローバル・ガバナンス</p> <p>第15回：グローバリゼーションの次なる展開は？</p>						

定期試験

テキスト

参考書・参考資料等

Manfred B. Steger and Paul James, Globalization Matters: Engaging the Global in Unsettled Times, Cambridge University Press, 2019

学生に対する評価

Group presentation 30%. Final Assessment 20%. Class based work 50%

授業科目名： 労使関係論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石井まこと			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
日本の労使関係の諸特徴を説明できる。 労使関係の発展史を説明できる。 労使関係を自分事の問題とし、解決に向けた行動の重要性を理解できる。						
<b>授業の概要</b>						
労働条件は、たとえば春闘のように労働組合と企業の交渉＝集団的労使関係で決まっていきますが、近年、こうした集団的な決定が衰退化し、労働市場における個別での決定に傾いています。この授業ではこうした個別化が労働者と社会に与える影響を考えていきます。						
そのために、まず、労使関係によって労働条件が変化することを理解し、労使関係の発展史を検討し、あわせて国際比較により日本の労使関係の特徴を紹介していきます。その上で、ワークショップ形式により、労使関係が我々の人生のなかで、いかなる可能性を持ちうるのか考えていきます。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス－労使関係はどういう学問か						
第2回：日本の労使関係の特徴と形成（1）－近代						
第3回：日本の労使関係の特徴と形成（2）－現代						
第4回：賃金問題と労使関係						
第5回：集団的労使関係の変化と労働市場						
第6回：人事管理の変化と労使関係						
第7回：企業別組合と労使関係						
第8回：組織化の課題						
第9回：日本の経営者・経営者団体と労働組合						
第10回：政府と労使関係						
第11回：国際化が変える労使関係						
第12回：デモ・ストライキで変える労働・生活条件（1）－海外編						
第13回：デモ・ストライキで変える労働・生活条件（2）－国内編						
第14回：就職活動と労使関係						
第15回：総括						
定期試験						

テキスト

特に指定しません。レジュメを講義で配布します。

参考書・参考資料等

仁田道夫・中村圭介・野川忍（2021）『労働組合の基礎』日本評論社。

浅見和彦（2021）『労使関係論とはなにか』旬報社。

富田義典・花田昌宣・チッソ労働運動史研究会（2021）『水俣に生きた労働者』明石書店。

学生に対する評価

レポート30%、期末試験70%。

授業科目名： 社会政策論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石井まこと 担当形態：単独					
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」							
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>								
社会政策が取り扱う問題に対して、自分事として考えられる。 新聞・各種メディアの報道を鵜呑みにせず、客観的な判断ができる。 社会問題を解決する行動の重要性を理解できる。								
<b>授業の概要</b>								
社会政策は、労働問題、労使関係、社会保障、社会福祉、女性学、ジェンダー研究、生活問題など幅広い領域を対象にしています。主として仕事と暮らしに関わる問題について、社会問題をいかにとらえるべきか、いかなるアプローチをとるべきかを議論している学問体系です。こうした社会問題のとらえ方を本講義では学んでもらいます。								
<b>授業計画</b>								
第1回：ガイダンス－社会政策とはどういう学問か								
第2回：社会政策の方法（1）－経済学的手法								
第3回：社会政策の方法（2）－政治学的手法								
第4回：社会政策の方法（3）－社会学的手法								
第5回：社会政策の対象－仕事と生活の関係								
第6回：社会政策の研究史（1）－欧米編								
第7回：社会政策の研究史（2）－日本編								
第8回：社会政策の研究史（3）－東アジア編								
第9回：賃金・労働時間に關わる争点								
第10回：雇用問題に關わる争点								
第11回：労使関係・労働組合に關わる争点								
第12回：社会保障に關わる争点（1）－年金・医療・介護								
第13回：社会保障に關わる争点（2）－福祉・公的扶助								
第14回：ジェンダーに關わる争点								
第15回：総括								
<b>定期試験</b>								
テキスト								
特に指定しません。レジュメを講義で配布します。								
<b>参考書・参考資料等</b>								

石井まこと・宮本みち子・阿部誠編（2017）『地方に生きる若者たち』旬報社。

石井まこと・兵頭淳史・鬼丸朋子編（2010）『現代労働問題分析-』法律文化社。

平澤克彦・中村艶子編（2021）『ワークライフ・インテグレーション』ミネルヴァ書房。

学生に対する評価

レポート30%、期末試験70%。

授業科目名： 社会政策論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石井まこと 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
社会政策が取り扱う問題に対して、自分事として考えられる。 新聞・各種メディアの報道を鵜呑みにせず、客観的な判断ができる。 社会問題を解決する行動の重要性を理解できる。						
<b>授業の概要</b>						
社会政策は、労働問題、労使関係、社会保障、社会福祉、女性学、ジェンダー研究、生活問題など幅広い領域を対象にしています。主として仕事と暮らしに関わる問題について、社会問題をいかにとらえるべきか、いかなるアプローチをとるべきかを議論している学問体系です。本講義では、具体に展開する社会問題を取り上げ、人生（ライフコース）のなかでの社会政策の意義と課題をみていく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス—これからを生きるための社会政策＝自助の虚像を理解する						
第2回：人生(ライフサイクル)と社会政策						
第3回：子ども期の社会政策						
第4回：進路選択期の社会政策						
第5回：成人期・壮年期の社会政策						
第6回：高齢期の社会政策						
第7回：多様化する仕事と社会政策						
第8回：多様化する家族と社会政策						
第9回：住まいとは何か						
第10回：健康と社会政策						
第11回：地域共生社会はいかに実現するのか						
第12回：社会的孤立・孤独を防ぐ社会政策						
第13回：生活困窮に陥らせない社会とは						
第14回：多様な社会連帯を作るには						
第15回：総括						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
特に指定しません。レジュメを講義で配布します。						

参考書・参考資料等

石井まこと・宮本みち子・阿部誠編（2017）『地方に生きる若者たち』旬報社。

石井まこと・兵頭淳史・鬼丸朋子編（2010）『現代労働問題分析-』法律文化社。

平澤克彦・中村艶子編（2021）『ワークライフ・インテグレーション』ミネルヴァ書房。

学生に対する評価

レポート30%、期末試験70%。

授業科目名： 経済政策論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高見博之			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
授業のテーマは、市場経済の限界と政府の果たすべき役割について理解することである。 到達目標は、第1に、市場が成功する状況と失敗する事例を説明できること、第2に、外部性、公共財、不完全競争について問題点を説明できることである。						
<b>授業の概要</b>						
現実の様々な経済問題を評価するための枠組みとしての経済理論・経済政策についての基礎的な学問体系を修得するために、主としてミクロ経済学の考え方を用いて、市場経済の限界と政府の果たすべき役割について理解し、経済政策の基本的な考え方を展開する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：政府の役割とは						
第2回：経済政策の課題						
第3回：市場均衡(1)：消費者行動						
第4回：市場均衡(2)：企業行動						
第5回：市場均衡(3)：市場均衡						
第6回：市場均衡と厚生経済学の基本定理						
第7回：政府の市場介入のコスト（余剰分析）						
第8回：外部性(1)：外部性とは						
第9回：外部性(2)：私的解決策						
第10回：外部性(3)：公的解決策						
第11回：公共財(1)：公共財とは						
第12回：公共財(2)：公共財の最適供給						
第13回：公共財(3)：リンドール・メカニズム						
第14回：独占と市場の失敗						
第15回：自然独占と価格設定						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
テキストは設定せず、配付する資料を用いて講義する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						

常木淳(2002)『公共経済学 第2版』, 新世社.

八田達夫(2013)『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社.

学生に対する評価

期末テスト : 70% 小レポート : 30%

授業科目名： 経済政策論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高見博之			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
授業のテーマは、市場経済の限界と政府の果たすべき役割について理解することである。 到達目標は、第1に、閉鎖経済・開放経済の下でのマクロ経済政策の効果を説明できること、 第2に、短期・長期の視点で財政政策の効果を説明できることである。						
<b>授業の概要</b>						
現実の様々な経済問題を評価するための枠組みとしての経済理論・経済政策についての基礎的な学問体系を修得するために、主としてマクロ経済学の考え方を用いて、経済政策の基本的な考え方を展開する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：政府の役割とは 第2回：マクロ経済政策の課題 第3回：経済の安定(1)：45度線モデル 第4回：経済の安定(2)：乗数 第5回：経済の安定(3)：財市場とIS曲線 第6回：経済の安定(4)：貨幣市場とLM曲線 第7回：経済の安定(5)：IS-LM分析 第8回：公債(1)：政府の予算制約 第9回：公債(2)：公債発行とIS-LMモデル 第10回：公債(3)：公債の中立命題 第11回：公債(4)：財政赤字の問題点 第12回：開放経済と財政金融政策 第13回：経済成長(1)：新古典派成長モデル 第14回：経済成長(2)：財政政策の効果 第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト テキストは設定せず、配付する資料を用いて講義する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						

N. G. マンキュー(2017)『マンキューマクロ経済学I 第4版』東洋経済新報社.

井堀利宏(2020)『入門マクロ経済学 第4版』新世社.

学生に対する評価

期末テスト : 70% 小レポート : 30%

授業科目名： 公共経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高見博之			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
授業のテーマは、市場メカニズムが有効に働く場合の公共部門の活動を理解し、経済理論を応用することによって論理的に説明できる考え方を身につけることである。到達目標は、第1に、市場が成功する状況と失敗する事例を説明できること、第2に、外部性、公共財、不完全競争に関わる市場の失敗の対策を説明できることである。						
<b>授業の概要</b>						
市場メカニズムが有効に働く場合の公共部門の活動を理解し、公共部門に関わる経済問題を経済理論（特にミクロ経済学）を応用することによって論理的に説明できる思考方法を展開する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：公共経済学とは						
第2回：微分の基礎と経済学(1)（私的利潤の最大化）						
第3回：微分の基礎と経済学(2)（市場経済の効率性）						
第4回：厚生経済学の基本定理(1) 完全競争市場均衡						
第5回：厚生経済学の基本定理(2) パレート最適性						
第6回：公共財(1) 公共財の最適供給条件と市場の失敗						
第7回：公共財(2) リンダール・メカニズム						
第8回：公共財(3) クラーク・メカニズム						
第9回：外部性(1) 外部性と市場の失敗						
第10回：外部性(2) 外部性と私的解決策						
第11回：外部性(3) 外部性と公的解決策						
第12回：不完全競争(1) 独占と市場の失敗						
第13回：不完全競争(2) 費用遞減産業と市場の失敗						
第14回：不完全競争(3) 一律従量料金制						
第15回：不完全競争(4) 二部料金制						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
テキストは設定せず、配付する資料を用いて講義する。						

参考書・参考資料等

岸本哲也(1999)『公共経済学』(有斐閣), 伊藤隆敏(2017)『公共政策入門』(有斐閣), 小川光  
・西森晃(2015)『公共経済学』(中央経済社), 神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』(日本評  
論社)

学生に対する評価

期末テスト : 70% 小レポート : 30%

授業科目名： 財政学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 勇貴			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
授業のテーマ及び到達目標						
政府の役割に加え、財政問題の現状や発生のメカニズムを理解する。						
授業の概要						
資源の配分や経済などに対する政府の役割について解説し、様々な財政問題の①現状を把握し、②問題発生の原因を探り、③問題解決の糸口を考える。						
授業計画						
第1回：イントロダクション—財政学とは—						
第2回：日本の財政状況を考える						
第3回：財政赤字を考える（1）—基礎的財政收支—						
第4回：財政赤字を考える（2）—財政赤字の問題点—						
第5回：経済活動における財政の役割						
第6回：財政の役割—資源配分機能とその効果—						
第7回：政府支出の理論—効率性—						
第8回：政府支出の理論（1）—公共財の最適供給—						
第9回：政府支出の理論（2）—有料か無料か—						
第10回：政府支出の理論（3）—政府による規制—						
第11回：政府の失敗を考える						
第12回：財政と経済安定—経済安定化機能とその効果—						
第13回：経済安定化のメカニズム（1）—乗数効果—						
第14回：経済安定化のメカニズム（2）—財政政策と金融政策—						
第15回：まとめ						
定期試験						
テキスト						
授業中に資料を配付する。						
参考書・参考資料等						
基礎コース財政学 第4版（林宜嗣・林亮輔・林勇貴著、新世社）						
学生に対する評価						
定期試験（80%）、授業内に実施する小レポート（20%）						

授業科目名： 財政学II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 勇貴			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
授業のテーマ及び到達目標						
政府の役割に加え、財政問題の現状や発生のメカニズムを理解する。						
授業の概要						
前半では、財政の役割である社会保障の目的と課題について解説し、後半では財源調達方法である税の役割について考える。						
授業計画						
第1回：イントロダクション—財政学とは—						
第2回：所得分配の実態と財政による再配分（1）—所得格差の現状—						
第3回：所得分配の実態と財政による再配分（2）—所得格差の要因—						
第4回：社会保障の目的						
第5回：社会保障の課題（1）—年金—						
第6回：社会保障の課題（2）—医療等—						
第7回：財政の役割のまとめ—国と地方の役割分担—						
第8回：地域の検証—回帰分析を学ぼう—						
第9回：税の役割（1）—租税原則—						
第10回：税の役割（2）—公平な税—						
第11回：課税と経済効率						
第12回：日本の主要な税—所得税—						
第13回：日本の主要な税—消費税—						
第14回：日本の主要な税—法人税—						
第15回：まとめ						
定期試験						
テキスト						
授業中に資料を配付する。						
参考書・参考資料等						
基礎コース財政学 第4版（林宜嗣・林亮輔・林勇貴著、新世社）						
学生に対する評価						
定期試験（70%）、授業内に実施する小レポート（30%）						

授業科目名： 金融論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小笠原 悟 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：金融の役割とその機能について						
到達目標：貨幣・金融の概念、金融のしくみ、金融行政・金融政策についての基礎知識を得る						
<b>授業の概要</b>						
お金ってなんだろう。コンビニでモノを買ったりするときに使うもの、将来のために貯めておくもの、同じようなモノでもどちらを買えばいいか比較する時に尺度として使うもの、などなど。お金はみなさんが経済活動をする上で必ずといっていいほど一緒にきます。こうした身近な「お金」について、その流れに関わる経済現象を取り扱うのが金融論です。本講義では、金融の基礎を学ぶとともに、それが私たちの生活の中でどのような役割を果たしているか理解できるようにします。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：貨幣について						
第3回：金利について						
第4回：金融政策のためのマクロ経済学について						
第5回：金融政策の課題と日本銀行について						
第6回：金融政策の基本手段と新しい展開について						
第7回：金融システムと金融仲介機関の役割について						
第8回：銀行以外の金融機関について						
第9回：金融システム安定化のための政策について						
第10回：金融機関の経営破たんへの対応策について						
第11回：金融市场に関する規制について						
第12回：間接金融型の金融商品について						
第13回：直接金融型の金融商品について						
第14回：ファイナンスの基礎理論について						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト：金融論（第3版）ベーシック+（家森信義、2022年、中央経済社）						
参考書・参考資料等						

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

課題レポート+小テスト(50%)、定期試験(50%)

授業科目名： 金融論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小笠原 悟 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：グローバル化、自由化、経済危機、金融技術革新について 到達目標：歴史から金融仲介機関の役割や金融市场のリスクを理解するとともに、金融の3つの分野（金融政策、金融システム、ファイナンス）について最近の潮流を理解する。						
<b>授業の概要</b> 経済のグローバル化、金融の資本市場化が進むにつれて金融市场は不安定化し、頻繁に金融危機が発生するようになりました。また、銀行・証券など金融仲介機関を巡る環境は大きく変化しており、中央銀行の政策運営にも大きく影響を及ぼしています。本講義では「金融論I」で学んだ知識をベースに、実体経済と金融情勢の変化を歴史的に俯瞰し、金融業そして中央銀行の役割について考察します。また最近の金融技術革新の進展と金融の将来について考えます。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 第2回：高度経済成長期の日本経済と財政金融政策について 第3回：ブレトンウッズ体制崩壊後の日本経済と財政金融政策について 第4回：プラザ合意と平成バブルについて 第5回：バブル崩壊後の日本経済と金融政策について 第6回：不良債権問題と円高について 第7回：金融危機下の金融政策とプルーデンス政策について 第8回：世界金融危機とアベノミクスと金融政策について 第9回：資金循環構造の変化について 第10回：家計と金融イノベーションについて 第11回：企業と金融イノベーションについて 第12回：金融業界と金融イノベーションについて 第13回：金融と持続可能な経済社会について 第14回：これからの金融について 第15回：まとめ 定期試験 テキスト 参考書・参考資料等						

戦後日本経済を検証する（橘木俊詔、2003年、東京大学出版会）

バブルと金融政策（香西泰、白川方明、2001年、日本経済新聞社）

他、授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

課題レポート+小テスト（50%）、定期試験（50%）

授業科目名： 国際金融論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小笠原 悟			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：国際金融の基礎理論を理解する						
到達目標；基礎理論を理解し、為替レートの変動要因を理論に基づいて説明できるような能力を獲得する。						
<b>授業の概要</b>						
為替レートはどのようにして決まるのか。貿易収支は赤字だが、経常収支が黒字なのは何が要因なのか。こうした問題に答えられるように、この講義では、国際金融の基本である「国際収支」「為替レートの変動要因」「為替レートの決定理論」について学びます。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：国際化とグローバル化について						
第3回：国際収支の見方・使い方について						
第4回：国際資本移動の基礎について						
第5回：外国為替の基本について（外国為替のしくみについて）						
第6回：外国為替の基本について（為替レートの見方について）						
第7回：外国為替の基本について（為替レートと貿易収支について）						
第8回：外国為替の基本について（通貨制度について）						
第9回：為替レートの変動要因について（購買力平価について）						
第10回：為替レートの変動要因について（購買力平価パズルについて）						
第11回：外国為替レートの変動要因について（金利平価について）						
第12回：為替レートの決定理論について（マネタリー・アプローチからアセット・アプローチへ） について						
第13回：為替レートの決定理論について（ポートフォリオ・リバランス・モデルについて）						
第14回：為替レートの決定理論について（期待と予想について）						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
橋本優子・小川英治・熊本方雄『国際金融論をつかむ』2019年 有斐閣						
参考書・参考資料等：						

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

課題レポート+小テスト（50%、定期意見（50%）

授業科目名： 国際金融論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小笠原 悟 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：為替政策と金融危機について 到達目標：国際金融Iで学んだ基礎理論をベースに、メディアなどで取り上げられている現実の国際金融問題を理解できるようにする。						
<b>授業の概要</b> 金融、経済の国際化やグローバル化が進むにつれ、一国の経済行動が世界全体に影響を及ぼす機会が増えています。米国のサブプライム・ローン問題がなぜ世界的な金融危機に発展したのか。また、こうした危機に対処するため、各国はどのような協調体制を構築しているのか。この講義では、「通貨危機」「国際通貨制度」「通貨統合問題」などを体系的に学び、国際金融についての理解を深めることができます。						
<b>授業計画</b> 第1回：ガイダンス 第2回：為替変動と為替介入について 第3回：マンデル・フレミング・モデルについて 第4回：マクロ経済政策の効果について 第5回：通貨危機発生のメカニズムについて 第6回：通貨危機はなぜ伝播するのかについて 第7回：通貨・経済政策への対応について 第8回：世界金融危機について（サブプライム危機について） 第9回：世界金融危機について（金融危機伝播のメカニズムについて） 第10回：なぜドルを保有するのかについて 第11回：新しい国際金融規制について 第12回：ユーロの誕生について 第13回：通貨統合の便益と費用について 第14回：ユーロ危機について 第15回：まとめ <b>定期試験</b> テキスト：国際金融論をつかむ（新版）、（橋本優子・小川英治・熊本方雄、2022年、有斐閣）						

参考書・参考資料等：  
授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価  
課題レポート+小テスト（50%）、定期試験（50%）

授業科目名： 上級ミクロ経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 4 単位	担当教員名：村山悠 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
この授業のテーマは、中級レベルのミクロ経済学を説明することである。到達目標は、第1に、消費者の効用最大化問題を考えることができるようになること、第2に、企業の利潤最大化問題を考えることができるようになること、第3に、資源配分の効率性を考えることができるようになることである。						
<b>授業の概要</b>						
この授業では、経済学の最も基本的な枠組みがまとめられたミクロ経済学について、中級レベルの内容を説明する。主に、家計の消費行動、企業の生産の決定、市場と均衡、独占・寡占などについて学習する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ミクロ経済学とは何か？ミクロ経済学で使う数学について						
第2回：需要と供給(1) 需要曲線						
第3回：需要と供給(2) 供給曲線						
第4回：消費の理論(1) 効用関数と予算制約式						
第5回：消費の理論(2) 効用最大化問題						
第6回：消費の理論(3) 所得効果と代替効果						
第7回：消費理論の応用(1) 労働供給						
第8回：消費理論の応用(2) 消費と貯蓄						
第9回：消費理論の応用(3) 不確実性						
第10回：消費理論の応用(4) 顯示選好の理論						
第11回：企業と費用(1) 等生産量曲線と等費用曲線						
第12回：企業と費用(2) 費用曲線						
第13回：企業と費用(3) 短期と長期の費用曲線						
第14回：生産の決定(1) 利潤最大化問題						
第15回：生産の決定(2) 供給曲線						
第16回：市場と均衡(1) 完全競争						
第17回：市場と均衡(2) 市場価格の調整メカニズム						
第18回：市場と均衡(3) 市場取引の利益						

第19回：市場と均衡(4) 政策介入のコスト  
第20回：市場と均衡(5) 資源配分の効率性  
第21回：市場と均衡(6) 厚生経済学の基本定理  
第22回：独占(1) 独占企業の行動  
第23回：独占(2) 独占と市場  
第24回：独占(3) 自然独占と規制  
第25回：独占(4) 参入をめぐる競争  
第26回：寡占(1) 寡占とは  
第27回：寡占(2) クールノー・モデル  
第28回：寡占(3) カルテル  
第29回：寡占(4) シュタッケルベルグ・モデル  
第30回：まとめ  
定期試験

テキスト

教科書は指定しない。講義資料を使う。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

定期試験：70% 小テスト・レポート等：30%

授業科目名： 経済地理学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 美谷 薫 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・社会学、経済学（国際経済を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
地理学の見方・考え方を習得した上で、経済地理学の基礎を理解することで、さまざまな経済現象の地域的差異を読み取り、またその背景について考察し、その結果を的確に説明できるようになることを目標とする。						
<b>授業の概要</b>						
地理学全体に共通する基礎的な概念を紹介した後に、農業、工業、商業などについて、伝統的な立地に関する理論、現代日本における産業の地域性、産業を取り巻く環境の変化とそれに対応した変容などについて取り上げる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション						
第2回：地理学の見方・考え方①：地域						
第3回：地理学の見方・考え方②：景観						
第4回：地理学の見方・考え方③：環境						
第5回：農業と地域①：農業立地の理論						
第6回：農業と地域②：農業地域区分と農業の地域性						
第7回：農業と地域③：社会環境と農業の変容						
第8回：工業と地域①：工業立地の理論						
第9回：工業と地域②：工業地域の構造						
第10回：工業と地域③：産業集積と空間的分業						
第11回：商業と地域①：商業立地の理論と商圈						
第12回：商業と地域②：商業環境の変化と中心商店街						
第13回：商業と地域③：流通システムの再編と小売業						
第14回：サービス業と地域						
第15回：総括						
<b>期末試験</b>						
<b>テキスト</b>						
特に指定しません。各回の授業で関連する資料を配布します。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房						
経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房						
山本健児『新版 経済地理学入門』原書房						
<b>学生に対する評価</b>						
各回の授業での小課題（40%）と中間レポート（20%），期末試験（40%）で評価する。						

授業科目名： 経済地理学II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 美谷 薫 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・社会学、経済学（国際経済を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 経済現象の展開が地域に及ぼし得る影響と、それらの現われの地域的差異について理解するとともに、その背景を的確に説明できるようになることを目標とする。						
<b>授業の概要</b> 経済現象の展開が都市、農村、山村といったさまざまな地域に及ぼした影響、また、それらに対する地域運営の主体の対応について、日本の高度経済成長期以後の事例を中心に取り上げる。 「経済地理学I」が経済現象そのものを対象とするのに対して、本講義ではより広義の「経済地理学」の内容を中心とする。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション						
第2回：地域と人口①：人口の地域性と人口構成						
第3回：地域と人口②：人口移動とライフコース						
第4回：村落の変容①：村落社会の基盤						
第5回：村落の変容②：経済成長と村落の変容						
第6回：都市の変容①：都市の概念と都市域						
第7回：都市の変容②：都市化と都市システム						
第8回：都市の変容③：都市の内部構造						
第9回：都市の変容④：都市問題と都市政策						
第10回：地域と行政・政策①：地域社会の変化と公的セクターの拡大						
第11回：地域と行政・政策②：地方行財政と市町村合併						
第12回：地域と行政・政策③：少子高齢化と福祉サービスの地域差						
第13回：地域と行政・政策④：人口減少社会と生活インフラ						
第14回：地域と行政・政策⑤：地域振興と観光開発						
第15回：総括						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
特に指定しません。各回の授業で関連する資料を配布します。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房						
神谷浩夫・梶田真・佐藤正志・栗島英明・美谷薰編著『地方行財政の地域的文脈』古今書院						
経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房						
<b>学生に対する評価</b>						
各回の授業での小課題（40%）と中間レポート（20%），期末試験（40%）で評価する。						

授業科目名： イノベーション社会論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 豊島 慎一郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ：イノベーションの社会学（「ソーシャル・イノベーションと現代社会」）</p> <p>「イノベーションの社会学」に関する基礎的知識や応用力を修得する。与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
本講義では、情報通信技術(ICT)の革新に伴うコミュニケーションの変容や社会変動等の様々な社会現象を関連づけながら、社会学の観点からイノベーションの社会的・文化的な諸条件やプロセスを明らかにし、今後の政策的・実践の方策や社会システムのあり方を考える。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション						
第2回：イノベーションと現代社会						
第3回：市民主体のまちづくり（1）観光まちづくりの事例						
第4回：市民主体のまちづくり（2）まちづくりNPOの事例						
第5回：市民主体のまちづくり（3）「農村イノベーション」の事例						
第6回：イノベーション、ICT、高齢社会（1）シニアSOHOの事例						
第7回：イノベーション、ICT、高齢社会（2）シニア世代によるICT利活用の事例						
第8回：イノベーション、ICT、高齢社会（3）課題と展望						
第9回：中間試験、第1回～第8回の要点解説						
第10回：イノベーション、ICT、災害支援（1）東日本大震災の事例						
第11回：イノベーション、ICT、災害支援（2）災害支援とビッグデータ利活用の事例						
第12回：イノベーション、ICT、災害支援（3）災害支援とSNS利活用の事例						
第13回：若者世代とソーシャル・イノベーション（1）SNS利活用の事例						
第14回：若者世代とソーシャル・イノベーション（2）まちづくりの事例						
第15回：総論						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
テキストは指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜資料を配布する。						

野中郁次郎ほか, 2014, 『実践ソーシャル・イノベーション』千倉書房.

野中郁次郎編, 2021, 『共感が未来をつくる』千倉書房.

大澤健・米田誠司, 2019, 『由布院モデル』学芸出版社.

学生に対する評価

平常点(小レポート等) (50%) 、中間・期末試験 (50%)

授業科目名： 情報社会論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 豊島 慎一郎 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：情報社会とは何か 情報社会論に関する基礎的知識や応用力を修得する。与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を修得する。						
<b>授業の概要</b> 情報社会について「自ら考える力」を身につけることが本講義のねらいである。本講義では、現代社会におけるメディア環境の変化や社会変動を踏まえ、社会学の観点から情報通信技術( ICT)と社会の関係性やコミュニケーションのあり様について論じる。						
<b>授業計画</b> ※						
第1回：オリエンテーション						
第2回：情報化とコミュニケーション（1）情報社会と日常生活						
第3回：情報化とコミュニケーション（2）コンピュータの歴史						
第4回：情報化とコミュニケーション（3）インターネットの歴史						
第5回：情報化とコミュニケーション（4）電話の歴史						
第6回：情報社会と社会問題（1）サイバー犯罪の事例						
第7回：情報社会と社会問題（2）「闇サイト」、「ながらスマホ」問題等						
第8回：中間試験、第1回～第8回の要点解説						
第9回：メディア・リテラシーとは何か（1）定義と歴史						
第10回：メディア・リテラシーとは何か（2）海外の事例						
第11回：メディア・リテラシーとは何か（3）日本の事例						
第12回：地域情報化とは何か（1）定義と歴史						
第13回：地域情報化とは何か（2）まちづくりの事例						
第14回：地域情報化とは何か（3）災害復興・支援の事例						
第15回：総論						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
テキストは指定しない。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
授業中に適宜資料を配布する。						

- 土橋臣吾編, 2017, 『デジタルメディアの社会学』北樹出版.
- 西垣通・伊藤守編, 2015, 『よくわかる社会情報学』ミネルヴァ書房.
- 大石裕, 1992, 『地域情報化—理論と政策』世界思想社.
- 佐藤卓己, 2020, 『メディア論の名著30』筑摩書房.
- 菅谷明子, 2000, 『メディア・リテラシー』岩波書店.

学生に対する評価

平常点(小レポート等) (50%) 、中間・期末試験 (50%)

授業科目名： 異文化間コミュニケーション論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：久保田 亮 担当形態： 単独					
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」							
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>								
この授業では異文化コンピテンス向上に資する概念や理論を学びます。異文化間コミュニケーションに関連する概念や理論への理解を深めること、その実践に対応するためのマインドセットを習得すること、そして他者との交流を通じて見出される新たな価値観や視点に触れることを目指します。								
<b>授業の概要</b>								
この授業では異文化間コミュニケーションに関連する概念や理論について取り上げます。人間はいかにコミュニケーションするのか、コミュニケーションに文化はいかに関与するのか、異文化間コミュニケーションで生じうる問題とは何か、いかに私たちは文化的他者と関わるべきなのか、といったトピックについて具体的な事例を紹介しつつ、学習します。								
<b>授業計画</b>								
第1回：講義概要、主要概念、グループディスカッションについての説明								
第2回：異文化コンピテンスについて								
第3回：人間の認知行動と文化との関係について								
第4回：非言語コミュニケーションについて								
第5回：言語コミュニケーションについて								
第6回：グループディスカッション（1）：異文化コンピテンスについて								
第7回：国民文化について								
第8回：価値志向研究について								
第9回：宗教とアイデンティティについて								
第10回：文化とジェンダーについて								
第11回：移住と文化変容について								
第12回：文化的／民族的マイノリティについて								
第13回：グループディスカッション（2）：異文化交流について								
第14回：異文化接触・交流のインパクトについて								
第15回：グループディスカッション（3）：これからの課題について								
<b>定期試験</b>								
テキスト なし								

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（40%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）、グループディスカッション等の課題（20%）

授業科目名： 多文化共生論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：久保田亮 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
この授業では多文化共生の理念とその実態について学びます。地域社会に生きる文化的に多様な住民同志の共生というテーマに関連する諸概念や理論を学習すること、多文化共生に関する具体的な事例を多角的に分析する能力を習得すること、多文化社会を生きる上で必要となるマインドセットについての知見を深めることを目指します。						
<b>授業の概要</b>						
この授業では多文化共生をめぐる諸問題について取り上げます。多文化共生が理想とする社会はいかなるものか、私たちと共に地域社会を構成している文化的他者が直面している問題にはどのようなものがあるか、不均衡な権力関係を基盤とする社会的不平等はいかに是正することができるのか、といった諸問題について具体的な事例を参照しつつ、学習します。						
<b>授業計画</b>						
第1回：講義概要、成績評価方法についての説明						
第2回：グループディスカッションの目的と方法について						
第3回：多文化主義について						
第4回：多文化共生について						
第5回：人種について						
第6回：国民について						
第7回：エスニシティについて						
第8回：宗教について						
第9回：ジェンダー・セクシュアリティについて						
第10回：障がいについて						
第11回：多文化共生策に関する事例検討（1）：在留外国人支援について						
第12回：グループディスカッション（1）：積極的格差是正措置をめぐる問題について						
第13回：多文化共生策に関する事例検討（2）：ヘイトクライムの抑止策について						
第14回：グループディスカッション（2）：人種差別をめぐる問題について						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
なし						
<b>参考書・参考資料等</b>						

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（40%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（40%）、グループディスカッション等の課題（20%）

授業科目名： 地域文化資源論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久保田亮			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
この授業では日本の地方に暮らす住民が抱える問題について取り上げます。日本社会が現在直面している諸問題について理解すること、住民によるさまざまな資源を活用した地域振興策についての知見を深めること、このテーマに関わる諸問題を留学生と英語で議論できるスキルを身につけること、を目標とします。						
<b>授業の概要</b>						
この授業では日本の地方が抱える諸問題に注目します。中央と地方が歴史的にどのような関係にあったのか、日本人は地方（田舎）に対していかなる意味づけをしてきたのか、地方に暮らす住民はいかなる資源を地域社会の中に見出し、それを利用して解決すべき社会経済問題に対処しようとしているのか、といったトピックについて英語で学びます。						
<b>授業計画</b>						
第1回：講義概要、成績評価方法についての説明						
第2回：中央と地方の歴史的関係について						
第3回：地方（＝田舎）の含意について						
第4回：過疎化という問題について						
第5回：高齢化という問題について						
第6回：地域文化資源の活用（1）：自然景観の利用						
第7回：地域文化資源の活用（2）：郷愁的空間の創造						
第8回：地域文化資源の活用（3）：郷土食・B級グルメの開発・発見						
第9回：グリーンツーリズム実践についての学外実習						
第10回：グループディスカッション（1）：グリーンツーリズムの実態について						
第11回：日本文化における擬人化						
第12回：地域文化資源の活用（4）：アニメ・ツーリズム						
第13回：地域文化資源の活用（5）：ゆるキャラを用いたマーケティング						
第14回：地域文化資源の活用（6）：祭礼・文化イベント						
第15回：受講生による期末レポートについての口頭発表						
定期試験は実施しない。						
<b>テキスト</b>						

なし

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

期末レポート（60%）、口頭発表（20%）、グループディスカッション（20%）

授業科目名： 現代アジア社会論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 包 聰群			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
授業のテーマ及び到達目標：						
<p>目標 1 中国をはじめ、アジアに対する理解を深めることができる。</p> <p>目標 2 現代中国社会の全体像をイメージでき、社会構造を概ね把握できる。</p> <p>目標 3 中国をはじめ、アジア諸国に関心を持ち、視野をさらに広げることができる。</p>						
授業の概要：アジア諸国は経済発展をしつつあるが、そのうち、中国は1990年代から急速に経済発展を成し遂げ、その名目国内総生産（GDP）は2010年に初めて日本を上回り、2015年から減速はじめたが、世界経済の動きに依然として大きな影響を与えている。中国は「一带一路」（シルクロード経済ベルト）という経済構想を打ち出し、アジア諸国乃至ヨーロッパの一部を巻き込んだ世界経済圏の形成を目指している。一方、アメリカとの貿易摩擦により、2019年のGDPは6.1%まで低下した。こうした経済的・社会的问题も生じている。さらに新型コロナウイルス感染症による社会事情の変遷などについても検討する。本講義では、中国をはじめ、アジア社会を対象とし、その実態を見ていくことにする。						
授業計画						
第1回：ガイダンス						
第2回：パンデミック（pandemic）以降のアジア社会の変化と現状						
第3回：中国の人口・行政地区・地理環境等						
第4回：中国の「一带一路」（シルクロード経済ベルト）とは何か						
第5回：中国の「一带一路」の現状						
第6回：環境問題を含む日本と中国のSDGsへの取り組み実態						
第7回：中国の教育及びその問題点						
第8回：中国の「三農」の現状						
第9回：中国の人口ボウナースの終了に伴う高齢化社会問題						
第10回：地域社会と経済						
第11回：中国における格差の問題						
第12回：中国の不動産業						
第13回：中国の官僚腐敗問題						
第14回：中国の民族構成及びその実態						
第15回：まとめ						
定期試験						

テキスト なし。毎回、資料を配付し、参考文献を事前に指示する。

参考書・参考資料等

1. 『中国の不平等』。薛進軍、荒山裕行等編著。日本評論社、2008年。
2. 『中国の社会』。鄭杭生、奥島孝康編。早稲田大学出版部。2002年。
3. 『中国経済入門』（第3版）。南亮進、牧野文夫編。日本評論社。2012年。
4. 中国・日本などのネット情報（メディア関係資料など）に注目
5. 他：適宜紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業態度、感想、意見および講義内容のまとめなど： 30%

期末レポート：70%

授業科目名： 地方財政論	教員の免許状取得のための選 択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小野 宏 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
本講義のテーマは地方財政制度について理解することである。到達目標は、地方税や国庫支出金などの地方の歳入構造の特徴について理解すること、そして、地方公共サービスの理論や地方の歳出構造の特徴について理解ことである。						
<b>授業の概要</b>						
地方財政は、上下水道や警察・消防などの提供を通じて、我々の生活と密接に関係している。一方で、地方財政の仕組みや国と地方との関係などは、複雑なものである。本講義では、地方財政を、歳出入の面を中心に理論と制度の両面から考察し、地方財政の現状と課題について理解する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション						
第2回：地方財政とは						
第3回：国と地方の役割						
第4回：地方財政の歳出入構造						
第5回：地方公共サービスの効率化						
第6回：地方公共サービスの最適供給						
第7回：地方税の理論と体系						
第8回：地方税の改革						
第9回：国庫支出金の構造						
第10回：国庫支出金の経済分析						
第11回：地方交付税のしくみ						
第12回：地方交付税の改革						
第13回：地方財政の歩み						
第14回：地方行政改革						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
『新・地方財政』林宜嗣編(有斐閣)						

参考書・参考資料等

『基礎コース財政学第4版』林宜嗣・林亮輔・林勇貴著(新世社)

学生に対する評価

学期末試験：70% レポート・小テスト等の提出物：30%

授業科目名： 地域経営論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 甲斐 智大			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
本授業では、地域の抱える課題と空間との関係性に着目して公正な地域社会の在り方について考察するために必要となる視座を獲得することを到達目標とする。この到達目標の達成にむけて、本講義では主に、戦後日本における地域政策をとりあげる。						
<b>授業の概要</b>						
高度経済成長期以降、日本では都市部への人口集中と地方における人口減少が進んだ。その結果、都市、地方都市、農村といった異なる特徴をもつ空間が構築され、各地で様々な地域課題が生じることとなった。そこで各地域では地域課題の解決に向けて多様な主体によって様々な形での課題解決が図られている。						
そもそも地域課題は国家—地域—家族—身体といった各スケール間の重層的な関係性の中で生じるため、この課題の解決に向けたアプローチについて検討する場合、マルチスケールでの分析視角と関係論的な分析視角をもつことが必要となる。そこで本講義では地域差が生じた背景や各地で生じた地域課題の発生メカニズム、課題解決に向けて展開した地域政策への理解を通して、地域経営のあり方について議論する視点を獲得してほしい。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション：本講義の位置づけとねらい						
第2回：国土開発とスケール1：ナショナル ローカル 身体スケールの相互作用 「国土計画と家族計画」						
第3回：国土開発とスケール2：地域的差異の発生メカニズム 「国土計画と石油化学工業」						
第4回：住宅開発と都市問題1：住まい空間の変化と都市構造 「戦後住宅政策と住宅すごろく」						
第5回：住宅開発と都市問題2：住まい空間の変化と現代的課題の発生メカニズム 「ニュータウンの現状と都心回帰」						
第6回：都市部における公共サービスの不足とそれへの対応1：公共・市場・家族の関係性について 「保育サービスの市場化と地域的公正」						
第7回：都市部における公共サービスの不足とそれへの対応2：サードセクターが果たす役割について 「福祉サービスの供給主体としてのNPO」						
第8回：地方都市における商店街活性化と創造都市論 「産業構造の転換と中心市街地活性化への展開」						

第9回：多様性と地域の創造 「性的少数者の積極的受け入れ政策 新宿2丁目およびシドニーを事例に」

第10回：観光へのまなざしと地方の関係人口創出 「別府・湯布院の湯治文化とテレワーク」

第11回：人口減少地域における地域経営1 「「進撃の日田」まちづくりと地域おこし協力隊」

第12回：人口減少地域における地域経営2 「なりわいづくりへの支援とその課題」

第13回：マルチワーカー制度が人口減少地域で果たす役割1 「公共・市場・協働組合と社会連帯経済

第14回：マルチワーカー制度が人口減少地域で果たす役割2 労働者にとっての意味 「五島市、海士町、東成瀬村、南部町を事例に」

第15回：地方創生」に関わる諸政策の功罪

#### 定期試験

#### テキスト

受講者と相談の上、決定する。

#### 参考書・参考資料等

森正人 (2019) 『豊かさ幻想 戦後日本が目指したもの』 (KADOKAWA)

中澤高志 (2019) 『住まいと仕事の地理学』 (旬報社)

神谷浩夫 (2018) 『ベーシック都市社会地理学』 (ナニシャ出版)

神谷浩夫 梶田真 佐藤正志 (2012) 『地方行財政の地域的文脈』 (古今書院)

#### 学生に対する評価

・中間レポート（講義に対するコメントを含む）50%

・期末試験 50%

授業科目名： 地域経営論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 甲斐 智大			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
本授業では地域経営をめぐる経済体制の変化を踏まえて、公正な地域経営の在り方について理論的に考察する視座を獲得することを到達目標とする。この到達目標の達成に向けて本講義では主に、高度経済成長期以降にクローズアップされえてきた社会問題を事例としてとりあげる。						
<b>授業の概要</b>						
地域経営は地域差の拡大の中でその役割を拡大させてきた。具体的に戦後の国土開発計画によって地域差が明瞭となり、都市、地方都市、農村といった異なる特徴を持つ空間が構築された。異なる特徴を持つ各地域では異なる課題が生じ、異なる地域政策が展開した。						
本講義では地域経営論Ⅰで言及した理論や分析視角を踏まえて、地域政策が誰のための地域政策であったのか、また地域政策のなかでどのような人々がいかなるメカニズムで排除されることになったのかについて考察することで、社会経済体制と地域経営の関係性についての理解を深めることを目的とする。						
なお、本講義では地方での働き方・暮らし方と地域経営との関係性についても取り上げる。本講義を自身のキャリア形成について考え直す契機にしてほしい						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション：本講義の位置づけとねらい						
第2回：農村地域における地域経営の変化と地域労働市場 「農村における家族規範と働き方」						
第3回：農村地域における地域経営の変化と地域活性化への取り組み 「都市一農村関係と農村空間の商品化」						
第4回：資源化のプロセスと地域間関係 「人糞地理学を事例に」						
第5回：環境問題と公害問題 「長良川および球磨川のダム建設をめぐって」						
第6回：製造業の台頭と日雇い労働者 「あいりん地区の変化と日雇い労働者」						
第7回：製造業の地方への分散と派遣労働者・外国人労働者 「地方における労働力の調整」						
第8回：エスニックビジネス展開と都市 「エスニック空間の交差」						
第9回：温観光地が内包するジェンダー問題 「七尾温泉における子育て施策の展開とジェンダー」						
第10回：日本型雇用と子育て空間からの排除 「日本型雇用による経済成長と性別による空間の分断」						

第1 1回：住民主導型のコミュニティ形成 「おおいたパパクラブの設立と活動を事例に」  
 第1 2回：災害レジリエンスと地域コミュニティ 「東日本大震災からの復興と高台移転」  
 第1 3回：福祉のまちづくりとバリアフリー 「障害者と空間の関係に着目して」  
 第1 4回：地方における若者の働き方とその課題 「公務的労働・福祉労働・マイルドヤンキーに着目して」  
 第1 5回：社会経済体制の変化と地域経営の在り方

#### 定期試験

#### テキスト

受講者と相談の上、決定する。

#### 参考書・参考資料等

- 小田切徳美 (2022) 『新しい地域をつくる：持続的農村発展論』 (岩波書店)  
 湯澤規子 (2020) 『ウンコはどこから来て、どこへ行くのか—一人糞地理学ことはじめ』 (筑摩書房)  
 伊藤達也 小田宏信 加藤幸治 (2020) 『経済地理学への招待』 (ミネルヴァ書房)  
 原口剛 (2016) 『叫びの都市：寄せ場、釜ヶ崎、流動的下層労働者』 (洛北出版)  
 福本拓 (2022) 『大阪のエスニック・バイタリティ』 (京都大学出版会)  
 久木元美琴 (2016) 『保育・子育て支援の地理学：福祉サービス需給の「地域差」に着目して』 (明石書店)  
 石井まこと 宮本みち子 (2017) 『地方にいきる若者たち』 (旬報社)  
 中澤高志 (2019) 『住まいと仕事の地理学』 (旬報社)
- \*その他、論文などを適宜紹介する。参考資料等

#### 学生に対する評価

- ・中間レポート（講義に対するコメントを含む） 50%
- ・期末試験 50%

授業科目名： 農村発展論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山浦 陽一			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村の人口の推移とその背景を理解する</li> <li>・地域おこし協力隊、大学生、農大生等農村で活躍する若者の実態を理解する</li> <li>・キーワードとしての「関係人口」の内容と背景を理解し自身もその一人として行動する</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>「田舎で輝き隊！」プログラムの1つとして実施します。「農村発展論 I・II」では、農村の現状と性格の変化、また抱えている課題とその解決の方向性を、実態に即して学ぶことをねらいとしています。「I」では、農村の人口の実態と、農村で活躍する若者、大学生について解説します。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス-講義の目的と進め方-						
第2回：若者の「田園回帰」						
第3回：農村の人口ピラミッド						
第4回：農村の人口と産業						
第5回：農村での「関係人口」の広がりと背景						
第6回：「地域おこし協力隊」とは？						
第7回：地域おこし協力隊の課題と今後の方向性						
第8回：地域おこし協力隊の実像（ゲスト招聘）						
第9回：「域学連携」の広がりと背景						
第10回：「田舎サークル」の広がりと背景（ゲスト招聘）						
第11回：職業としての地域づくり支援（ゲスト招聘）						
第12回：若者の新規就農						
第13回：フィールドワーク①-農村イノベーションと若者-						
第14回：フィールドワーク②-大学生と農村リーダーの交流-						
第15回：まとめ・振り返り						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
教科書は指定しませんが、次回の内容に関連する論文、レポートを紹介、配布することがあります						

ます。講義は、主にパワーポイントでおこない、スライドを印刷し配布する予定です。

参考書・参考資料等

講義内容に関連する書籍やビデオ、講演会等を適宜紹介します。

学生に対する評価

各回の小レポート 50%、期末試験 50%

授業科目名： 農村発展論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山浦 陽一			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
授業のテーマ及び到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村の社会、経済の実態を理解する</li> <li>・地域運営組織の役割と多様性について理解する</li> <li>・地域運営組織と行政の性格、中間支援組織の必要性を理解する</li> </ul>						
授業の概要						
<p>「田舎で輝き隊！」プログラムの1つとして実施します。「農村発展論 I ・ II」では、農村の現状と性格の変化、また抱えている課題とその解決の方向性を、実態に即して学ぶことをねらいとしています。「II」では、農村の社会、経済の実態と、課題解決のプラットフォームとしての「地域運営組織」について解説します。</p>						
授業計画						
第1回：ガイダンス-講義の目的と進め方-						
第2回：「農村」の定義-農村らしさとは?-						
第3回：農村のコミュニティの課題- RMO設立の背景①-						
第4回：農協の実態と課題- RMO設立の背景②-						
第5回：農村の公民館・地区社協-- RMO設立の背景③-						
第6回：地域運営組織とは？						
第7回：地域運営組織の成果と広がり						
第8回：地域運営組織の多様性①自治会連合型						
第9回：地域運営組織の多様性②公民館型						
第10回：地域運営組織の多様性③地域福祉型						
第11回：地域運営組織と市役所の関係						
第12回：中間支援組織の必要性						
第13回：中間支援組織としての「輝き隊」						
第14回：まとめ・ワークショップ						
第15回：フィールドワーク						
定期試験						
テキスト						
教科書は指定しませんが、次回の内容に関連する論文、レポートを紹介、配布することがあります						

ます。講義は、主にパワーポイントでおこない、スライドを印刷し配布する予定です。

参考書・参考資料等

適宜、講義内容に関連する書籍やビデオ、講演会等を紹介します。

学生に対する評価

各回の小レポート 50%、 期末試験 50%

授業科目名： 自治体経営論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 高島拓哉			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
自治体行政改革の歴史・理論・実態および課題。自分の街の課題への評価手法を知る。						
<b>授業の概要</b>						
行政機構や公共サービスシステムを中心にNPMからNPGへ進化しつつある自治体行政改革の理論 ・論点を理解する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：開講にあたって：ガイダンス						
第2回：自治体経営の流れとNPM						
第3回：行政合理化と市場化・民営化（1）公・民の原理的立ち位置や縦割り克服などの課題						
第4回：行政合理化と市場化・民営化（2）NPMの背景を解説し、全体的な論理構造を説明する						
第5回：ごみ処理政策の問題点と評価の在り方—有料化を中心に評価の落とし穴を解説する						
第6回：ごみ処理政策の他の側面：ごみ処理全体から政策選択を考える						
第7回：評価とそのモノサシ：評価の目的、主体、プログラム評価における指標を解説する						
第8回：サービスの質：サービスでは効率概念を単純に適用できないとの学説を検討する						
第9回：民営化をめぐる諸問題（1）企業による保育参入：規制緩和と抱き合わせることの問題性						
第10回：民営化をめぐる諸問題（2）指定管理者制度：公の施設の管理運営委託をめぐる諸論点						
第11回：民営化とめぐる諸問題（3）PFI（前編）水道民営化についてビデオ視聴						
第12回：民営化をめぐる諸問題（4）PFI（後編）コンセッションを含むインフラ民営化の問題						
第13回：「新しい公共」、住民参加、町内会：NPMのもとでの公民関係の変容						
第14回：社会福祉基礎構造改革：措置から契約への制度移行の主要な論点・争点						
第15回：まとめ						
<b>テキスト なし</b>						
<b>参考書・参考資料等</b>						
尾林芳匡（2020）『自治体民営化のゆくえ』自治体研究社ほか講義で紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						
学期末レポート（100%）						

授業科目名： 自治体経営論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 高島拓哉			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
授業のテーマ及び到達目標						
都市計画・都市開発の課題。集約都市だけではないコンパクトシティの深い意味を理解する						
授業の概要						
人口減少時代の都市計画であるコンパクトシティを空き家・インフラと関連させて理解する						
授業計画						
第1回：開講にあたって：ガイダンス						
第2回：ヒートアイランド現象：コンパクトシティの名目での都心集積に釘をさす						
第3回：「都市経営」の継承と断絶：戦前は都市計画が中心だった「都市経営」からの変質						
第4回：都市計画の原理論：地帯分化、公的介入、「小さな政府」						
第5回：都市計画の対象：土地利用（用途・密度）、インフラ・公共施設、環境・景観						
第6回：都市計画制度の概要（1）土地利用規制：民間の開発への規制と誘導						
第7回：都市計画制度の概要（2）区画整理・再開発：受益者負担とその課題						
第8回：コンパクトシティの多義性：市街地拡散防止や複合用途などもコンパクトシティ						
第9回：空き家問題（1）：危険空き家だけでなく受給ミスマッチの状況と背景						
第10回：空き家問題（2）：ニュータウンと郊外アパート開発にみる空き家対策の矛盾						
第11回：インフラ点検の困難：専門人材の不足、図面の消失などで困難化する点検の実態						
第12回：インフラ危機とコンパクトシティ：集約都市論ではなぜインフラ危機に対処できないか						
第13回：立地適正化計画：線を引いて集約をはかるコンパクトシティ政策の問題性						
第14回：アメリカの土地利用規制に学ぶ：不確実性にどう向き合うか						
第15回：まとめ						
テキスト なし						
参考書・参考資料等						
谷口守（2014）『入門都市計画』森北出版、中山徹（2017）『人口減少と大規模開発』自治体研究社ほか講義で紹介する。						
学生に対する評価						
学期末レポート（100%）						

授業科目名： 経済学史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田村哲也			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学がどのような歴史的過程を持つかを知り、経済理論についての理解を深める。</li> <li>・経済学が歴史性をもった学問分野であることを知る。</li> </ul>						
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、経済学を歴史的視点から捉え、経済学の一般的な理論がどのように成立し展開されてきたのかを学びます。特に、それぞれの時代の経済がいかなる問題を抱えていたのかという歴史的背景を考慮することで、経済学の理論が歴史的なものであり、多様なものであることを確認します。</p>						
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス—授業の進め方・概要、成績評価などについて</p> <p>第2回：経済学史とは</p> <p>第3回：重商主義までの展開</p> <p>第4回：古典派経済学の成立と展開</p> <p>第5回：アダム・スミス</p> <p>第6回：デヴィッド・リカード</p> <p>第7回：後発国からの古典派経済学批判</p> <p>第8回：古典派経済学から新古典派経済学へ</p> <p>第9回：限界革命</p> <p>第10回：アルフレッド・マーシャル</p> <p>第11回：経済の二つの意味—主流派経済学と異端派経済学</p> <p>第12回：カール・マルクス</p> <p>第13回：ヨーゼフ・シュンペーター</p> <p>第14回：制度と進化の経済学</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>						
<p>テキスト</p> <p>教科書は指定せず、配布資料を用います。</p>						
<p>参考書・参考資料等</p>						

- ・木村雄一・瀬尾崇・益永淳『学ぶほどおもしろい 経済学史』晃洋書房、2022年。
- ・松尾匡『対話でわかる 痛快明解 経済学史』日経BP社、2009年。

学生に対する評価

定期試験 70%、授業後課題提出 30%

授業科目名： 制度の経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田村哲也			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの経済活動がどのような制度的影響を受けたものであるのかを把握する。</li> <li>・制度という視点から、私たちが生きる資本主義経済についての理解を深める。</li> <li>・制度について学ぶことで、現代経済の問題を考えられるようになる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>一般に経済学は、合理的な個人を想定し、そうした個人間でおこなわれる取引を分析します。しかし、わたしたちは数多くの「制度」（ルール・予想・規範・組織など）に囲まれており、その影響を常に受けながら意思決定をし、経済活動をおこなっています。この授業のねらいは、こうした「制度」という視点から経済を分析する手法を学ぶことにあります。そのために必要な概念や専門知識について学びながら、日本経済、世界経済の動向を解説していきます。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス—授業の進め方・概要、制度の経済学とは						
第2回：制度とは						
第3回：制度とホモ・エコノミクス（1）諸個人の利潤追求行為						
第4回：制度とホモ・エコノミクス（2）諸個人の他者に対する同感						
第5回：制度としての市場						
第6回：組織としての企業						
第7回：労働分配率の決定						
第8回：グローバリゼーション下の企業行動						
第9回：国際収支の変化とグローバルな不均衡						
第10回：資本主義の多様性と制度的比較優位（1）経済調整の多様性						
第11回：資本主義の多様性と制度的比較優位（2）制度的補完性と制度的比較優位						
第12回：格差と制度（1）格差の概観とその倫理・哲学的次元						
第13回：格差と制度（2）格差をどのように解消するか						
第14回：政治的なものと経済的なもの						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						

教科書は指定せず、配布資料を用います。

参考書・参考資料等

- ・アブナー・グライフ『比較歴史制度分析 上・下』ちくま学芸文庫、2021年。
- ・藤田真哉・北川亘太・宇仁宏幸『現代制度経済学講義』ナカニシヤ出版、2023年。

学生に対する評価

期末試験 70%、授業後課題提出 30%

授業科目名： 心理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井川 純一			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 公民)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」					
<p><b>授業のテーマ及び到達目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学のアプローチや基礎的な用語を習得する</li> <li>・日常生活で起こる事象を心理学的な視点で観察することができるようになる。</li> <li>・専門的な内容を他者にわかりやすく伝えられるようになる。</li> <li>・得られた知識を元に建設的な議論を行えるようになる。</li> </ul>						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>心理学は「心の科学」であり、感じること、考えること、思いやることなど「心の働き」を明らかにしようとする学問である。本講義は、心理学のさまざまな研究分野の中から毎回異なるトピックに焦点を当て、学問としての心理学のエッセンスを網羅していく心理学の入門講義として位置づける。講義においては、心理学論、心理学史、学習心理学、知覚心理学、認知心理学、性格心理学、社会心理学、発達心理学、進化心理学、臨床心理学、心理学研究法といった広範な領域を機能主義、行動主義の観点から分野ごとに概観する。講義毎にミニレポートを提出させ、それに対するフィードバックを行う双方向型の講義とする。また、精神保健福祉士としての実務経験を活かしてメンタルヘルスの問題や臨床心理の現状などについても説明する。</p>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：イントロダクション 心理学とは</p> <p>第2回：心理学とは何か？（心理学論）</p> <p>第3回：心理学はいかに研究してきたか？（心理学史）</p> <p>第4回：経験から学ぶ（学習心理学）</p> <p>第5回：情報の入力（知覚心理学）</p> <p>第6回：情報の蓄積（認知心理学：記憶）</p> <p>第7回：出力としての思考・判断・意思決定（認知心理学：意思決定）</p> <p>第8回：行動の一貫性と個人差（性格心理学）</p> <p>第9回：社会的存在としてのヒト（社会心理学）</p> <p>第10回：ヒトの個体発生（発達心理学）</p> <p>第11回：ヒトの系統発生（進化心理学）</p> <p>第12回：心理学の臨床的応用（臨床心理学）</p>						

第13回：心理学はいかに研究するのか？（心理学研究法）

第14回：心理学研究において注意すべき点（心理学と研究倫理）

第15回：講義のまとめ

定期試験

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

学生の理解に応じて講義中に紹介する

学生に対する評価

講義毎に提出させるミニレポート（30%）及び期末試験（70%）で評価する。

授業科目名： 公民科指導法A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 平田 利文
担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

#### 授業のテーマ及び到達目標

- (1) 公民教育の現状と課題、及び公民科教育の実践的動向について理解することができる。
- (2) 学習指導要領における公民科の目標や内容について理解することができる。
- (3) 学習指導要領公民科の目標と内容に基づき、具体的な単元計画、学習指導案及び模擬授業案を作成し、模擬授業を実施することができる。
- (4) 生徒の状況を想定してICT教材を活用する学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。

#### 授業の概要

公民教育の現状と課題、公民科教育の実践的動向を理解し、学習指導要領公民科の目標と内容について理解し、具体的な単元計画及、学習指導案及び模擬授業案を作成・実施する。

#### 授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：公民教育の現状と課題

第3回：公民科教育の実践研究の動向

第4回：学習指導要領公民科の目標と内容の理解：「公共」

第5回：学習指導要領公民科の目標と内容の理解：「倫理」

第6回：学習指導要領公民科の目標と内容の理解：「政治・経済」

第7回：公民科の評価方法

第8回：学習指導要領公民科の全体構成についてのまとめ

第9回：ICTを活用した単元計画の作成：「公共」

第10回：ICTを活用した単元計画の作成：「倫理」

第11回：ICTを活用した単元計画の作成：「政治・経済」

第12回：ICTを活用した学習指導案及び模擬授業の作成・実施「公共」

第13回：ICTを活用した学習指導案及び模擬授業の作成・実施「倫理」

第14回：ICTを活用した学習指導案及び模擬授業の作成・実施「政治・経済」

第15回：学習指導案に基づく模擬授業の作成・実施に関する振り返り

定期試験は実施しない

※毎回、テーマに関する討論学習（アクティブラーニング）を設定する。実践研究の動向について振り返る。

テキスト

高等学校学習指導要領、（2022年度実施 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 公民編（2022年度実施 文部科学省）

参考書・参考資料等

高校公民科の教科書

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

単元計画・学習指導案・模擬授業案の提出（80%），模擬授業の実施（20%）

授業科目名： 公民科指導法B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 利文 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>公民科指導法Aを踏まえて、具体的な目標は、</p> <p>(1) 公民科の模擬授業の事例を分析することができる。</p> <p>(2) ICTを活用した公民科の模擬授業のための学習指導案を作成することができる。</p> <p>(3) ICTを活用した公民科の模擬授業を計画し、実施することができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
高校公民科の模擬授業を分析することができ、単元計画及び学習指導案を作成し、模擬授業を実施することができる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション						
第2回：公民科の模擬授業の分析：公共（教育機器の活用、ビデオ利用）						
第3回：公民科の模擬授業の分析：倫理（教育機器の活用、ビデオ利用）						
第4回：公民科の模擬授業の分析：政治経済（教育機器の活用、ビデオ利用）						
第5回：ICTを活用した公民科授業の学習指導案作成：公共						
第6回：ICTを活用した公民科授業の学習指導案作成：倫理						
第7回：ICTを活用した公民科授業の学習指導案作成：政治経済						
第8回：模擬授業の実施(1)：公共（学習指導要領内容項目A）（教育機器の活用、ビデオ利用）						
第9回：模擬授業の実施(2)：公共（学習指導要領内容項目B・C）（教育機器の活用、ビデオ利用）						
第10回：模擬授業の実施(3)：倫理（学習指導要領内容項目A）（教育機器の活用、ビデオ利用）						
第11回：模擬授業の実施(4)：倫理（学習指導要領内容項目B）（教育機器の活用、ビデオ利用）						
第12回：模擬授業の実施(5)：政治経済（学習指導要領内容項目A）（教育機器の活用、ビデオ利用）						
第13回：模擬授業の実施(6)：政治経済（学習指導要領内容項目B）（教育機器の活用、ビデオ利用）						
第14回：評価方法についてのまとめと振り返り						
第15回：学習指導案及び模擬授業に関するまとめと振り返り						
定期試験は実施しない						

※毎回、テーマに関する討論学習（アクティブラーニング）を設定する。模擬授業について振り返る。

テキスト

高等学校学習指導要領、（2022年度実施 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 公民編（2022年度実施 文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配付する。

学生に対する評価

単元計画・学習指導案の作成及び模擬授業の実施（50%），模擬授業の実施内容（50%）

授業科目名： 会計学入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山根 陽一			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>目標 1：会計の基本的な用語を、文脈に応じて適切に利用できる。</p> <p>目標 2：小規模企業の簿記一巡の手続き（日商簿記検定初級レベル）を行うことができる。</p> <p>目標 3：企業内部の経営者や企業外部の利害関係者の立場から、会計情報を使った初歩的な分析を行うことができる。</p>						
授業の概要						
<p>会計は「ビジネスの言語」とよばれており、経済活動の中で、人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。そのため、基本的な会計用語の意味や会計情報の使い方は、2年次以降に所属する学科を問わず、経済学部の学生全員が理解しておく必要があります。また、経済社会には会計を専門とする職業（税理士や公認会計士など）があります。これらの職業を目指す人にとっては、体系的な知識を基礎から積み上げていくことが重要です。この授業では、会計学の体系とその基礎知識を学ぶことにより、今後の専門知識の学び方や自らのキャリアを効果的にデザインできるようになることをねらいとしています。</p>						
授業計画						
<p>第1回 イントロダクション：簿記・会計とは</p> <p>第2回 簿記・会計の目的（1）：会計期間、貸借対照表</p> <p>第3回 簿記・会計の目的（2）：損益計算書</p> <p>第4回 会計報告書の作り方（1）：取引と勘定記入</p> <p>第5回 会計報告書の作り方（2）：仕訳と転記</p> <p>第6回 会計報告書の作り方（3）：商品売買の記帳（1）現金・掛取引、返品</p> <p>第7回 会計報告書の作り方（4）：商品売買の記帳（2）諸掛、前払金・前受金</p> <p>第8回 会計報告書の作り方（5）：現金・預金、貸付金・借入金の記帳</p> <p>第9回 会計報告書の作り方（6）：その他の資産・負債の記帳、仕訳帳と総勘定元帳</p> <p>第10回 会計報告書の作り方（7）：試算表の作成と月次の集計</p> <p>第11回 会計報告書の作り方（8）：決算と貸借対照表・損益計算書の作成</p> <p>第12回 会計情報の使い方（1）：財務諸表の構造と入手方法</p> <p>第13回 会計情報の使い方（2）：企業外部の利害関係者による財務諸表分析</p> <p>第14回 会計情報の使い方（3）：企業内部の経営者による経営状況の分析</p>						

第15回 簿記・会計と職業（公認会計士の先生を招いた講演会を予定）

定期試験

テキスト

資格の大原（2021）『大原で合格（うか）る日商簿記3級（第3版）』中央経済社。

参考書・参考資料等

谷武幸・桜井久勝・北川教央（2021）『1からの会計（第2版）』碩学舎・中央経済社。

滝澤ななみ（2023）『みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級 商業簿記（第11版）』TAC出版。

滝澤ななみ（2023）『みんなが欲しかった 簿記の問題集 日商3級 商業簿記（第11版）』TAC出版。

学生に対する評価

提出課題（25%），期末試験（75%）

授業科目名： 経営学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加納 拡和			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標						
本科目の到達目標は以下の 2つである。①今日の経営学における主要な理論的枠組みを理解し、説明できるようになること②学習した理論的枠組みを用いて、企業経営に関する現象を客観的に分析できるようになること						
授業の概要						
本授業では経営学における代表的な理論を幅広く学ぶ。経営学は他の社会科学（主に経済学、社会学、心理学）の知見を応用することを通じて発展してきた。それゆえ、経営学には多種多様な理論が存在する。そこで本授業では経営学の主要理論を経済学ベース、社会学ベース、心理学ベースに分類し、それぞれの理論的枠組みについて理解を深めていく。						
授業計画						
第1回：ガイダンス						
第2回：経営学の特徴						
第3回：経済学ベースの経営理論 (1) 競争戦略論の2つのアプローチ						
第4回：経済学ベースの経営理論 (2) エージェンシー理論						
第5回：経済学ベースの経営理論 (3) 取引費用経済学						
第6回：経済学ベースの経営理論 (4) リアル・オプション理論						
第7回：心理学ベースの経営理論 (1) 企業行動理論						
第8回：心理学ベースの経営理論 (2) 組織学習理論						
第9回：心理学ベースの経営理論 (3) リーダーシップの理論						
第10回：心理学ベースの経営理論 (4) モチベーションの理論						
第11回：社会学ベースの経営理論 (1) 弱い紐帯の強みの理論						
第12回：社会学ベースの経営理論 (2) 構造的空隙理論						
第13回：社会学ベースの経営理論 (3) 制度理論						
第14回：社会学ベースの経営理論 (4) 資源依存理論						
第15回：本授業のまとめ						
定期試験						
テキスト						
入山章栄 (2019) 『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社。						

参考書・参考資料等

Moodle上で授業レジュメを配布する。

学生に対する評価

ミニッツペーパー（60%）、レポート（40%）

授業科目名： 国際経営論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加納 拡和			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
本科目の到達目標は以下の 2つである。①今日の国際経営論における主要な理論的枠組みを理解し、説明できるようになること②学習した理論的枠組みを用いて、企業の国境を越えた諸活動を客観的に分析できるようになること						
<b>授業の概要</b>						
本授業では国際経営論における代表的な理論的枠組みを学ぶことがある。「グローバル化」が進展した今日においても国家間で法制度や文化、商慣習は未だに大きく異なっている。それゆえ、企業が国境を越えて事業活動を展開する際には様々な次元の「国家間の差異」の影響を受けていることが諸研究において示されている。そこで本授業では国際経営論の中心的な理輪的枠組みを学ぶことを通じて、国家間の差異と企業の国境を越えた事業活動の関係性について理解を深めていく。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：国際経営論とは						
第3回：海外直接投資の理論 (1) ハイマーの所説						
第4回：海外直接投資の理論 (2) 内部化理論						
第5回：海外直接投資の理論 (3) OLIパラダイム						
第6回：海外直接投資の理輪 (4) OLIパラダイムの限界と国際企業家綸						
第7回：多国籍企業の組織デザイン (1) 多国籍企業の戦略と組織デザイン						
第8回：多国籍企業の組織デザイン (2) 1-Rフレームワーク						
第9回：多国籍企業の組織デザイン (3) 本社と海外子会社						
第10回：多国籍企業の組織デザイン (4) 国際人的資源管理						
第11回：グローバル・イノベーション (1) 類型とその扱い手						
第12回：グローバル・イノベーション (2) メタナショナル経営						
第13回：グローバル・イノベーション (3) ダイバーシティ経営						
第14回：日本企業のグローバル経営とその課題						
第15回：本授業のまとめ						
<b>定期試験</b>						

テキスト

- ・大木清弘（2018）『コア・テキスト国際経営』新世社。

参考書・参考資料等

Moodle上で授業レジュメを配布する。

学生に対する評価

ミニッツペーパー（60%）、レポート（40%）

授業科目名： 会計学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山根 陽一			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
目標 1：財務会計の基本的な用語や考え方を、文脈に応じて適切に利用できる。						
目標 2：損益計算書と貸借対照表の主要な項目について、関連する会計処理(仕訳、転記、科目残高の計算)を行うことができる。						
目標 3：損益計算書と貸借対照表を用いて、企業の収益性・安全性に関する基本的な分析を行うことができる。						
目標 4：会計制度・会計処理の概要やその背後にある考え方を、文章で論理的に説明できる。						
<b>授業の概要</b>						
この授業では、ビジネスに携わる人であれば誰でも必要となる会計の基礎を学びます。「会計学入門」や「初級簿記」では主に、企業活動を記録・計算する仕組みを学習しました。この授業では記録・計算の側面だけでなく、その背後にある考え方や、作成された会計書類の使い方も学習していきます。また、有名企業に関する新聞記事などを取り上げることで、学んだ知識と現実の企業活動との結びつきをイメージできるようにします。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス:授業のねらい・成績評価方法などの説明、会計学分野の全体像と学び方						
第2回：企業会計への法規制:会社法・金融商品取引法・法人税法による会計						
第3回：利益計算の仕組み:企業活動の描写、複式簿記の構造、利益計算と財務諸表						
第4回：利益計算のルール:会計基準の必要性、会計基準の設定、損益計算書原則と貸借対照表原則						
第5回：売上高と売上債権:営業循環における収益の認識、利益計算への影響の比較、売上債権						
第6回：棚卸資産と売上原価:棚卸資産の範囲、取得原価、原価配分、期末評価						
第7回：固定資産と減価償却 (1) :固定資産の範囲と区分、取得原価、原価配分(減価償却)						
第8回：固定資産と減価償却 (2) :固定資産の原価配分(減損、除却・売却による損益)、繰延資産						
第9回：金融活動の資産と損益:現金預金の範囲と管理、有価証券の範囲と区分、有価証券の取得原価と期末評価						
第10回：営業上の負債と他人資本:負債の範囲と区分、営業上の負債、引当金						
第11回：資本の充実と剰余金の分配:資本の意味と区分、資本金と資本剰余金、留保利益とその分配						
第12回：財務諸表の作成と報告 (1) :法定された会計報告書、損益計算書・貸借対照表の内容						
第13回：財務諸表の作成と報告 (2) :株主資本等変動計算書の内容、会計方針の注記						

第14回：財務諸表による経営分析:収益性の分析、安全性の分析

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

桜井久勝 (2018) 『会計学入門(第5版)』 日経文庫。

参考書・参考資料等

片山覚ほか (2020) 『入門会計学(改訂版)』 実教出版。

川島健司 (2021) 『起業ストーリーで学ぶ会計』 中央経済社。

桜井久勝 (2019) 『財務会計の重要論点』 税務経理協会。

学生に対する評価

提出課題 (25%) , 期末試験 (75%)

授業科目名： 会計学II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山根 陽一			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標						
2024年2月の日商簿記検定2級(商業簿記)で出題されるレベルの問題を解くことができる。						
授業の概要						
近年の企業では、輸出入などの国際活動が日常化しており、子会社などを利用したグループ経営も一般的となっていました。また、日商簿記検定2級においても、2017年度からは外貨建取引や連結会計などの応用領域が出題されるようになりました。そこでこの授業では、日商簿記検定2級(商業簿記)の内容のうち、前期の「中級簿記」「株式会社簿記」や「会計学I」で取り上げられなかった応用領域を学習します。						
授業計画						
第1回：「会計学 I」の復習:収益・費用の認識基準						
第2回：「中級簿記」の復習:資産の会計						
第3回：「株式会社簿記」の復習:負債・資本の会計						
第4回：決算手続 (1) :精算表の作成						
第5回：決算手続 (2) :帳簿の締切り						
第6回：決算手続 (3) :貸借対照表・損益計算書・株主資本等変動計算書の作成						
第7回：本支店会計 (1) :本支店間取引・支店間取引						
第8回：本支店会計 (2) :決算手続						
第9回：連結会計 (1) :資本連結 I (連結財務諸表の基礎知識、支配獲得日の連結)						
第10回：連結会計 (2) :資本連結 II (支配獲得後1期目の連結)						
第11回：連結会計 (3) :資本連結 II の続き (支配獲得後2・3期目の連結)						
第12回：連結会計 (4) :成果連結(内部取引高と債権・債務の相殺消去、未実現損益の消去)						
第13回：連結会計 (5) :連結株主資本等変動計算書の作成						
第14回：キャッシュ・フロー計算書						
第15回：まとめ						
定期試験						
テキスト						
TAC簿記検定講座(2022)『合格テキスト日商簿記2級商業簿記 Ver. 16. 0』 TAC出版。						
TAC簿記検定講座(2022)『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記 Ver. 16. 0』 TAC出版。						

参考書・参考資料等

CPA会計学院 (2022) 『いちばんわかる日商簿記 2級商業簿記の教科書』 アガルート・パブリッシング。

滝澤ななみ(2022) 『みんなが欲しかった簿記の教科書 日商2級商業簿記(第1版)』 TAC出版。

山地範明 (2021) 『エッセンシャル連結会計(第 2版)』 中央経済社。

学生に対する評価

提出課題 (25%) , 期末試験 (75%)

授業科目名： 経営史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邊 博子			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
経営史という学問を知り、それを学ぶ理由を理解するとともに、企業や経営システムの成り立ちや歴史を知り、多くの知識を修得します。また、欧米諸国と比べることで、日本の企業や経営システムの独自性や経済発展へのインパクトを理解します。さらに、企業や経営システムの現状とこれからのあり方について考えていきます。						
<b>授業の概要</b>						
本授業では、一国の社会経済や産業の発展過程をふまえたうえで、個人や組織によるモノやサービス、情報などの創出と提供、それによる利潤の追求などがいかになされてきたのかを、過去の企業家や経営者、企業による意思決定や行動の経緯、要件、背景などを含めて歴史的に解説していきます。そこで、まず、経営史という学問についてアメリカで生み出された経緯や問題意識などとともに、欧米経営史の概要を把握します。次に、日本の社会経済の発展と日本経営史の概要をふまえたうえで、年代ごとに特徴ある企業や経営システムについて、事例研究も交えながら理解します。最終的には、それらをもとに日本企業の現況とこれからのあり方などについても考えていきます。						
<b>授業計画</b>						
第1回：本授業のねらいと内容および進め方、経営史という学問						
第2回：欧米経営史の概要						
第3回：日本経済の発展と日本経営史の概要						
第4回：江戸時代から第1次世界大戦までの経営						
第5回：両大戦間期の経営（1）財閥の多角化と組織、重化学工業化と新興財閥						
第6回：両大戦間期の経営（2）技術経営の誕生、「日本の」人事管理とサラリーマンの誕生						
第7回：両大戦間期の経営（3）都市型ビジネスの成立						
第8回：第2次世界大戦後（1）経済民主化と企業変革						
第9回：第2次世界大戦後（2）大衆消費社会の到来と家電メーカーの発展						
第10回：第2次世界大戦後（3）企業集団とメインバンク						
第11回：第2次世界大戦後（4）日本の生産システムの形成						
第12回：第2次世界大戦後（5）流通のイノベーション						
第13回：第2次世界大戦後（6）変貌する総合商社						

第14回：第2次世界大戦後（7）日本の経営とその変容

第15回：講義のまとめ、日本企業の現況と今後のあり方について

定期試験

テキスト

宮本又郎・岡部桂史・平野恭平編著『1からの経営史』碩学舎、2014年。

参考書・参考資料等

- ・佐々木聰編著『グラフィック経営史』新世社、2022年。
  - ・安部悦生『経営史〈第2版〉』（日経文庫）日本経済新聞社、2010年。
  - ・鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』（有斐閣アルマ）有斐閣、2004年、など。
- その他、講義の中で適宜紹介します。

学生に対する評価

期末試験結果（70%）、授業参加姿勢（課題対応など）（30%）

授業科目名： サステナブルビジネス と起業	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邊 博子			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <p>サステナブルビジネス、イノベーションやアントレプレナーシップの必要性と重要性を理解したうえで、ベンチャ一起業のビジネス的側面を具体的に把握し、起業に対する多くの知識を修得します。多くの事例を通じて、アイデア創出や取り巻く課題対応などを行います。</p>						
<b>授業の概要</b> <p>本授業では、サステナブルビジネスを持続可能な企業とし、その創出に関わる側面を起業として捉えたうえで、ベンチャー企業の定義や概念を知り、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化について把握します。企業の創出にかかわるアントレプレナーシップ、企業の成長や経営の取り組みにかかわるイノベーションなどの歴史や本質についての理解も深めていきます。さらに、日米におけるベンチャー企業の動向を知るとともに、ベンチャーを起業する際のビジネス的側面であるヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源の活用の仕方、起業のための条件や手法を具体的に、特に地元大分のベンチャー企業の創出、成長や発展、課題など事例研究もふまえたうえで考察していきます。</p>						
<b>授業計画</b> <p>第1回：サステナブルビジネスの定義、ベンチャー企業の概念や歴史、経済・産業・社会的環境</p> <p>第2回：イノベーションの概念と重要性</p> <p>第3回：アントレプレナーシップと起業家像</p> <p>第4回：日本およびアメリカにおけるベンチャー企業</p> <p>第5回：ベンチャ一起業のビジネス的側面（1）：新しい事業機会とその評価</p> <p>第6回：ベンチャ一起業のビジネス的側面（2）：アイデアの育成</p> <p>第7回：ベンチャ一起業のビジネス的側面（3）：収益の仕組み</p> <p>第8回：ベンチャ一起業のビジネス的側面（4）：販売や市場開拓</p> <p>第9回：ベンチャ一起業のビジネス的側面（5）：差別化や強み</p> <p>第10回：ベンチャ一起業のビジネス的側面（6）：事業計画書の作成</p> <p>第11回：ベンチャ一起業のビジネス的側面（7）：資金調達と資金管理</p> <p>第12回：ベンチャ一起業のビジネス的側面（8）：成長と目標</p> <p>第13回：大分におけるベンチャー企業の事例研究（1）：モノづくり分野</p> <p>第14回：大分におけるベンチャー企業の事例研究（2）：サービス提供分野</p>						

第15回：講義のまとめ、ベンチャー企業の今後の姿

定期試験

テキスト

忽那憲治・長谷川博和・高橋徳行他『アントレプレナーシップ入門—ベンチャーの創造を学ぶ一』有斐閣、2013年。

参考書・参考資料等

- トーマツベンチャーサポート『起業の教科書』日経BP社、2016年。
- 松田修一『ベンチャー企業（第4版）』（日経文庫）日本経済新聞社、2014年。
- 鈴木克也編集『ソーシャルベンチャーの理論と実践—理論と実践シリーズ一』エコハ出版、2011年。
- 金井一頼・角田隆太郎編『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年。
- 一橋大学イノベーション研究センター編『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年、など。その他、講義の中で適宜紹介します。

学生に対する評価

期末試験結果（60%）、授業参加姿勢（アイデア創出、課題対応など）（40%）

授業科目名： サステナブルビジネス と実践	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 渡邊 博子 担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>サステナブルビジネス、イノベーションやアントレプレナーシップなどのベンチャーに関する概念を確認し、社会と関連づけたうえで、企業創出と事業運営のビジネス的側面を把握します。また、アイデア創出やビジネスプランの作成を通じて起業や事業運営について考え、他者に説明できるようにします。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業では、サステナブルビジネスを持続可能な企業とし、ベンチャー企業などの定義や概念、関連するイノベーションやアントレプレナーシップ、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化などについてさらに理解を深めていきます。また、ベンチャ一起業のビジネス的側面として、アイデアの育成、収益の出し方、販売促進や市場開拓、差別化や事業の強みなどを再認識したうえで、実際にビジネスプランを作成してもらいます。アイデアやテーマの選定、ビジネスモデルの構築とその事業可能性などについて考察しながら、様々な知識を用いてビジネスプランを考え、他者に説明する機会を設定します。また、ビジネスプランの実践として、実際に起業したり、アントレプレナーシップを身につけイノベーションに取り組んだり、本授業を自身のキャリアの一環として捉えてもらえるようにも実施していきたいと思います。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：サステナブルビジネス、イノベーションとアントレプレナーシップ、起業						
第2回：ベンチャ一起業のビジネス的側面（1）アイデアの育成、収益の出し方						
第3回：ベンチャ一起業のビジネス的側面（2）販売促進や市場開拓、事業戦略						
第4回：ベンチャーの成長と多様なスタイル						
第5回：ビジネスプランの必要性と実際						
第6回：アイデアの育成やテーマの選定（1）モノづくり分野						
第7回：アイデアの育成やテーマの選定（2）サービス提供分野						
第8回：ビジネスモデルの構築と事業としての設立可能性（1）モノづくり分野						
第9回：ビジネスモデルの構築と事業としての設立可能性（2）サービス提供分野						
第10回：ビジネスプランの作成（1）概要や事業の内容、優位性など						
第11回：ビジネスプランの作成（2）市場把握、顧客やユーザーの特性など						
第12回：ビジネスプランの作成（3）資金や費用、考えられるリスクなど						

第13回：作成したビジネスプランの発表（1）自分の発表

第14回：作成したビジネスプランの発表（2）他者の評価

第15回：講義のまとめ、ベンチャーや起業などのこれからの方のあり方

定期試験

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

- ・田所雅之『起業の科学－スタートアップサイエンス』日経BP社、2017年。
- ・松重和美監修・三枝省三・竹本拓治編著『アントレプレナーシップ教科書』中央経済社、2016年。
- ・川上智子・徳常泰之・長谷川伸編著『実践ビジネスプラン－事業創造の基礎力を鍛える－第2版』中央経済社、2015年。
- ・グロービス経営大学院『グロービスMBAビジネスプラン・新版』ダイヤモンド社、2010年、など。その他、講義の中で適宜紹介します。

学生に対する評価

期末試験結果（60%）、授業参加姿勢（アイデア創出、課題対応など）（40%）

授業科目名： 企業論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 河野憲嗣			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標						
企業の組織形態や機能、また社会における役割や課題について理解して説明できる。						
授業の概要						
企業実務の事例を引用しながら、企業の基本的な仕組みや社会との関わりについて解説する。						
授業計画						
第1回：オリエンテーション、企業の現状と課題						
第2回：企業組織の諸形態						
第3回：企業の発生と発達						
第4回：企業と事業						
第5回：ケーススタディ 1 (町家旅館)						
第6回：企業と金融市場 (ファイナンスの視点から)						
第7回：企業と労働市場 (人的資源管理の視点から)						
第8回：企業と製品・サービス 1 (経営戦略の視点から)						
第9回：企業と製品・サービス 2 (マーケティングの視点から)						
第10回：ケーススタディ 2 (チェック・トランケーション)						
第11回：企業倫理						
第12回：コーポレートガバナンス						
第13回：スマールビジネス						
第14回：非営利組織への展開 (病院、NPO)						
第15回：学生によるプレゼンテーションと総括						
定期試験：実施する						
テキスト						
独自に作成したスライドを使う。スライドは事前に掲示、配布する。						
参考書・参考資料等						
『経営学要論』 (佐藤誉編著、泉文堂) 『1からの経営学』 (加護野・吉村編、中央経済社)						
学生に対する評価						
定期試験 (40%)、レポート (40%)、毎回の授業後に提出するコメント (20%)						

授業科目名：研究開発マネジメント論	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：河野憲嗣 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
研究開発マネジメントの概要や仕組み、具体的な手法について理解して説明できる。						
<b>授業の概要</b>						
企業実務の事例を引用して、研究開発を成功裡に導くマネジメントのあり方を解説する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション 研究開発マネジメントを考える						
第2回：生産システムの基礎						
第3回：業務プロセス設計						
第4回：サービスマネジメント						
第5回：競争力の管理						
第6回：研究開発力の構築						
第7回：デザイン思考1 Observation 観察する						
第8回：デザイン思考2 Ideation 発想する						
第9回：デザイン思考3 Visualization 具体化する						
第10回：デザイン思考4 Combination 創造する						
第11回：研究開発とイノベーション						
第12回：プレゼンと講評1 (学生による発表)						
第13回：プレゼンと講評2 (学生による発表)						
第14回：プレゼンと講評3 (学生による発表)						
第15回：まとめ 思考から実践へ						
<b>定期試験：実施する</b>						
<b>テキスト</b>						
独自に作成したスライドを使う。スライドは事前に掲示、配布する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
『生産マネジメント入門Ⅰ』、『同Ⅱ』（藤本隆弘著、日本経済新聞出版社）						
<b>学生に対する評価</b>						
定期試験（20%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（30%）、 毎回の授業後に提出するコメント（20%）						

授業科目名： 経営組織論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 本谷 るり			
担当形態： 単独						
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
経営組織論についての専門的知識や理論を身につけ、企業組織のしくみを理解し、企業を経営組織の視点から捉えることができる。						
<b>授業の概要</b>						
経営組織論についての専門的知識や理論のうち、基礎となる部分の習得がねらいです。企業組織とは何か、組織がなぜ必要とされるのか、どのようにして判断し行動しているのか、組織と人の関わりはどのようなものか、などについて考える手立てとなる知識と理論を学びます。そして、最終的にはそれらを活用して企業組織を分析できるようになることを目指します。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス、学修の対象と範囲						
第2回：組織について学ぶこと						
第3回：組織の概念						
第4回：組織に関わる理論とその変遷						
第5回：組織の均衡						
第6回：組織の構造とデザイン						
第7回：合理性と官僚制						
第8回：社会化と組織文化						
第9回：前半の復習とこれまでの課題の解説、中間試験						
第10回：意思決定						
第11回：組織と環境						
第12回：組織における個人・集団						
第13回：リーダーとフォロワー						
第14回：コンフリクト						
第15回：組織と社会						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
講義中に常に用いるテキストはありません。授業の際に資料を配布し、参考文献の提示を行います。復習に活用してください。						

**参考書・参考資料等**

初回授業で、活用してほしいテキストレベルの文献リストを配布します。さらに各回の講義の際に、関連する専門的文献を提示します。

**学生に対する評価**

中間試験（50%）と期末試験（50%）で評価します。

授業科目名： 組織革新論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 本谷 るり  担当形態： 単独			
科 目	教科および教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
企業組織の革新や変革に関する理論を身につけ、企業組織の継続と発展について変革の理論を用いて説明することができる。						
<b>授業の概要</b>						
経営組織論の知識や理論を習得した上で、それらを応用して「組織の革新」を考える諸理論を学び、自ら考えることがこの講義のねらいです。企業組織が継続力を持つためには革新することが大きなポイントとなります。企業の事例を見ながら、どのような革新をいかに行うか、また次の革新につなげることなどを考えます。						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス、経営組織論についての確認と復習						
第2回：組織のライフサイクルモデル(1)グレイナーのモデル						
第3回：組織のライフサイクルモデル(2)エコロジー・アプローチ						
第4回：組織と戦略のダイナミクス(1)チャンドラーのモデル						
第5回：組織と戦略のダイナミクス(2)ガルブレイスとネサンソンのモデル、組織と戦略の関係						
第6回：組織文化の変革						
第7回：組織学習(1)組織学習の概念、組織学習のモデル						
第8回：組織学習(2)不完全な組織学習、変革を導く組織学習						
第9回：戦略的な組織変革(1)組織変革への認識と計画策定						
第10回：戦略的な組織変革(2)組織変革モデルと組織学習からみる組織変革の困難さ						
第11回：前半の復習とこれまでの課題の解説、中間試験						
第12回：組織化と進化(1)多様性とその削減について						
第13回：組織化と進化(2)ワイクの組織化のモデル						
第14回：組織変革の事例(1)ソニー、小松製作所等						
第15回：組織変革の事例(2)花王、任天堂等						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
講義中に常に用いるテキストはありません。授業の際に資料を配布し、参考文献の提示を行						

います。復習に活用してください。

参考書・参考資料等

初回授業で、活用してほしいテキストレベルの文献リストを配布します。さらに各回の講義の際に、関連する専門的文献を提示します。

学生に対する評価

中間試験（50%）と期末試験（50%）で評価します。

授業科目名： 経営戦略論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仲本 大輔			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標						
企業の経営戦略に関するニュース、記事に対し、理論的枠組みを用いて自らの視点で分析・考察できるようになる。						
授業の概要						
企業を取り巻く環境の変化が激しい今日、企業が進むべき基本的方向を示す経営戦略の重要性はますます高まっています。本講義では、経営戦略の概念、経営戦略の策定のあり方、経営戦略の捉え方、を経営戦略論で提示されている代表的なフレームワークを学ぶことで理解することをねらいとします。						
授業計画						
第1回：ガイダンス						
第2回：経営戦略の概念						
第3回：経営戦略論の展開						
第4回：ドメインの定義① ドメインの定義の重要性、ドメインコンセンサス						
第5回：ドメインの定義② 物理的定義と機能的定義						
第6回：ドメインの再定義						
第7回：経営資源① 経営資源の定義と分類						
第8回：経営資源② 情報的経営資源の重要性、ROI						
第9回：PPM① PPMの作成方法						
第10回：PPM② 作成したPPMから導かれる戦略案、PPMの限界						
第11回：ポジショニング戦略論① 価値連鎖、業界構造分析						
第12回：ポジショニング戦略論② ポーターが提示する3つの基本戦略						
第13回：資源ベース戦略論① コア・コンピタンス						
第14回：資源ベース戦略論② VRIO分析						
第15回：プロセス型戦略論						
定期試験						
テキスト						
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智（2016）『経営戦略〔第3版〕』有斐閣						
参考書・参考資料等						

周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔（2009）『経営学1』実教出版。その他適宜紹介します。

学生に対する評価

定期試験（90%）、小レポート（10%）

授業科目名： 製品開発論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仲本 大輔			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の新規事業開発のあり方（新製品・新サービスの開発プロセス）について自らの視点で分析・考察できるようになる。</li> <li>・企業の多角化戦略のあり方について自らの視点で分析・考察できるようになる。</li> <li>・イノベーションと企業経営との関係について自らの視点で分析・考察できるようになる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本講義は製品やサービスの開発に関わる様々なテーマを経営戦略論の観点から探っていきます。企業が存続し成長していくための方法の1つとして新製品や新サービスの開発がありますが、そのためには企業はいかなる経営戦略を策定し、組織を動かしているか、を理解することをねらいとします。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：ガイダンス						
第2回：経営戦略論の復習						
第3回：市場地位別の戦略						
第4回：企業の多角化戦略① 多角化への要因、および多角化を実現するために必要な要因						
第5回：企業の多角化戦略② 多角化戦略の分類						
第6回：企業の新規事業開発						
第7回：社内ベンチャー① 社内ベンチャーによる新製品・新サービス開発の実例						
第8回：社内ベンチャー② ミドル発の新規事業開発						
第9回：社内ベンチャー③ トップ主導の新規事業開発						
第10回：イノベーションと企業の経営戦略① アバナシーのモデル						
第11回：イノベーションと企業の経営戦略② 脱成熟						
第12回：イノベーションと企業の経営戦略③ 再成熟過程での企業の経営戦略						
第13回：製品アキテクチャ論① 製品アキテクチャの概念						
第14回：製品アキテクチャ論② 製品アキテクチャ論から見る企業の経営戦略						
第15回：業界標準をめぐる企業の経営戦略						
<b>定期試験</b>						
テキスト						

指定しません。

参考書・参考資料等

- ・大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智（2016）『経営戦略〔第3版〕』有斐閣。
- ・周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔（2009）『経営学1』実教出版。

その他適宜紹介します。

学生に対する評価

定期試験（90%）、小レポート（10%）

授業科目名： 人的資源管理論I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：于 松平 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
本講義では、他社とともに働く、協業するために必要なマネジメントの知識及びスキルを実践と組み合わせて学ぶことを目的とします。						
<b>授業の概要</b>						
現代のビジネス環境では、プロジェクト単位での仕事が増えており、個人の優れた能力や業績よりも、チームや集団単位での業績やチームへの貢献が重視されています。反対に、個人の働きで完結するような、工場のライン工やルート営業、販売員などの仕事に対する組織内での重要度が低下しています。この傾向は、今後、更に強まると予測されています。個人の働きだけで完結する仕事は、AIやロボットなどのテクノロジーで代替しやすく、必ずしも人がやる必要がないためです。そのため、本講義では、スマホアプリ「Minecraft」を活用して、プロジェクト単位でのグループ課題をクリアし、他人と協力して仕事をしていくソフトスキルの取得を目指します。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクションとグループ分け						
第2回：ステージ1：プロジェクトのゴールを決める						
第3回：ステージ1：ゴールを達成するためのアイデア探索						
第4回：ステージ2：計画立案と仕事の割り振り						
第5回：ステージ3：進捗管理とコントロールの利かせ方						
第6回：ステージ3：プロジェクト内のコミュニケーション						
第7回：中間発表   エクササイズ1						
第8回：エクササイズ1のリフレクション 及び チームビルディング						
第9回：アドバンスド1：最終発表に向けたゴール設定 と 設定されたゴールの意義を考える						
第10回：アドバンスド1：ゴールを達成するためのアイデア探索						
第11回：アドバンスド2：役割分担とチームビルディング						
第12回：アドバンスド3：最高のパフォーマンスを維持させる						
第13回：アドバンスド4：新たなツールを使うことの重要性						
第14回：アドバンスド4：プロジェクトのコストをコントロールする						
第15回：最終発表   エクササイズ2						
<b>定期試験</b>						

**テキスト**

基本的には、講義中に配布する資料に沿って実施します。

**参考書・参考資料等**

- Portny, S. E. (2017). Project management for dummies. John Wiley & Sons.

大学院への進学を志す場合は、下記テキストを読み込むようにしてください。

- 上林憲雄・厨子直之・森田雅也『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣, 2010年。
- 奥林康司・上林憲雄・平野光俊編著『入門・人的資源管理』中央経済社, 2010年。

**学生に対する評価**

最終発表 15%、中間発表 10%、各回の課題提出 55%、期末レポート 20%

授業科目名： 人的資源管理論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：于 松平 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
本講義では、『組織で活き活きと働くにはどうすべきか？』をテーマとして、組織における人材マネジメントの理論について学びます。						
<b>授業の概要</b>						
異なる価値観を持ったメンバーと協業する上で、重要な思考や行動など、組織で働くときに行動様式や仕事に対する考え方が仕事の成果に影響を及ぼします。どのような行動様式や仕事に対する考え方が、人材マネジメントの領域で研究がなされてきたのかについて、体系的に学習します。						
<b>授業計画</b>						
第1回：イントロダクション						
第2回：モチベーション論						
第3回：組織コミットメント						
第4回：キャリア・マネジメント						
第5回：組織市民行動						
第6回：組織ストレス						
第7回：チーム・マネジメント						
第8回：戦略人事の4つの役割						
第9回：リーダーシップI						
第10回：リーダーシップII						
第11回：組織文化						
第12回：組織変革						
第13回：組織的公正						
第14回：ダイバーシティ・マネジメント						
第15回：組織におけるフィードバック						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
講義資料をオンライン上にアップするため、講義前にダウンロードしてください。印刷するかどうかは自己判断に任せます。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
・ 開本 浩矢（編），（2014），『入門 組織行動論』，中央経済社						

- ・ 金井壽宏 & 高橋潔, (2004), 組織行動の考え方, 東洋経済新報社
- ・ ダグラス・ストーン, シーラ・ヒーン, 花塚恵(訳), (2016) 『ハーバードあなたを成長させるフィードバックの授業』, 東洋経済新報社
- ・ 中原淳 (2017) 『フィードバック入門』, PHPビジネス文庫

学生に対する評価

期末レポート 40%、各回の課題提出 60%

授業科目名： 財務諸表論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 美保			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標：財務会計に係わる制度の基本ルールを理解すること。企業やその利害関係者への会計制度の影響を理解すること。						
授業の概要：株式会社を取り巻く財務報告・会計制度の仕組みおよび役割について解説する。特に会計制度と企業経営の関係について講義する。また授業中に関連トピックについてのディスカッションを行う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：経済社会と現代会計（ガイダンス）						
第2回：財務会計の役割						
第3回：会計制度の基本ルール						
第4回：ディスクロージャー制度と企業（法的開示と自発的開示）						
第5回：損益計算書の仕組み						
第6回：収益・費用の決定と会計利益						
第7回：アーニングス・マネジメントと会計利益						
第8回：キャッシュフロー計算書の仕組みと読み方						
第9回：貸借対照表の仕組みと読み方						
第10回：資産・負債・純資産の会計（評価属性とその議論）						
第11回：時価会計と経済的影響						
第12回：連結財務諸表と個別財務諸表						
第13回：財務安全性・効率性の分析						
第14回：収益性の分析						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
適宜指定する。						
<b>参考書・参考資料等</b>						
伊藤邦雄著『新・現代会計入門（最新版）』日本経済新聞社。その他、適宜指定する。						
学生に対する評価：定期テスト60%・レポート40%						

授業科目名： 財務諸表論分析論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中村 美保			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標：我が国の会計制度を知ること、財務諸表の仕組みを理解すること、企業分析を適切に行うことができるようになること。						
授業の概要：会計学・財務会計論等の講義を既に受けたことのあるレベルの学生を対象に、我が国の会計制度、財務諸表の構造、会計的視点に沿った経営分析および財務比率分析を学ぶことによって、より総体的な企業分析ができるようになることを目指す。また、理解度の向上のために、授業中に受講生による関連トピックの調査など課題についてのディスカッションもしくはプレゼンテーションを何度も行う。						
授業計画						
第1回：経済社会と現代企業（ガイダンス）						
第2回：会計制度とディスクロージャー（会社法と金融取引法）						
第3回：会計制度とディスクロージャー（自発的開示の役割・その他データベース）						
第4回：会計制度とディスクロージャー（演習）						
第5回：貸借対照表と損益計算書の仕組み（段階利益と企業業績）						
第6回：貸借対照表と損益計算書の仕組み（資金調達と資産・負債）						
第7回：キャッシュフローの概念とCF計算書の見方						
第8回：アーニングス・マネジメントと会計情報						
第9回：経営戦略の分析（全社的視点）						
第10回：経営戦略の分析（業務構造レベル）						
第11回：経営戦略の分析（これまでのまとめと演習）						
第12回：財務比率分析（概論および財務安全性・生産性・効率性の分析）						
第13回：財務比率分析（収益性分析とその発展）						
第14回：資本コストの概念とコントロール						
第15回：まとめ（受講生によるプレゼンテーション等）						
定期試験						
テキスト						
適宜指定する。						
参考書・参考資料等						
伊藤邦雄著『企業価値経営（最新版）』日本経済新聞社。その他、適宜指定する。						

学生に対する評価：定期テスト60%・課題への取り組み40%

授業科目名： 初級簿記	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山根 陽一
担当形態： 単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目		

### 授業のテーマ及び到達目標

目標 1：簿記の基本的な用語を、文脈に応じて適切に利用できる。

目標 2：小規模企業の簿記一巡の手続き（日商簿記検定 3 級レベル）を行うことができる。

### 授業の概要

会計は「ビジネスの言語」とよばれており、経済活動の中で、人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。会計の書類を作成するための技術が簿記であり、日商簿記検定 3 級レベル（小規模企業を対象とした簿記）の内容は、ビジネスパーソンに必須の基礎知識であると言われています。また、会計学分野の中級・応用科目を学ぶ際には、簿記の基礎知識をすでに習得していることが前提となります。そこで本講義では、日商簿記検定 3 級レベルの基礎的な計算技術を学習します。

本講義の具体的な達成水準は、2月に実施される日商簿記検定 3 級の合格です（検定試験自体は、6月・11月にも実施されます）。本講義は、同検定試験の受験を強制するものではありませんが、学習の達成目標として意識し、達成度を測る道具として積極的に利用してもらいたいと考えています。

### 授業計画

第1回 ガイダンス+「会計学入門」の補足：現金過不足、当座借越

第2回 「会計学入門」の補足：総勘定元帳の締切り

第3回 期中の手続き（1）：約束手形、手形貸付金・手形借入金、電子記録債権・債務の記帳

第4回 期中の手続き（2）：未収入金・未払金、立替金・預り金、仮払金・仮受金の記帳

第5回 期中の手続き（3）：消費税の期中取引、その他の取引、訂正仕訳

第6回 決算の手続き（1）：現金過不足の整理、当座借越・貯蔵品の振替、精算表の作成（1）

第7回 決算の手続き（2）：商品の整理

第8回 決算の手続き（3）：貸倒引当金の計上（1）

第9回 決算の手続き（4）：貸倒引当金の計上（2）、有形固定資産の減価償却（1）

第10回 決算の手続き（5）：有形固定資産の減価償却（2）、消費税の整理

第11回 決算の手続き（6）：費用・収益の前払い・前受け、当座借越・貯蔵品の再振替

第12回 決算の手続き（7）：費用・収益の未払い・未収、法人税等の整理

第13回 決算の手続き（8）：決算整理後残高試算表

第14回 決算の手続き（9）：精算表の作成（2）

第15回 決算の手続き（10）：損益計算書と貸借対照表の作成

定期試験

テキスト

資格の大原（2021）『大原で合格（うか）る日商簿記3級（第3版）』中央経済社。

TAC簿記検定講座（2023）『合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 14.0』TAC出版。

参考書・参考資料等

TAC簿記検定講座（2023）『合格テキスト 日商簿記3級 Ver. 14.0』TAC出版。

TAC簿記検定講座（2023）『合格するための本試験問題集 日商簿記3級 2023年SS対策』TAC出版。

実教出版企画開発部（2023）『2023年度版 日商簿記検定模擬試験問題集 3級商業簿記』実教出版。

学生に対する評価

提出課題（25%），期末試験（75%）

授業科目名： 企業取引法Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金康浩
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
商法総則および商行為法を対象として、企業の社会的な活動に関する条文をあげることができ るようになる。			
授業の概要			
商法上の制度の意義について解説する。			
授業計画			
第1回：商法の意義			
第2回：商法の基本概念			
第3回：商業登記			
第4回：商号			
第5回：営業および営業譲渡			
第6回：商業帳簿			
第7回：商業使用人			
第8回：商行為通則			
第9回：商事売買			
第10回：交互計算・匿名組合			
第11回：代理商			
第12回：運送営業			
第13回：倉庫営業			
第14回：場屋営業			
第15回：商法が適用されることによる効果			
定期試験			
テキスト			
近藤光男『商法総則・商行為法〔第8版〕』(有斐閣、2019)			
参考書・参考資料等			
講義の際に指示します。			
学生に対する評価			
期末試験(80%)、平常点(20%)。			

授業科目名： 企業取引法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金康浩			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標  支払決済法を対象として、支払手段をめぐるルールのあり方を機能的に理解する。						
授業の概要  電子マネー、クレジット・カード、銀行振込み、手形・小切手といった支払手段に関する法制度の内容を解説する。						
授業計画  第1回：支払決済法の全体像およびその役割 第2回：電子マネー・仮想通貨 第3回：銀行振込 第4回：資金移動業 第5回：小切手 第6回：為替手形 第7回：約束手形(1)約束手形の構造について 第8回：約束手形(2)振出しと流通について 第9回：約束手形(3)支払いと遡及について 第10回：約束手形(4)手形上の権利の消滅と手形訴訟について 第11回：電子記録債権(1)電子記録債権の構造について 第12回：電子記録債権(2)電子記録再編の譲渡と消滅について 第13回：クレジット・カード(1)クレジット・カードの構造について 第14回：クレジット・カード(2)抗弁の接続と不正利用について 第15回：有価証券理論 定期試験						
テキスト  小塚莊一郎=森田果『支払決済法〔第3版〕』(商事法務、2018)						
参考書・参考資料等  講義中に指示します。						
学生に対する評価  期末試験(80%)、平常点(20%)。						

授業科目名： 会社法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金康浩
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目		
授業のテーマ及び到達目標			
会社法を対象として、講義で扱う制度の概要および趣旨を、条文をあげて説明することができるようになる。			
授業の概要			
会社法上の利害関係者のうち、特に株主および取締役をめぐる規制について解説する。			
授業計画			
第1回：会社法総論			
第2回：会社の設立			
第3回：株式と株主			
第4回：株式の譲渡および株主の権利行使の方法			
第5回：特殊な株式保有の形態および投資単位の調整			
第6回：株式会社の機関および株主総会			
第7回：株主総会決議を争う訴え			
第8回：取締役および取締役会			
第9回：取締役の善管注意義務			
第10回：取締役のその他の義務			
第11回：取締役の責任			
第12回：取締役の責任の救済			
第13回：株主代表訴訟および差止め			
第14回：監査役、監査役会および会計監査人			
第15回：指名委員会等設置会社および監査等委員会設置会社			
定期試験			
テキスト			
高橋美加ほか『会社法〔第3版〕』(弘文堂、2021)			
参考書・参考資料等			
岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』(有斐閣、2016)			
学生に対する評価			
定期試験(80%)、平常点(20%)。			

授業科目名： 会社法II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金康浩			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標						
会社法を対象として、講義で扱う制度の概要および趣旨を、条文をあげて説明することができるようになる。						
授業の概要						
会社法が規律している制度のうち、計算、資金調達および組織再編を中心に解説する。						
授業計画						
第1回：会計および開示						
第2回：剰余金の配当						
第3回：自己株式の取得						
第4回：募集株式の発行等						
第5回：新株予約権						
第6回：社債						
第7回：企業買収・再編						
第8回：組織再編の手続き(1)組織再編契約・計画と株主総会決議による承認等について						
第9回：組織再編の手続き(2)株式買取請求権について						
第10回：組織再編の手続き(3)債権者異議申述手続きについて						
第11回：違法な組織再編に対する措置						
第12回：事業の譲渡等						
第13回：敵対的買収と防衛策						
第14回：会社の解散、清算および倒産						
第15回：持分会社および国際会社法						
定期試験						
テキスト						
高橋美加ほか『会社法〔第3版〕』(弘文堂、2021)						
参考書・参考資料等						
岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』(有斐閣、2016)						
学生に対する評価						
期末試験(80%)、平常点(20%)。						

授業科目名： 原価計算論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 典生			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標						
日本商工会議所簿記検定試験 2 級工業簿記レベルの理解を目標としています。						
授業の概要						
本講義では、製造業で行われている複式簿記（工業簿記）と有機的に結びついて実施される製品原価計算の理論と計算方法を学習します。						
授業計画						
第1回：個別原価計算の記帳体系						
第2回：材料費会計						
第3回：労務費会計						
第4回：経費会計、製造間接費会計						
第5回：単純個別原価計算、工企業の財務諸表						
第6回：部門別計算						
第7回：工場会計						
第8回：総合原価計算の記帳体系						
第9回：単純総合原価計算						
第10回：工程別総合原価計算						
第11回：組別・等級別総合原価計算						
第12回：標準原価計算①（完成品原価・月末仕掛品原価の計算）						
第13回：標準原価計算②（直接材料費・直接労務費差異の原因別分析）						
第14回：標準原価計算③（製造間接費差異の原因別分析）						
第15回：損益分岐分析と固定分解						
定期試験						
テキスト						
プリントを配布します。						
参考書・参考資料等						
『日商簿記検定模擬試験問題集 商業簿記・工業簿記 2 級令和 6 年度版』実教出版。						
学生に対する評価						
小テスト（課題提出を含む）30%、定期試験70%で評価します。						

授業科目名： 原価計算論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 典生			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
製造業で行われている製品原価計算の応用的な理論と計算技術の習得を目指します。 経営管理に有用な原価計算技術の習得を目指します。						
<b>授業の概要</b>						
原価計算を実施する目的には、財務諸表作成目的、価格計算目的、原価管理目的、予算管理目的、基本計画設定目的があげられます。原価計算論Ⅰでは、主として企業外部の利害関係者に必要な会計情報を提供するための財務諸表作成目的としての原価計算の理解を深めてきました。これに対し、本講義では、主として企業内部の経営管理に有用な原価計算技法について学習します。						
<b>授業計画</b>						
第1回：原価計算論Ⅰの総復習						
第2回：直接原価計算による損益計算書の作成						
第3回：直接原価計算論争						
第4回：固定費調整						
第5回：製造間接費差異の原因分析（固定予算と変動予算）						
第6回：部門別原価計算の基礎①（実際配賦）						
第7回：部門別原価計算の基礎②（予定配賦）						
第8回：部門別原価計算の基礎③（相互配賦法）						
第9回：仕損の処理（個別原価計算）						
第10回：減損と仕損の処理（総合原価計算）						
第11回：部門別原価計算の応用①（階梯式配賦法）						
第12回：部門別原価計算の応用②（連続配賦法）						
第13回：部門別原価計算の応用③（連立方程式法）						
第14回：Activity-Based Costingと原価企画						
第15回：まとめ						
<b>定期試験</b>						
テキスト						
プリントを配布します。						

参考書・参考資料等

適宜指定します。

学生に対する評価

小テスト15%、レポート15%、定期試験70%で評価します。

授業科目名： 法人税法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 典生			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (高等学校 商業)					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
授業のテーマ及び到達目標  法人税法と企業会計の相互関係を理解することを目標とします。 法人税法能力検定試験 3～2級程度を目標とします。						
授業の概要  法人税は、法人の所得に対して課される租税であり、法人税の主要な法源が法人税法です。本講義では、法人税法の条文に基づいた理論を学習します。また、法人の所得は、企業会計による利益に調整を加えて算出される方法を採用してため、本講義では、法人税法と企業会計との関係を確認しながら、法人税法上の課税所得の計算構造についても学習していきます。						
授業計画  第1回： 法人税法の基礎 第2回： 所得金額と法人税額の計算 第3回： 益金の額と損金の額 第4回： 交際費等 第5回： 寄附金 第6回： 役員給与の損金不算入 第7回： 租税公課 第8回： 受取配当等の益金不算入 第9回： 有価証券 第10回： 棚卸資産 第11回： 小テスト、第1回～第11回の要点解説 第12回： 減価償却 第13回： 圧縮記帳 第14回： 繰延資産 第15回： 貸倒損失と貸倒引当金						
定期試験						
テキスト  授業中にプリントを配布します。なお、参考書にある『法人税法能力検定試験過去問題集3級』は、授業ですぐに使用しますので、準備しておいてください。						

参考書

- ・金子友裕『法人税法入門講義（最新版）』中央経済社。
- ・渡辺徹也『スタンダード法人税法[最新版]』弘文堂。
- ・公益社団法人 全国経理教育協会編『演習 法人税法 最新版』清文社。
- ・公益社団法人 全国経理教育協会編『法人税法能力検定試験過去問題集3級 最新版』エデュプレス。
- ・公益社団法人 全国経理教育協会編『法人税法能力検定試験過去問題集2級 最新版』エデュプレス。

学生に対する評価

課題 20%、小テスト 20%、定期試験 60%

授業科目名： 交通論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大井 尚司			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：社会活動における「移動」すなわち「交通」という経済活動の理解						
到達目標：						
1) 交通に関する事象と社会・経済の諸問題のつながりを理解すること 2) 日々の交通に関する事象について経済学的な視点から考察するきっかけを作ること						
<b>授業の概要</b>						
皆さんの通学、買い物、旅行などの社会活動においては、何らかの「移動」すなわち「交通」を使っていることが多いと思います。交通とは、何らかの目的を達成するために付随的に行われる経済活動といつても良いでしょう。そして、社会・経済に関する様々な問題、たとえば商業、教育、医療、福祉などにも影響します。						
この講義では、1) 交通に関する事象と社会・経済の諸問題のつながりを理解し、2) 日々の交通に関する事象について経済学的な視点から考察するきっかけを作る、ような内容を取り上げます。						
<b>授業計画</b>						
第1回： イントロダクション ／ 1. 交通・交通問題・交通政策とは何か（問題の整理）						
第2回： 1. 交通・交通問題・交通政策とは何か（用語定義他） ／ 2. 交通政策の主体（主体の全体像）						
第3回： 2. 交通政策の主体（各主体の役割） ／ 3. 交通政策の手段（手段の全体像）						
第4回： 3. 交通政策の手段（手段の詳細について）						
第5回： 進度調整（早く進めば、映像視聴などに充てます）						
第6回： 4. 交通サービスの需要と市場（交通サービスの需要の考え方）						
第7回： 4. 交通サービスの需要と市場（経済学の考え方との関連、価格弾力性など）						
第8回： 4. 交通サービスの需要と市場（交通サービスの市場とその環境）						
第9回： レポート（講演会、または映像視聴に基づくもの） ※状況によっては学外講演会等による可能性あり						
第10回： 5. 交通社会资本整備のあり方（インフラ整備等）						
第11回： 6. まちづくりと交通（まちづくりと交通の関係）						
第12回： 6. まちづくりと交通（交通需要予測の考え方とその課題）						
第13回： 7. 交通政策の今後の課題（現状の政策と課題）（割愛する可能性あり）						

第14回： 進度調整（早く進んだ場合はレビュー・セッションまたは映像視聴）

第15回： 8.まとめ・試験の案内

#### 定期試験

##### テキスト

衛藤卓也・大井尚司・後藤孝夫(2023)『交通政策入門（第3版）』同文館出版。

このほか、パワーポイント資料を毎回使用・配布します。

##### 参考書・参考資料等

講義初回に配布するコースシラバス、もしくは講義中に随時案内します。

最新の交通政策は、国土交通省ホームページ掲載の『国土交通白書』『交通政策白書』が有益です。

##### 学生に対する評価

学期末試験（記述式、講義資料・教科書を参考可とする予定）（50%）、レポート（映像教材視聴または講演時に課します）または代替の課題（50%）

授業科目名： 交通論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大井 尚司			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：社会における交通問題を考えるための経済学（一部経営学）の理論的・定量的な手法の理解と援用						
到達目標：						
1) 交通問題を考えるための経済学（一部経営学）の理論的・定量的な手法を理解すること 2) 理解した手法を用いて、現実の交通に関する社会問題を定量的・理論的に考えていくことができるようになること						
<b>授業の概要</b>						
前期の「交通論I」では、交通政策・交通問題を、経済学の考え方（経済学の知識は基礎レベル）で考えるための基礎情報を提供しました。						
後期に開講される本科目は、経済学の基礎的な知識を履修していることを前提に、1) 交通問題を考えるための経済学（一部経営学）の理論的・定量的な手法の習得、2) 理解した手法を用いて、現実の交通に関する社会問題を定量的・理論的に考えていくこと、に求められる内容（重要なポイント）について講義します。						
<b>授業計画</b>						
第1回： イントロダクション（講義内容等説明）／ 1. 数学復習						
第2回： 2. 交通の需要（前期交通論I 内容レビュー）						
第3回： 2. 交通の需要（需要の価格弾力性の計測とその活用例）						
第4回： 2. 交通の需要（余剰分析、需要予測の問題）						
第5回： 3. プロジェクト評価の手法について（プロジェクト評価の必要性、手法について）						
※3. と4. の順番を入れ替える可能性あり						
第6回： 3. プロジェクト評価の手法について（費用便益分析について）						
第7回： 3. プロジェクト評価の手法について（NPV、余剰分析、その他の手法について）						
第8回： 4. 交通の供給と費用・価格設定（前期交通論I 内容レビュー、各費用概念）						
第9回： 4. 交通の供給と費用・価格設定（限界費用・平均費用の導出、その活用例）						
第10回： 4. 交通の供給と費用・価格設定（運賃決定の仕組み、費用との関係）						
※ここまで終了した時点で中間課題を課します						
第11回： 5. 規制緩和と市場の失敗について（規制緩和政策の概観）						
第12回： 5. 規制緩和と市場の失敗について（各交通市場における規制緩和の実態）						

第13回： 5. 規制緩和と市場の失敗について（規制緩和と市場の失敗の経済学）

第14回： 進捗調整（余裕があればレビュー・セッション実施）

第15回： 中間課題返却、質問受付、期末試験案内

#### 定期試験

#### テキスト

衛藤卓也・大井尚司・後藤孝夫(2023)『交通政策入門（第3版）』同文館出版。

このほか、パワーポイント資料・練習問題を印刷・配布します。

#### 参考書・参考資料等

理論部分（前半）の理解を深めることと、ミクロ経済学の独習書として、八田達夫(2013)『ミクロ経済学Expressway』東洋経済新報社、八田達夫(2008)『ミクロ経済学I』東洋経済新報社、八田達夫(2009)『ミクロ経済学II』東洋経済新報社を勧めます。講義初回に配布するコースシラバス、もしくは講義中でも随時案内します。

#### 学生に対する評価

学期末試験（記述式、講義資料・教科書を参考可とする予定）（50%）、中間課題（持ち帰り式の問題演習で出題後3日程度で提出）（50%）

授業科目名： 物流論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 大井 尚司			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：物流（主に国内物流）の現状と、物流の理解に関して必要となる基礎知識の理解						
到達目標：						
1) 物流に関する社会事象の背景を理解すること 2) 物流の問題が身近な経済活動に関連していることを理解し、就業先選択の一助となること 3) 物流が関連する社会問題に対して、基礎的な知識を活かして受講生自らの見解を考えることができるようになること						
<b>授業の概要</b>						
本講義では、物流（主に国内物流）の現状と、物流の理解に関して必要となる基礎知識について解説します。それにより、受講者が物流の基礎を理解し、この分野への関心を持つきっかけを作り、後期開講の物流論 II 受講への前提知識を把握してもらうことが狙いです。						
<b>授業計画</b>						
第1回： 講義の説明とイントロダクションーなぜ物流が重要か（問題の整理）						
第2回： 物流の基礎（1）物流とは何か・物流の種類						
第3回： 物流の基礎（2）物流の発展						
第4回： 物流の基礎（3）物流の生産要素・機能と構成（生産要素の詳細について）						
第5回： 物流の基礎（4）物流の生産要素・機能と構成（機能と構成について）						
第6回： 物流の基礎（5）ロジスティクスとサプライチェーンマネジメント						
第7回： 物流の基礎（6）物流と保険・通関について						
第8回： 国土交通省九州運輸局「物流講座」講演会（対面またはオンライン、時間内でレポートを課します）※状況によっては学外講演会等になる可能性あり						
第9回： 国内物流の現状（1）陸上輸送（シェア、輸送機関の発展など）						
第10回： 国内物流の現状（1）陸上輸送（輸送機関に関する問題、現代の輸送問題など）						
第11回： 国内物流の現状（2）海上輸送（シェア、輸送機関の発展など）						
第12回： 国内物流の現状（2）海上輸送（輸送機関に関する問題、現代の輸送問題など）						
第13回： 国際物流へのつながり（割愛する可能性あり）						
第14回： 進度調整（早く進んだ場合はレビューセッションまたは映像視聴）						
第15回： 講義のまとめ（進度によって割愛）・試験の案内						
<b>定期試験</b>						

**テキスト**

使用しません（適切な書物がないため、講師が資料を配布します）。

【注意】講義資料の後日配布は原則として行いません。

**参考書・参考資料等**

森隆行(2018)『現代物流の基礎（第3版）』同文館（どうぶんかん）出版

柴田悦子ほか(2008)『新時代の物流経済を考える』成山堂書店

(社)日本物流団体連合会『数字で見る物流』各年版

**学生に対する評価**

学期末試験（記述式、講義資料を参考可とする予定）（50%）、レポート（講演時に課します）または代替の課題（50%）

授業科目名： 物流論II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大井 尚司			
担当形態：単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：港湾・海運・航空といった国際物流の実際についての理解						
到達目標：						
1) 国際物流の実際（港湾・海運・航空）に関する基礎知識を理解し、就業先選択等に役立てるようすること						
2) 国際物流の実際問題（港湾・海運・航空）が現状の社会経済事情に関連することを理解すること						
3) 国際物流の実際問題（港湾・海運・航空）に対して自らの意見を言えるようになること						
<b>授業の概要</b>						
本講義では、前期開講の物流論Iで得た基礎知識を踏まえ、港湾・海運・航空といった国際物流の実際について理解するとともに、国際物流におけるトピックスについて、社会経済とのつながりを考えながら理解するためのきっかけ作りを狙いとします。						
<b>授業計画</b>						
第1回： イントロダクション／港湾整備の問題（1）物流の中の港湾の位置づけ、港湾の数と種類						
第2回： 港湾整備の問題（2）港湾の構成要素						
第3回： 港湾整備の問題（3）港湾整備の制度と財源						
第4回： 国際海上輸送の問題（1）外航海運の現状						
第5回： 国際海上輸送の問題（2）海運市場の特徴						
第6回： 国際海上輸送の問題（3）外航海運企業について						
第7回： 進捗調整（余裕があればレビューセッション実施）						
第8回： 国土交通省九州運輸局「物流講座」講演会（対面またはオンライン、時間内にレポートを課します）						
第9回： 航空貨物の問題（1）航空貨物の現状						
第10回： 航空貨物の問題（2）航空貨物の歴史						
第11回： 航空貨物の問題（3）航空貨物の仕組みと主体						
第12回： 国際物流の課題とトピックス（1）港湾整備・国際海上輸送						
第13回： 国際物流の課題とトピックス（2）航空貨物・規制緩和・トピックス						
第14回： 進捗調整（余裕があればレビューセッション実施）						

第15回：まとめ（進度によって割愛）、期末試験案内

定期試験

テキスト

使用しません（適切な書物がないため、資料を配布します）。

【注意】講義資料の後日配布は原則として行いません。

参考書・参考資料等

鈴木暁(2009)『国際物流の理論と実務（四訂版）』成山堂書店

汪（ワン）正仁(2006)『ビジュアルでわかる国際物流（改訂版）』成山堂書店

（社）日本物流団体連合会『数字で見る物流』各年版

森隆行(2018)『現代物流の基礎（第3版）』同文館（どうぶんかん）出版

柴田悦子ほか(2008)『新時代の物流経済を考える』成山堂書店

学生に対する評価

学期末試験（記述式、講義資料を参照可とする予定）（50%）、レポート（講演時に課します）または代替の課題（50%）

授業科目名： 観光政策論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大井 尚司			
担当形態： 単独						
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・商業の関係科目					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
テーマ：社会活動における観光という経済活動、および地域における観光に関する政策・施策の理解						
到達目標：						
1) 観光に関する事象と社会・経済・地域の諸問題のつながりを理解すること 2) 地域の観光に関する事象について経済学的な視点から考察するきっかけを作ること						
<b>授業の概要</b>						
日本の観光は、インバウンドの急増にも支えられ近年急成長してきました。一方で、ＩＣＴの発達により旅行・観光に関する業態のあり方が大きく変わったほか、2度の大地震・コロナ2019といった災害リスクは観光客減少を招き、観光に依存する地域の経済の衰退や、業界の脆弱性を示しました。						
とはいって、「観光」は地域・地域外のかなり広い産業・業種を巻き込み、雇用・消費・税収など大きな地域への影響をもたらすことには変わりありません。その仕組みや政策等を理解しておくことは、「観光」を適切に評価するうえで重要です。						
この講義では、1) 観光に関する事象と社会・経済・地域の諸問題のつながりを理解して、2) 地域の観光に関する事象について経済学的な視点から考察するきっかけを作れるような内容を取り上げます。						
<b>授業計画</b>						
第1回： イントロダクション ／ 1. 観光とは何か（問題の整理）						
第2回： 観光産業と資源（1）旅行産業						
第3回： 観光産業と資源（2）宿泊産業						
第4回： 観光産業と資源（3）テーマパーク・施設等						
第5回： 観光と交通						
第6回： 観光と経済（1）観光を経済学で見る（経済学の理論との関係）						
第7回： 観光と経済（2）観光の経済効果						
第8回： 観光と消費者行動（1）消費者行動理論との関係						
第9回： 観光と消費者行動（2）実際の消費者行動とマーケティング						

- 第10回： 講演会または映像視聴に基づくレポート  
第11回： 観光政策（1）日本の観光政策と行政のかかわり  
第12回： 観光政策（2）実際の施策とその課題  
第13回： 観光と地域の関わり・観光政策のトピックス  
第14回： 進度調整（早く進んだ場合はレビュー・セッションまたは映像視聴）  
第15回： まとめ・試験の案内

#### 定期試験

#### テキスト

①岡本信之編（2001）『観光学入門』有斐閣アルマ

②竹内正人・竹内利江・山田浩之（編著）（2018）『入門 観光学』ミネルヴァ書房

※①をベースに予定しますが、①が古いため、②または新しい書物で適切なものが出来ればそれに変えるか、内容を取り込んで講義を組み立てます。

このほか、パワーポイント資料を毎回使用・配布します。

#### 参考書・参考資料等

講義初回に配布するコースシラバス、もしくは講義中に随時案内します。

最新の観光政策は、国土交通省観光庁ホームページ掲載の『観光白書』が有益です。

#### 学生に対する評価

学期末試験（記述式、講義資料・教科書を参考可とする予定）（50%）、レポート（映像教材視聴または講演時に課します）または代替の課題（50%）

授業科目名：職業指導	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：渡邊 一朗 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・職業指導					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
商業高等学校における進路指導の現状と課題を理解する。 商業高等学校におけるキャリア教育を理解するとともに、その授業づくりを理解する。 商業高校における資格取得やインターンシップなどの特色づくりを理解する。						
<b>授業の概要</b>						
我が国の産業構造や職業の変化、及び高等学校の進路指導の現状について理解する。また、(新)学習指導要領で示された、キャリア教育の改善・充実の指摘を踏まえ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を育み、キャリア発達を促すため、各教科、特別活動、総合的な探究の時間等での指導の実際について学び、生徒が主体的に進路を決定できる実践的指導力を育成する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：商業高等学校における進路指導の現状と課題						
第2回：キャリア教育の推進（1）（初等中等教育におけるキャリア教育の意義、必要性）						
第3回：キャリア教育の推進（2）（新高等学校学習指導要領におけるキャリア教育関連事項）						
第4回：キャリア教育の授業づくり（1）（各教科・科目で進めるキャリア教育の実際）						
第5回：キャリア教育の授業づくり（2）（各教科・科目で進めるキャリア教育の実際）						
第6回：キャリア教育の授業づくり（3）（ホームルーム活動におけるキャリア教育の実際）						
第7回：キャリア教育の授業づくり（4）（職場体験・インターンシップの実際）						
第8回：キャリア教育の視点に立った進路指導の実際（1）（年間指導計画）						
第9回：キャリア教育の視点に立った進路指導の実際（2）（ガイダンスとカウンセリング）						
第10回：商業高等学校における職業教育の充実（職業教育の論点と基本的な考え方）						
第11回：商業高等学校における勤労観・職業観の育成						
第12回：商業高等学校における資格取得の推進						
第13回：就職基礎能力（企業が採用に当たって重視する能力）						
第14回：社会人基礎力（組織や地域社会の中で必要な基礎的能力）						
第15回：職業的発達にかかわる諸能力の育成						
＊課題レポート等の発表・討議を通して主体的・対話的で深い学びとなるように授業を進める。						
<b>テキスト</b>						
授業中に適宜資料を配付する。						
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「総則編」（文部科学省HPよりダウンロード）						
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「総合的な探究の時間」（同上）						
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「特別活動編」（同上）						
参考書・参考資料等						

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

小テスト・定期試験(60%)。毎回の授業終了時に学習した中から課題を選定して記述させる小レポート(40%)

授業科目名： 商業教育論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：渡邊 一朗 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
学校教育に関する関係法規や高等学校学習指導要領総則編を理解するとともに、高等学校学習指導要領商業編に示す各教科・科目についてその内容の概要及び情報機器及び情報通信技術活用の基本等について理解することで実践的指導力を習得する。						
<b>授業の概要</b>						
高等学校教育を実践する上で必要な教育関連法規の概要を知るとともに、学習指導要領に示された総則や商業教育の具体的諸事項についての専門的な知識と実践的指導力を習得する。						
<b>授業計画</b>						
第1回：商業科教育論 I・IIのガイダンス及び学び方						
第2回：学校教育に関する法規（1）（日本国憲法・教育基本法）						
第3回：学校教育に関する法規（2）（学校教育法、学校教育法施行規則）						
第4回：学校教育に関する法規（3）（地方教育行政の組織及び運営に関する法律）						
第5回：商業教育の意義と必要性						
第6回：我が国における商業教育の歩み（社会の変化に対応した商業教育の変遷について）						
第7回：学習指導要領総則編の概要（1）（総説、教育課程の基準、教育課程の編成及び実施）						
第8回：学習指導要領総則編の概要（2）（各教科・科目及び単位数等、各教科・科目の履修等）						
第9回：学習指導要領総則編の解説（3）（編成配慮事項、単位の修得・卒業の認定、手順と評価）						
第10回：学習指導要領総則編の解説（4）（特別な配慮が必要な生徒への対応）						
第11回：高等学校学習指導要領商業編の解説（1）（教育課程の編成と実施）						
第12回：高等学校学習指導要領商業編の解説（2）（指導計画の作成）						
第13回：高等学校学習指導要領商業編の解説（3）（学習評価の実際）						
第14回：商業科の学習指導法（1）（グループワークの実施方法・情報機器等の活用法の基本）						
第15回：商業科の学習指導法（2）（学習指導案作成の基本）						
<b>定期試験</b>						
＊課題レポート等の発表・討議を通して主体的・対話的で深い学びとなるように授業を進める。						
<b>テキスト</b> 高等学校学習指導要領（平成30年告示）						
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「総則編」						
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「商業編」						
<b>参考書・参考資料等</b>						
「21世紀の商業教育を創造する 商業科教育論」日本商業教育学会編 実教出版						
その他、授業中に適宜資料を配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						
定期試験(80%)毎回の授業終了時に学習した中から課題を選定して記述させる小レポート(20%)						

科目名： 商業教育論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2卖位	担当教員名：渡邊 一朗 担当形態：単独			
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 商業）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
魅力ある授業を展開するため、商業科各科目の学習内容を理解し、指導及び学習評価方法を習得し、さらに指導と評価の一体化についても学び、授業構想力を向上させる。また、授業力向上のため、学習指導案、板書案、情報機器、情報通信技術の活用を図る教材・教具等の作成、模擬授業の実施、評価・改善というP D C Aサイクルの過程を通して、学習の質を高める指導技術を習得する。						
<b>授業の概要</b>						
商業科の学習方法や実践的な指導法を習得し、魅力ある授業の構造化について理解するとともに、各自が学習指導案等を作成して実際に模擬授業を行い、授業評価会を通じて授業力の一層の向上を図る。						
<b>授業計画</b>						
第1回：商業の教科目標と各科目の概要（1）（改訂の趣旨、教科の目標、全20科目の概要）						
第2回：商業の原則履修科目の目標と内容（2）（ビジネス基礎の目標、内容、教材研究）						
第3回：商業の基礎科目の目標と内容（3）（簿記の目標、内容、教材研究）						
第4回：商業の基礎科目の目標と内容（4）（情報処理の目標、内容、教材研究）						
第5回：商業の原則履修科目の目標と内容（5）（課題研究の目標、内容、教材研究）						
第6回：魅力ある授業作りの実際（1）（学習指導案の作成）						
第7回：魅力ある授業作りの実際（2）（「主体的・対話的で深い学び」実現に向けた授業改善の実際）						
第8回：模擬授業の実施（1）（年間指導計画）（情報機器、情報通信技術の活用）						
第9回：模擬授業の実施（2）（教材観、指導観、生徒観）（情報機器、情報通信技術の活用）						
第10回：模擬授業の実施（3）（単元設定、本時の目標）（情報機器、情報通信技術の活用）						
第11回：模擬授業の実施（4）（学習活動）（情報機器、情報通信技術の活用）						
第12回：模擬授業の実施（5）（指導内容）（情報機器、情報通信技術の活用）						
第13回：模擬授業の実施（6）（診断的評価と形成的評価）						
第14回：模擬授業の実施（7）（学習指導案作成の全体構想）						
第15回：今日的学校の諸問題とその対応（特色づくり、学力向上、人権教育、いじめ、資質向上等）						
<b>定期試験</b>						
＊ペアまたはグループワークに取組み、「個に応じた指導」について考えを深める。						
<b>テキスト</b> 高等学校学習指導要領（平成30年告示）						
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「総則編」						
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「商業編」						
<b>参考書・参考資料等</b>						
「21世紀の商業教育を創造する 商業科教育論」日本商業教育学会編 実教出版						
その他、授業中に適宜資料を配付する。						
<b>学生に対する評価</b>						

定期試験(80%)毎回の授業終了時に学習した中から課題を選定して記述させる小レポート(20%)

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 青野 篤			
担当形態： 単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 日本国憲法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>目標1 日本国憲法の基本原理について説明できる。</p> <p>目標2 日本国憲法が保障している人権の意義・内容・限界について説明できる。</p> <p>目標3 日本国憲法が定める国会・内閣・裁判所の基本的役割を説明できる。</p> <p>目標4 授業で取りあげる憲法問題について、自分の意見を持ち、他者に論理的に説明できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
この授業では、実際に起きた事件を素材にしながら、日本国憲法が保障する主な基本的人権とそれを支える国会・内閣・裁判所の基本的な役割について、講義します。実は身近に数多く存在している憲法問題について、これから社会を支える一市民として、気づき、理解し、主体的に考えられるようになることをねらいとします。						
<b>授業計画</b>						
第1回：雇用における男女平等						
第2回：再婚は半年後？——法の下の平等（1）（教科書Theme5）						
第3回：むかし親殺しありき——法の下の平等（2）（教科書Theme6）						
第4回：法廷の宗教戦争——信教の自由（教科書Theme7）						
第5回：ポルノの権利——表現の自由（1）（教科書Theme8）						
第6回：人殺し教えます——表現の自由（2）（教科書Theme9）						
第7回：銭湯の楽しみ——営業の自由（教科書Theme10）						
第8回：クーラーのない生活——生存権（教科書Theme11）						
第9回：教科書はつらいよ——教育権（教科書Theme12）						
第10回：罪と罰のはて——死刑制度（教科書Theme13）						
第11回：何の自己決定か？・ブラック校則——自己決定権・子どもの人権（教科書Theme4・1）						
第12回：わたしの秘密——プライバシーの権利（教科書Theme3）						
第13回：欲しいのはまず選挙権——外国人の権利（教科書Theme2）						
第14回：人権の条件——平和主義（教科書Theme15）						
第15回：憲法の変身——改憲の可能性（教科書Theme22）						
定期試験						

**テキスト**

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕』（有斐閣，2020年）

**参考書・参考資料等**

- ・君塚正臣編『高校から大学への憲法〔第2版〕』（法律文化社，2016年）・安念潤治ほか『論点　日本国憲法〔第2版〕』（東京法令出版，2014年）
- ・初宿正典ほか『目で見る憲法〔第5版〕』（有斐閣，2018年）・宍戸常寿ほか『18歳から考える人権〔第2版〕』（法律文化社，2020年）など

**学生に対する評価**

小テスト32% 授業中のミニレポート18% 期末試験50%

授業科目名： スポーツ文化科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 松元 義人			
担当形態： 単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病の原因を理解するとともに予防の意義と健康・体力づくりの必要性について他者に説明できる。</li> <li>・レクリエーションナルスポーツを通してレクリエーションナルスポーツの指導ができる。</li> <li>・自らの健康の保持増進に向けた行動が日常生活のなかでできる。</li> <li>・ゲームを通してコミュニケーションができる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
<p>食生活や運動不足など生活習慣が生活習慣病や健康づくりにどのような影響を及ぼすのかについて理解する。さらにレクリエーションナルスポーツの実践を通じて、健康・体力づくりとレクリエーション（身体活動）の楽しさを習得する。「いつでも、どこでも、だれにでも」気軽にできるレクリエーションの楽しみと、様々なレク財を用いて遊びやゲーム、対象者に合わせたルールを開発し、健康・体力づくりに活かしていく。さらに仲間づくりを通じて人間関係を確立する。また、ポジティブヘルスの立場からの身体的な健康、精神的な健康、社会的な健康などについて理解を深める。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション、生活習慣病予防と健康づくり、身体活動の意義（講義）						
第2回：レクリエーションとスポーツについて（講義）						
第3回：ペタンク：ペタンクの道具を用いてゲームを考える（実技）						
第4回：ペタンク：起源と歴史、ルールを考える、正しいルールの理解、グループでゲームの実践（実技）						
第5回：ペタンク：グループでゲームの実践（実技）						
第6回：グランドゴルフ：グランドゴルフの道具を用いてゲームを考える（実技）						
第7回：グランドゴルフ：起源と歴史、ルールを考える、正しいルールの理解、グループでゲームの実践（実技）						
第8回：グランドゴルフ：グループでゲームの実践（実技）						
第9回：バドミントン：正しいルールの理解と基本的な動きの習得（実技）						
第10回：バドミントン：基本的な動きとゲームの実践<シングル>（実技）						
第11回：バドミントン：基本的な動きとゲームの実践<ダブルス>（実技）						

第12回：卓球：正しいルールの理解と基本的な動きの習得（実技）

第13回：卓球：正しいルールの理解とゲーム、グループでゲームの実践（実技）

第14回：インディアカ：正しいルールの理解と基本的な動きの習得、グループでゲームの実践（実技）

第15回：その他のレクリエーションスポーツの紹介、授業全体のまとめ（講義）

定期試験

テキスト

特に使用しない。

参考書・参考資料等

授業中に配布するプリントを使用する。

学生に対する評価

実技実習にグループやチームで協力して積極的に取り組む 50%

実技実習のルールを理解しプレーできる 10%

コミュニケーション能力 10%

レポート提出 30%

授業科目名：英語コミュニケーションセミナー	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：ヌートバー ジュリー			
	担当形態： 単独					
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標						
<p>1. 英会話に役立つ語彙、表現、文法構造などの知識を増やす。</p> <p>2. 流暢に話すために必要な英語コミュニケーションスキルの向上。</p> <p>3. 様々な場面で英語でのコミュニケーションに自信が持てるようになる。</p>						
授業の概要						
本講義の目的は、基礎的なスキルをベースに、英語で積極的かつ流暢にコミュニケーションするためのツールを修得し、自信を身につけることです。様々なトピックを取り上げ、日常生活や会話に役立つ語彙、表現、文法構造を紹介します。その上で、先生やクラスメートとのペアワークや、会話の応答スキルを含むコミュニケーション学習に重点を置き、生徒中心の学習方法を行います。						
授業計画						
第1回：自己紹介・自己PR						
第2回：謝りと許しを与えること						
第3回：招待を受ける・断る						
第4回：健康・病気について語る						
第5回：会話の復習・練習・まとめ						
第6回：アドバイスを求める・提案する・比較する						
第7回：意見を言う、賛成・反対をする						
第8回：推測の表現、会話を続けることと止めること						
第9回：丁寧な依頼とお願いをする						
第10回：会話の復習・練習・まとめ						
第11回：良い知らせと悪い知らせを伝える、祝福する、同情する、励ます						
第12回：体験を語る、印象を与える						
第13回：習慣づけと目標を設定する						
第14回：意思表示と将来計画を表明する						
第15回：会話の復習・練習・まとめ						
テキスト						
授業用ワークシートを配布します。						

参考書・参考資料等

特に指定しません。

学生に対する評価

受講態度・・・40% 授業内課題・・・10% 授業外課題・・・10%

期末テスト・・・30% 発表・・・10%

授業科目名： 情報リテラシー I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 野田 佳邦			
担当形態： 単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作					
<p><b>授業のテーマ及び到達目標</b></p> <p>～Word～ 文書を入力し、編集できる。文書を整えることができる。表を使った資料を作成できる。図を使った資料を作成できる。</p> <p>～PowerPoint～ スライドを作成できる。表・図を使った視覚的に訴える資料を作成できる。アニメーションを使った視覚的に訴える資料を作成できる。スライドを用いたプレゼンができる。</p>						
<p><b>授業の概要</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ワープロソフトとして世界的に普及しているWord の様々な機能を使って、書式を整えて分かりやすい資料を作成するスキルを身につけます。</li> <li>プレゼンテーションを行う上で世界的に普及しているPowerPointの様々な機能を使って、書式・デザインを整えてわかりやすい資料を作るスキルを身につけます。</li> </ol>						
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：授業説明、キーボード操作</p> <p>第2回：ページ設定、文書の作成・保存</p> <p>第3回：文字の位置揃え、縦書き文書、文字修飾</p> <p>第4回：箇条書き、段落番号、行間の調整</p> <p>第5回：画像操作</p> <p>第6回：段組み設定、ヘッダー・フッター操作、SmartArtグラフィック</p> <p>第7回：ページをデザインする、作表</p> <p>第8回：文字をデザインする、テキストボックスの挿入、図形でデザインする</p> <p>第9回：Word復習問題</p> <p>第10回：PowerPointの起動、スライドの作成・保存</p> <p>第11回：スライドをデザインする、スライドの編集</p> <p>第12回：SmartArtの挿入、ビデオの挿入</p> <p>第13回：アニメーション効果の設定、プレゼンテーションの実行</p> <p>第14回：PowerPoint復習問題</p> <p>第15回：総合演習</p> <p>定期試験</p>						

テキスト

例題50+演習問題100でしっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint標準テキストWindows10/Office2019対応版 定平誠 著、技術評論社 2019年出版

参考書・参考資料等

テキストに沿って授業を進めるため、特に必要なし。

学生に対する評価

毎回の課題50%，最終試験50%

授業科目名： 情報リテラシーII	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森下 美穂子			
担当形態： 単独						
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. データを入力して、見やすい表を作成する。</p> <p>2. 組み込み関数を利用して、各種処理を実施する。</p> <p>3. グラフを作成して、データをビジュアル化し表現する。</p> <p>4. 条件に合わせてデータの並べ替えや抽出処理を実施する。</p> <p>5. 複数のデータを参照して、要求される様々な形式で集計を行い評価する。</p> <p>6. 集積したデータを適切な手法（機能）を使って分析する。</p> <p>7. 分析・集計などの数値データを各種ツールを用いて分かりやすく表現する。</p>						
<b>授業の概要</b>						
この授業では、データを入力（データベース）・編集・計算・分析・グラフ化などを行うことで企業の経営活動の効率化や事業展開の基となる資料を作成する知識・技術を学びます。コンピュータの代表的な表計算ソフト「Microsoft Office Excel 2019」を使った実際的な例題や演習を通して、実社会でのニーズに対応できるようになることを目標とします。						
<b>授業計画</b>						
第1回：Excelの基礎知識、データの入力						
第2回：表の作成、数式の入力、オートSUMボタンを使った関数（SUM,AVERAGE,COUNT,MAX,MIN）の入力①						
第3回：オートSUMボタンを使った関数（SUM,AVERAGE,COUNT,MAX.MIN）の入力② 相対参照と絶対参照						
第4回：複数シートの操作、表の印刷						
第5回：グラフの作成①（円グラフ、縦棒グラフ、横棒グラフ、折れ線グラフ）						
第6回：データベースの利用（データベース機能、並べ替え、抽出、効率的な操作）						
第7回：総合問題①(小テストとなる場合もあり)						
第8回：組み込み関数の利用①…ROUND, ROUNDUP, ROUNDDOWN, RANK.EQ						
第9回：組み込み関数の利用②…IF, COUNTIF, SUMIF						
第10回：組み込み関数の利用③…TODAY, DATEDIF, VLOOKUP、論理演算子AND, OR、関数のネスト						
第11回：表作成の活用						

第12回：グラフの作成②（複合グラフ、補助グラフ付き円グラフ、スパークライン）

第13回：ピボットテーブルの作成①（構成要素、グループ化、表示形式、データの更新）

第14回：ピボットテーブルの作成②（レポートフィルタの追加、レイアウトの変更、集計方法の変更）ピボットグラフの作成

第15回：総合問題②

定期試験

テキスト

よくわかる Microsoft Excel 2019 基礎 著作/制作：富士通エフ・オー・エム株式会社 2019年

参考書・参考資料等

テキストとPDFファイルに沿って授業を進めるので、特に必要ありません。

学生に対する評価

表作成の基礎知識について (12%) 関数を使用した表作成 (12%)

数値を見やすく加工する。 (12%) データベースとしての活用 (12%) 分析・集計 (12%)

総合問題 (40%)

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉野 敦			
担当形態：単独						
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の基礎的理解に関する科目 ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>この授業は、①教育の基本的概念及び理念、②教育の歴史や思想、③教育・学校の歴史的変遷を理解した上で、④現代の学校教育が抱える諸課題について、教職の視点から考察を行うことを目的とする。具体的な到達目標としては、(1)教育の基本的概念及び理念に関する基礎的知識を身につけること、(2)教育の歴史や思想に関する基礎的知識を身につけ、教育や学校の歴史的変遷を理解すること、(3)上記の二視点に基づき現代の学校教育が抱える諸課題について、自身の教育観に基づいた考察を行うこと、である。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業において受講者は、自らが受けてきた家庭や学校における被教育経験を振り返りながら、教育の本質・目標について歴史的、社会的、思想的背景についての基礎的知識をもとに理解し、教育現場で生じる多様な現代的教育課題について自分なりの教育観に基づいた考察を行い、教師としての責任と使命の自覚を深めることを目指す。</p>						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：「教育」とは何か</p> <p>第2回：「社会」と「学校」</p> <p>第3回：「教師」とは何か</p> <p>第4回：「教育」と「家族」</p> <p>第5回：「教える」と「学ぶ」</p> <p>第6回：教育と再生産</p> <p>第7回：子ども観の歴史的変遷</p> <p>第8回：教育思想史①：ルソーと</p> <p>第9回：教育思想史②：ペスタロッチ</p> <p>第10回：教育と「国家」</p> <p>第11回：教育と「近代」</p> <p>第12回：「いじめ」について考える</p> <p>第13回：「体罰」について考える</p> <p>第14回：教育における「競争」について考える</p> <p>第15回：振り返り：「教育の本質」を批判的に捉える</p> <p>定期試験</p>						

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）』2017年

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

毎時のワークシート（30%）、発表・ディスカッション等での積極性（10%）、期末レポート（60%）

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 前田菜摘			
担当形態：単独						
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応 を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教職の意義や教師の役割、教師像の歴史的変遷に関する基本的な用語・考え方を理解し、これからの時代に求められる教師像を考察することができる。</li> <li>2. 教師の職務内容（研修・服務・身分保障等）に関する基礎的事項を理解し、学校教育に関する新聞記事やニュース等の分析を通して、具体的に教師の仕事の検討を行うことができる。</li> <li>3. ワークライフバランスやキャリア・アンカーなどの概念を理解し、教職生活全体を見通して適切に進路選択の判断を行うことができる。</li> </ol>						
<p><b>【テーマ】</b></p> <p>本授業は、教職の意義や教師の役割、教師像の歴史的変遷、職務内容（研修・服務・身分保障等）に関する基礎的事項を理解することを目的とする。さらに、教職という進路選択に資する各種機会や情報提供を行い、教師をめざす学生が進路選択について自ら検討・判断できるようにする。</p>						
<b>授業の概要</b>						
<p>本授業は、教職の意義、教師の役割・職務内容等に関する基礎的事項を学ぶための入門的な科目である。教師のライフコース全体を見通し、教員養成期・初任期・ミドル期・ベテラン期の各時期に必要な知識を身につけていく。また、統計データや諸外国の事例に基づいて、日本の教師の特性や固有の課題に関する理解を深めていく。そのなかで 教職に対する自らの適性を見きわめ、適切な進路選択の判断が行えるようにする。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回：教師像を探る（オリエンテーション）・ワーク「思い出の中の教師像」						
第2回：教師をめざす（教員養成の歴史・免許制度）・ワーク「教員養成課程の変遷」						
第3回：教職を知る（学校制度）・ワーク「教師の労働条件」						
第4回：待ちに待った「教育実習」／いざ教員採用試験に臨む・ワーク「面接試験にチャレンジ」						
第5回：4年間の総仕上げ「教職実践演習」・ワーク「学習履歴の振り返り（履修カルテ）」						
第6回：教師の1日・1週間／学び続ける教師（研修・専門性）ワーク「教師の仕事を分析しよう」						
第7回：授業づくりに燃える教師（授業）・ワーク「1時間の授業をつくろう」						
第8回：生徒と向き合う教師（生徒指導）・ワーク「いじめについて考えよう」						
第9回：学級経営に打ち込む教師（学級経営）・ワーク「学級通信をつくろう」						

第10回：組織の中で働く教師（学校組織・チーム学校）／法の中の教師（服務）　・ワーク「教師が従うべき命令・規則とは」

第11回：ミドルリーダーとしての教師（ライフコース・人事異動）　・ワーク「これからのミドルリーダー」

第12回：家庭人としての教師（ワークライフバランス）　・ワーク「キャリア・アンカー」

第13回：キャリアの転機・長期派遣研修／教職大学院　・ワーク「キャリアの転機」

第14回：学校経営を極める教師（管理職・地域連携）　・ワーク「SWOT分析」

第15回：未来の教師（理想・専門性）　・ワーク「未来予想図 part II」

#### 定期試験

#### テキスト

元兼正浩監修『教職論エッセンス』花書院、2015年。

#### 参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領及び解説（平成30年度告示 文部科学省）、生徒指導提要（平成22年3月文部科学省）

#### 学生に対する評価

##### 【成績評価の基準】

ワークシートの分量及び内容、発表等の受講態度、期末レポートの分量及び内容

##### 【成績評価の方法】

平常点70%（毎回のワークシート 45%、授業への積極的な参加 15%、受講態度・発表 10%）及び期末レポート30% により総合評価する。

授業科目名： 教育の制度と経営論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 住岡敏弘 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
現代の中等教育に関する制度的ならびに経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題について理解する。なお、制度的、経営的事項との関連のなかで、学校と地域との連携に関する理解を深めるとともに、学校安全への対応に関する基礎知識も身に付ける。						
<b>授業の概要</b>						
本講義では、現代の中等教育制度の意義、原理、構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付け、そこに内在する課題について理解するとともに、学校や教育行政機関が有するそれぞれの目的とその実現の方法について経営の観点から理解する。なお、この講義では、制度的・経営的観点から、学校と地域との連携の意義や地域との協働の方法について理解するとともに、学校保健安全法に基づく危機管理を含む学校安全の目的と具体的取り組みについても理解を深める。						
<b>授業計画</b>						
第1回：公教育の原理と理念						
第2回：公教育制度を構成する教育法規（1）憲法と教育法制度の根本原理と中等教育						
第3回：公教育制度を構成する教育法規（2）教育基本法と教育法規の体系と区分						
第4回：教育行政制度の理念と仕組み（1）国の教育行政制度の理念と仕組み						
第5回：教育行政制度の理念と仕組み（2）地方教育行政制度の理念と仕組み・国と地方の相互関係						
第6回：教育行政制度の理念と仕組み（3）中学・高校の教員給与制度と教育財政制度						
第7回：現代の中等教育制度の特色と課題						
第8回：公教育の目的を達成するための学校経営						
第9回：学校経営過程と学校評価の仕組み						
第10回：学級経営の職務と方法—中学校・高等学校を中心にして—						
第11回：「チーム学校」と教職員間・学校外の関係者／関係機関との連携・協働						
第12回：「開かれた学校づくり」の推進の経緯と必要性						
第13回：コミュニティスクールと地域との連携・協働						
第14回：学校の危機管理と学校安全の必要性と学校保健安全法						
第15回：「第2次学校安全の推進に関する計画」と中学校・高等学校の学校安全計画						
定期試験						

テキスト

現代の教育制度と経営 (2016年4月 岡本徹／佐々木司編著)

参考書・参考資料等

新教育経営・制度論 (2009年2月 佐々木正治／山崎清男／北神正行編著)

教師教育講座 第5巻 教育行財政・学校経営 (2014年4月 古賀一博編)

「教育県大分」創造プラン 2020 改訂版 (2020年3月 大分県教育委員会)

学生に対する評価

定期試験：80%、授業時のコメントペーパー：20%

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中里 直樹・藤田 敦			
担当形態：複数・オムニバス						
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期から児童期、青年期に至る心身の発達過程の特徴とそれに関連する環境要因の影響について説明できる。</li> <li>・ 幼児、児童、及び生徒の学習に関する基礎理論を習得し、説明できる。</li> <li>・ 動機づけ、集団づくり、評価など主体的な学習活動を支え高める指導のあり方についての基礎的な考え方を理解し、説明できる。</li> </ul>						
<b>授業の概要</b>						
教育心理学の性格と課題、研究法、幼児・児童・生徒の発達の過程、学習と動機づけ、学級集団と学級経営、発達障害の理解と指導等に関する教育心理学の理論と技能を体系的に学び、教師に求められる基礎的な資質・能力を身につける。						
<b>授業計画</b>						
第1回：教育心理学の意義と課題（中里）						
第2回：教育心理学の研究法（中里）						
第3回：幼児期・児童期の発達過程（1）：知的発達（中里・藤田）						
第4回：幼児期・児童期の発達過程（2）：愛着の発達（中里）						
第5回：青年期の発達過程（中里）						
第6回：学習の基礎理論（中里・藤田）						
第7回：学習理論の応用（中里・藤田）						
第8回：記憶・思考の理論（中里・藤田）						
第9回：動機づけの理論（中里）						
第10回：教育における評価（中里）						
第11回：人間の発達に関する諸理論（中里）						
第12回：パーソナリティと適応（中里）						
第13回：発達障害、学習障害の理解と指導（中里）						
第14回：学級集団の構造と学級経営の理論（中里）						
第15回：学校カウンセリング（中里・藤田）						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
やさしい教育心理学 第5版（鎌原雅彦・竹綱誠一郎著、有斐閣、2019年）						

適宜、配布資料も用いる。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

新・教職課程演習 特別活動・生徒指導・キャリア教育（藤田晃之・森田愛子編著、協同出版、2021年）

学生に対する評価

授業への積極的参加（ライティング課題、質問等）50% 期末試験50%

授業科目名： 特別支援教育論B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：古賀精治、衛藤 裕司、古長治基 担当形態：オムニバス			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を説明できる。</p> <p>2. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する特別の教育課程や支援の方法を説明できる。</p> <p>3. 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について述べることができる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
通常学級に在籍する様々な障害（発達障害・軽度知的障害など）のある幼児、児童及び生徒に関し、学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対応するための、組織的連携や必要な知識・支援方法について学ぶ。						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：特別支援教育に関する制度（担当：古長治基）</p> <p>第2回：様々な障害の学習上又は生活上の困難（担当：古長治基）</p> <p>第3回：発達障害等のある幼児児童生徒の理解（担当：古賀精治）</p> <p>第4回：発達障害等のある幼児児童生徒への支援（担当：古賀精治）</p> <p>第5回：通級による指導と自立活動（担当：衛藤裕司）</p> <p>第6回：個別の指導計画と個別の教育支援計画（担当：衛藤裕司）</p> <p>第7回：発達障害等のある幼児児童生徒への支援体制（担当：衛藤裕司）</p> <p>第8回：その他の特別なニーズのある幼児児童生徒（担当：古賀精治、衛藤裕司、古長治基）</p>						
<b>テキスト</b>						
「改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引－解説とQ&A－」文部科学省著、海文堂出版、ISBN: 978-4-303-12416-8						
<b>参考書・参考資料等</b>						
<p>「小学校学習指導要領・小学校学習指導要領解説（平成29年4月告示）」文部科学省</p> <p>「中学校学習指導要領・中学校学習指導要領解説（平成29年4月告示）」文部科学省</p>						
<b>学生に対する評価</b>						
3回の小テストまたはレポート（90%）、1回のレポート（10%）により、総合的に評価する						

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 清水良彦 担当形態：単独			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p><b>【到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育課程に関する基本的な用語・概念、教育課程の歴史的変遷、学習指導要領の変遷、現行学習指要領の基本的な考え方を理解し、今後の教育課程の在り方を考察することができる。</li> <li>具体的な授業実践について、カリキュラム研究・授業研究等の知見に基づいて批評するとともに、ループワークを通して解釈・分析を深めることができる。</li> </ol> <p><b>【テーマ】</b></p> <p>この授業は、教育課程の基本概念と教育課程編成の原理、教育課程の歴史的変遷と学習指導要領の変遷を理解すること、またそれらについて基本的な考え方・用語・概念を理解した上で、今後の教育課程の在り方を考察することを目的とする。</p>						
<p><b>授業の概要</b></p> <p>① 教育課程の基本概念と教育課程編成の原理、教育課程及び学習指導要領の変遷を理解する。      ② カリキュラム開発及びカリキュラム評価の方法を理解し、単元計画を作成する。      ③ 本科目はパワーポイントを使用した解説を中心に、テキスト資料、映像資料に基づいた考察や授業記録の検討、グループワークなどの学習活動を行う。</p>						
<b>授業計画</b>						
第1回 オリエンテーション／ワーク「思い出の授業」 第2回 教育課程とカリキュラム／映像資料「サドベリーバレースクール」の検討 第3回 教育課程編成の原理：経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラム 第4回 学習指導要領の変遷とその背景／小テスト「学習指導要領の変遷」 第5回 現行学習指導要領の特色／小テスト「現行学習指導要領」 第6回 学力とは何か、OECDの能力構想／ワーク「基礎学力の再検討」 第7回 教科書、副教材と著作権／ワーク「教科書分析」 第8回 カリキュラムマネジメント（開発・実施・評価）の方法／課題「単元計画づくり」						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
文部科学省『中学校学習指導要領 総則編』（平成29年3月公示）						
文部科学省『高等学校学習指導要領 総則編』（平成30年3月告示）						

参考書・参考資料等

元兼正浩監修『教育課程エッセンス』花書院, 2019年。

元兼正浩監修『最新版 教育法規エッセンス』花書院, 2020年。

その他は授業中に紹介する。

学生に対する評価

**【成績評価の基準】**

ワークシートの分量及び内容、発表等の受講態度、期末レポートの分量及び内容

**【成績評価の方法】**

平常点70%（毎回のワークシート 45%、授業への積極的な参加 15%、受講態度・発表 10%）及び定期試験30% により総合評価する。

授業科目名： 総合的な学習の時間の 理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 牧野治敏 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>テーマ：総合的な学習の時間と他教科との関連に着目し、効果的な学習活動を設計するための基礎的な知識・技能を身につける。</p> <p>到達目標：総合的な学習（探究）の時間の役割を、中学校・高等学校で育成すべき資質能力の観点から説明できるとともに、地域の事象を教材として、教科横断的な観点を持ちながら、他の意見を尊重しつつ学習し、深い理解をえられる授業を設計できる。</p>						
<b>授業の概要</b>						
総合的な学習の時間について、学習指導要領、学習指導要領解説編に沿って、各学校の実践事例を紹介しながら講義するとともに、講義内容を踏まえて自らの指導を想定した授業案をグループで設計する。また、作成した授業案をピアレビューにより完成度を高め模擬授業を行う。						
<b>授業計画</b>						
<p>第1回：総合的な学習の時間の学習指導要領上の位置づけについて（講義）</p> <p>第2回：探究的な学習活動と課題解決学習について（講義）</p> <p>第3回：中学校・高等学校での年間指導計画に基づいた実践事例の紹介（講義）</p> <p>第4回：総合的な学習の時間における評価の考え方と具体的な手法について（講義）</p> <p>第5回：授業案を作成するための調べ作業（個別作業）</p> <p>第6回：授業案作成の実習（グループワーク）</p> <p>第7回：作成した授業案のピアレビューとジグソー法による情報の共有（グループワーク）</p> <p>第8回：模擬授業、授業の振り返り（グループワークと講義）</p>						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年3月）文部科学省						
<b>参考書・参考資料等</b>						
中学校学習指導要領（平成29年3月）、高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成21年7月）文部科学省						
<b>学生に対する評価</b>						
定期試験（50%）						
毎回の授業の最後に提出する小レポートまたはグループワークによる制作物（50%）						

授業科目名：特別活動の方法と理論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：長須 正明			
担当形態：単 独						
科 目	教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ・特別活動の方法と理論					
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>						
特別活動は、学校における様々な集団での活動体験を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。この授業では学校教育全体における特別活動の意義を理解し「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、各学年における活動の変化、各教科等との関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けることを目標とする。あわせて、現在の学校における特別活動の諸問題について教員としての視点から自分の考えをもち、それを諸法規・諸規定に照らし、現実に即して「なぜそうするのか？」を自分の言葉で表現し、説明できるようになることが到達目標である。						
<b>授業の概要</b>						
中等教育の教育課程における特別活動の位置づけを理解する。そのうえで、中等教育の特別活動の目標や各内容の機能や課題を理解する。さらに、指導計画・内容の取扱いを理解しながら指導案づくりに取り組む。特別活動を実践できる知識や技能の修得を目指す。実際の学級活動／ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事について、映像教材等を用いてケース・スタディとして、具体的に「特別活動」を理解できるように配慮する。						
<b>授業計画：</b>						
第1回 特別活動とはなにか？						
第2回 特別活動の目的と今日的意義・・学習指導要領から考える						
第3回 特別活動の本質と内容						
第4回 学級集団の形成と組織類型論から見た学級						
第5回 学級指導と目的としてのリーダーシップ						
第6回 特別活動の指導方法（1）方法としての集団活動と集団の規範						
第7回 特別活動の指導方法（2）集団活動の進め方						
第8回 特別活動の実際（1）学級活動（H R活動）						
第9回. // (2) 児童会・生徒会活動（クラブ活動）						
第10回. // (3) 学校行事						

- 第11回. 特別活動の指導案をつくる（1）学級活動・・キャリア教育を中心にして  
第12回. 特別活動の指導案をつくる（2）生徒会活動／学校行事を中心にして  
第13回. 特別活動を通して何が得られるのか～あらためて「教育」を問う  
第14回. 特別活動と道徳・総合的な学習の時間の関係  
第15回. 授業のまとめとレポートの作成について

#### テキスト

とくに使用しない（授業担当者が作成したプリント資料とワークシートを使って授業を展開）

#### 参考書・参考資料等

藤田晃之編 2017『中学校新学習指導要領の展開 平成29年版特別活動編』、明治図書出版。

文部科学省 2019『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』、東京書籍。

河村茂雄編 2018『特別活動の理論と実際』、図書文化社。

その他、プリント等を適宜配布する

#### 学生に対する評価

成績の評価は授業時のコメント・ペーパー（50%）と学期末のエッセイ（50%）による。評価のポイントは問題意識、自己の経験や現実をふまえた意見の展開、諸法令・法規を踏まえたうえでの発想の柔軟性と豊かさ。より楽しい学校にするための学級づくり、人とのつながりなどに役立つユニークな意見、経験に基づく大胆な発想を大いに期待している。毎時間出席して、事例について考え、ディスカッションに参加することが求められる。

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 清水良彦 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p><b>【授業の到達目標】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>教育方法に関する基本的な用語・概念を理解する。</li> <li>授業実践や学びについて授業デザインや教材の開発、教師教育などの幅広い視点から考察することができる。</li> <li>グループで協働して学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を実施することができる。</li> <li>具体的な授業実践について、グループワークを通して解釈・分析を深めることができる。</li> </ol> <p><b>【テーマ】</b> 授業づくりのための理論と実践</p>						
<b>授業の概要</b>						
この授業は、①教育方法の理論と実際について、基本的な学習論の用語・概念を理解した上で、②授業実践に対する見方や考え方（実践的見識）を身につけることを目的とする。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション：教育方法とは（授業を構成する要素と基礎的理論）						
第2回：授業の今日的な課題：これからの中学校に求められる資質能力とその育成のための教育方法						
第3回：授業デザインの考え方と方法／模擬授業づくり①（個人ワーク）						
第4回：教科書・副教材と授業づくり／模擬授業づくり②（グループワーク・教科ごと）						
第5回：模擬授業をやってみよう：各教科・各グループの模擬授業①						
第6回：模擬授業をやってみよう：各教科・各グループの模擬授業②						
第7回：授業研究の方法(1)授業研究・授業分析の原理と方法／授業記録の検討						
第8回：授業研究の方法(2)授業分析を踏まえた指導案の改善／講義のまとめ						
<b>定期試験</b>						
<b>テキスト</b>						
文部科学省『中学校学習指導要領 総則編』（平成29年3月告示）						
文部科学省『高等学校学習指導要領 総則編』（平成30年3月告示）						
<b>参考書・参考資料等</b>						
元兼正浩監修『教育課程エッセンス』花書院、2019年。						
元兼正浩監修『最新版 教育法規エッセンス』花書院、2020年。その他は授業中に紹介する。						
<b>学生に対する評価</b>						

平常点 50% (毎回のワークシート 40%、受講態度・発表 10%)

模擬授業 25% (学習指導案15%、模擬授業10%)

定期試験 25% (期末レポート) により総合評価する。

授業科目名：情報通信技術を活用した教育の理論と方法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：1単位	担当教員名：中原久志 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法では、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導方法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。						
<b>授業の概要</b>						
学校教育におけるICTの利用に関して理論やその背景を理解し、教育活動において効果的に活用できるための基礎的内容を取り扱う。						
<b>授業計画</b>						
第1回：個別最適な学び、協働的な学び、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善のための情報技術の活用の意義と在り方						
第2回：特別な支援を必要とする児童生徒に対する情報技術を活用した指導、外部人材・機関との連携の在り方						
第3回：情報通信技術を効果的に活用した指導事例・実践事例						
第4回：校務支援システムの効果的活用と学習履歴、学習評価、教育情報のセキュリティについて						
第5回：遠隔・オンライン教育の意義とシステム構成						
第6回：教科の特性に応じた情報活用能力（情報モラルを含む）とその指導方法について						
第7回：生徒に対する情報通信機器の基本操作の指導方法						
第8回：前半：情報通信技術を活用した授業設計・教材作成／後半：定期試験						
<b>テキスト</b>						
高等学校学習指導要領						
<b>参考書・参考資料等</b>						
教員が配布する						
<b>学生に対する評価</b>						
レポート等の課題（50%），試験（50%）						

授業科目名： 生徒指導の理論と方法 (進路指導を含む。)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 長谷川祐介					
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生徒指導の意義と原理を理解する。</p> <p>学校におけるいじめや不登校など問題行動への対応について理論や指導方法を理解する。</p> <p>進路指導とキャリア教育の意義ならびに指導のあり方について理解する。</p>								
<p>授業の概要</p> <p>学校教育における生徒指導に関する意義や児童生徒理解と指導の実践方法に関する学習、ならびに進路指導ならびにキャリア教育の意義と指導に関する学習を通して、学校教員として求められる実践的指導力の基礎を培う。また受講生同士による意見交換等を通して、生徒指導や進路指導・キャリア教育における具体的な指導・支援の方法を受講生が主体的に考え、理解することを目指す。</p>								
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導とは何か：生徒指導の定義</p> <p>第2回：生徒指導の構造：2軸3類4層構造</p> <p>第3回：生徒指導の方法：児童生徒理解、集団指導と個別指導、ガイダンスとカウンセリング、組織的対応</p> <p>第4回：生徒指導の基盤：同僚性、マネジメント、家庭・地域の参画、児童生徒の権利</p> <p>第5回：生徒指導と教育課程：教科、道徳、特別活動等における生徒指導</p> <p>第6回：生徒指導体制：生徒指導の組織、教育相談体制、危機管理体制</p> <p>第7回：生徒指導に関する法令：校則、懲戒、体罰</p> <p>第8回：問題行動への対応（1）：いじめ、不登校</p> <p>第9回：問題行動への対応（2）：今日的な課題と関係機関との連携</p> <p>第10回：進路指導・キャリア教育（1）教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け</p> <p>第11回：進路指導・キャリア教育（2）学校の教育活動全体を通じたキャリア教育</p> <p>第12回：進路指導・キャリア教育（3）進路指導・キャリア教育の指導体制</p> <p>第13回：進路指導・キャリア教育（4）職業に関する体験活動</p> <p>第14回：進路指導・キャリア教育（5）ガイダンス機能を生かした進路指導・キャリア教育</p> <p>第15回：進路指導・キャリア教育（6）児童生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題への対応</p>								

テキスト

文部科学省（2022）『生徒指導提要（改訂版）』

参考書・参考資料等

文部科学省（2011）『中学校キャリア教育の手引き（改訂版）』

学生に対する評価

課題レポート：60% 授業時のコメントペーパー：40%

授業科目名： 教育相談の理論と実際	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高橋淳一郎 担当形態：単独			
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>						
<p>1. 中学校や高等学校の現場で起こる様々な教育相談に関わる諸問題について、背景としての社会的課題を踏まえながら理解を深める。</p> <p>2. 中学生や高校生に発生しやすい心理的な問題について理解する。</p> <p>3. 学校現場で起こる教育相談上の諸問題について、教師として学校での生徒や保護者への対応や支援のあり方、教職員・スクールカウンセラーとの連携のあり方、外部専門機関との連携など、実際の事例を挙げながら実践的に学ぶ。</p>						
<b>授業の概要</b>						
中学校や高等学校の現場で遭遇する種々の問題に対処するために、カウンセリングの基礎的知識を含む基本的・実践的な考え方や態度・技法を身につける。具体的な事例について教育臨床的な視点から問題を理解し、対応のあり方について具体的に論じる。						
<b>授業計画</b>						
第1回：オリエンテーション・現代社会における教育相談の意義						
第2回：子どもの発達の特徴と思春期の理解						
第3回：思春期に起こりやすい発達上の諸問題						
第4回：虐待の原因と子どもへの影響						
第5回：不登校の子どもの理解とかかわり						
第6回：いじめへの対応						
第7回：発達障害の理解とかかわり①（発達障害とは・知的障害・学習障害）						
第8回：発達障害の理解とかかわり②（ADHD・自閉症スペクトラム）						
第9回：暴力行為と非行問題の理解						
第10回：カウンセリングの基本的理論						
第11回：カウンセリングの基本的技法						
第12回：アセスメントの方法						
第13回：カウンセリングにおける予防・開発的援助① (理論と概要・ソーシャルスキルトレーニング)						
第14回：カウンセリングにおける予防・開発的援助② (対人関係ゲーム・構成的グループエンカウンター)						

第15回：スクールカウンセラーおよび外部機関との連携

定期試験

テキスト

「現代の子どもをめぐる発達心理学と臨床」 次良丸睦子・五十嵐一枝・相良順子・芳野道子・高橋淳一郎(編著) 福村出版

参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介する

学生に対する評価

授業後に提出するリアクションペーパーの記載内容をトータルで30%、定期試験を70%として評価する。

## シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習	単位数：2 単位	担当教員名：住岡 敏弘
科 目	教育実践に関する科目（教職実践演習）	
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握（※1） ○ 学校現場の意見聴取（※2） ○
受講者数 355人（最大），受講者は学部・学科（プログラム）ごとにクラス分けする。1クラスは、おおむね20人程度。		
<b>教員の連携・協力体制</b>		
担当教員の他に、教職実践演習を履修する学生が所属する学部・学科の教員、教職経験のある実務家教員も加わり、教職に関する教員と教科に関する教員が指導を実現できる体制を構築する。また、大分県教育委員会及び大分市教育委員会との連携により、教職経験のある教員の指導を可能にしている。		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教員の使命及び生徒への責任を理解する。</li> <li>2. 教員としての基本（教育的愛情、倫理観、社会性、及び対人関係能力等）を身に付ける。</li> <li>3. 生徒の発達の過程及び学習の定着状況を把握する方法を理解する。</li> <li>4. 教科内容等の専門知識を十分にもち、確かな指導技術を身に付ける。</li> <li>5. 学級経営を行い、生徒を一つの集団にまとめていく実践的な指導技術を身に付ける。</li> <li>6. 授業を行う上での基本的な表現力を身に付ける。</li> </ol>		
<b>授業の概要</b>		
1年次より学びの記録を蓄積してきた履修カルテを手掛かりとして活用し、教職課程（教職に関する科目、教科に関する科目）の履修及び教育実習を通じて、教員としての必要な資質能力が形成されているかを最終的に確認する。授業は、教職担当教員がとりまとめ役となり、履修する学生が所属する学部・学科の教員が共同で担当する。第2回および第12回～第14回では市教委・実務家教員が指導を行う。		
<b>授業計画</b>		
第1回：オリエンテーション		
第2回：「現代の教育問題 期待される教師像」についての講義（実務家教員の参画）		
第3回：グループによる事例研究（事例決定）		
第4回：グループによる事例研究（グループ討議と発表原稿の作成）		
第5回：グループでの研究発表と討論		
第6回：グループごとのロールプレイ（全体説明、デモンストレーション）		
第7回：グループごとのロールプレイ（場面設定とディスカッション用紙の作成）		
第8回：グループごとのロールプレイ（場面設定と自己評価作成）		
第9回：学級経営について（校長の講義及びまとめ）		
第10回：学級経営について（学級経営についてのディスカッション、小レポート）		
第11回：模擬授業：わかる授業・伝える授業の構想・指導案の作成		
第12回：模擬授業：模擬授業の実施（グループ1、グループ2）・討論（実務家教員の参画）		
第13回：模擬授業：模擬授業の実施（グループ3、グループ4）・討論（実務家教員の参画）		
第14回：模擬授業：模擬授業の実施（グループ5、グループ6）・討論（実務家教員の参画）		
第15回：これからの学校教育と自己の課題について（討論）		

テキスト

特になし。適宜資料を配付する。

参考書・参考資料等

高等学校学習指導要領、中学校学習指導要領

学生に対する評価

- 事例研究・ロールプレイ・学級経営・模擬授業に関する小レポート (80%)
- 最終レポート (20%)

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。